

ANUAL REPORT 2013-2014

第23期 [2014年5月31日終了年度]
第24期 [2015年5月31日終了年度]



JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

CONTENTS

■ 都市環境デザイン会議の2013～2014年	
代表幹事会（2013・2014）	02
■ 各ブロックの活動	
北海道ブロック（2013・2014）	06
東北ブロック（2013・2014）	08
北陸ブロック（2013・2014）	12
関東ブロック（2013・2014）	16
中部ブロック（2013・2014）	20
関西ブロック（2013・2014）	24
中国ブロック（2013・2014）	28
四国ブロック（2013・2014）	30
九州ブロック（2013・2014）	32
■ 委員会の活動	
コミュニケーション委員会（2013・2014）	34
事業委員会（2013・2014）	38
国際委員会（2013）	44
JUDI復興未来会議（2013・2014）	46
■ プロジェクト活動	
都市ブランドを創造する屋外広告物の研究（2013）	48
海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発（2013・2014）	50
歩行者空間デザインの可能性を探る（2013・2014）	60
語り継ぐ「日本の都市環境デザイン」の系譜（2013・2014）	64
隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える（2013・2014）	65
日台交流シンポジウム（2014）	66
景観デザインマップ品川（2014）	70
災害の記憶継承に資する都市環境デザインの役割（2014）	72
歩行者空間による中心市街地の構成（2014）	74

Archive

各プロジェクト活動のページで、左の「Archive」マークのついているものは、JUDI ホームページのアーカイブ・プロジェクトのページ（<http://www.judi.gr.jp/menu-3-4.html>）にレポート等が公開されていることを示しています。

代表幹事会

1. 第23期の概要

第23期の代表幹事会は、昨期から継続し、支出超過の事業体質の改善と地方ブロックのみならず JUDI 全体の活性化と改善を図る取り組みを行った。「定例総会」は、形式として行う審議と、JUDI 全体が直面する問題・課題を共有し、議論を深めるためのシンポジウムなど企画を分離することとした。「定例総会」は議案審議とその後の報告・協議のみの簡素化なものとし、経費削減の為、代表幹事およびブロック幹事への交通費支給を取り止めとした。その一方、「全国大会」を2013年9月14日(土)から16日(月・祝)に福岡(アクア博多・アクロス福岡)で第1回を開催した。大会は、九州ブロックが企画運営を行い、代表幹事会がサポートし成功裏のうちに終えることができた。会員および事業費の減少が会を衰退させる中で、メリハリのある運営に努めた。

通常の活動としては、総会で承認された活動計画及び予算に基づき、原則月一回「代表幹事会」を開催し、「プロジェクト型活動方式」の審査をはじめ予算執行にかかる検討、JUDIの活性化方策の検討、会費の値下げと予算配分の検討等を進めた。残念ながら、会費値下げについては早急な対応が難しく継続審議となり実現に至っていない。第22期に会員増強を目途に新たに準会員[学生]制度を制定し、第23期に本格的な導入と大学会員を通じて学生の入会促進を図った。

3カ年かけて取り組んだ JUDI のあり方検討の最終期となったが、その成果を得る前に、代表幹事会そのものの運営に問題が生じた年でもあった。Skype 会議を中心として交通費の縮減を図り実現したものの、その一方で、Skype での会議進行がスムーズにいかず、議論も深めることができなくなった。代表幹事会の開催方法に課題が生じた。また、期の半ばに代表幹事が離脱する事態が起こり、規約の不備はもとより、代表幹事会の運営の根本を見直さざるを得ない状況が生じた。JUDI 活動の活性化と改善に取り組みに一定の成果が得られたが、様々な問題が露見した1年であった。

2. 定例総会

「第23期定例総会」は、2013年7月6日(土)13:30～14:40に関西にて行った(会場:キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田1-2-2-400))。第22期の活動報告・収支報告、第23期の活動計画・収支計画、規約および内規の改正が審議され、いずれも承認された。

会 員 数	正 会 員	準 会 員	特別会員	協力法人
2013.05.31	355 名	9 名	12 名	11 社

規約および内規の改正は以下のとおり。

■規約改正：書面等による議決権の行使(第20条第3項)

■内規改正:準会員のうち学生についての会費の軽減、退会後に特別会員への復帰

総会終了後に「プロジェクト創出ワークショップ」が開催され活発な意見交換がなされた。

3. 代表幹事会

第23期の代表幹事会は経費削減のために Skype 会議を中心に計10回開催した(Skype 会議7回、東京会議3回)。

■第240回 [Skype] 6月14日(金) 出席:10名

第23期定例総会準備、「復興未来会議」、全国大会準備状況、など。

■第241回 [Skype] 8月5日(月) 出席:9名+須田事業委員長

第23期定例総会の総括、準会員(学生)の支援、代表幹事の役割分担、全国大会(今期・来期)、プロジェクト募集、など。

■第242回 [Skype] 9月25日(水) 出席:8名

全国大会の総括、プロジェクト審査、準会員(学生)の募集促進、CPD申請、など。

■第243回 [東京] 10月18日(水) 出席:9名

あり方検討会(会費の改定、予算配分の見直し、外部資金の活用等)、学生向けインターンシップ、など。

■第244回 [Skype] 11月25日(月) 出席:8名

選挙管理委員任命、会費値下げ・活動資金確保、プロジェクト審査、JUDIパンフレット作成、など。代表幹事1名辞任届提出。

■第245回 [Skype] 12月11日(月) 出席:7名

選挙管理委員任命、会費値下げ・活動資金確保、プロジェクト追加募集、上半期収支報告、など。

■第246回 [東京] 1月22日(水) 出席:10名

JUDI改革、JUDIパンフレット作成、選挙管理委員任命、プロジェクト追加審査、会費未納者対応、など。

■第247回 [Skype] 3月7日(金) 出席:9名

総会準備、委任状・書面表決、特別会員資格年齢変更、役員選挙、JUDIパンフレット作成、全国大会日程、あり方検討会、など。

■第248回 [Skype] 4月18日(金) 出席:9名

総会準備、役員選挙、JUDIパンフレット、など。

■第249回 [東京] 5月14日(金) 出席:7名+代表幹事候補2名

総会準備、会費と会員制度、来期事業計画、全国大会、

など。

4. 第1回全国大会の支援

定例総会を簡素化し、その代わりに会員の誰もが参加しやすくブロック・グループ・個人が成果を発表し議論を深めることで JUDI の活性化を狙いとした全国大会が実施された。第1回は9月14～16日の3日間、福岡市で九州ブロックが幹事ブロックとなり開催された。代表幹事会は、プロジェクト報告会の当日の進行と「あり方検討会」の公開討論会をになった。



■プロジェクト報告会

第22期より応募資格を正会員個人を基礎として幅広く柔軟にプロジェクト募集を行ってきたが、その発表の場・意見交換の場がなかった。そこで、新たに設けた全国大会の場で、プロジェクトの成果発表を行い、成果の共有と会員の知見を深める機会にした。発表は以下の8プロジェクト。

- ①博多まちづくりシンポ（九州）
- ②屋外広告物の研究（関東・関西）
- ③有福温泉の復興（中国）
- ④海辺集落の復興調査（関西・九州・北海道）
- ⑤自主復興の実態調査（関西）
- ⑥復興計画提案づくり（中部）
- ⑦歩行者空間デザイン（関西・北海道・関東）
- ⑧メンバーズポートフォリオ（事業委員会）



■あり方検討会・公開討論会

代表幹事および代表幹事経験者有志が中心となって JUDI の組織・活動を根本から見直す「あり方検討会」が昨年、その成果として「ミッション」や「ビジョン」を提案した。その成果を全国大会の公開の場で、各ブロックの若手に登壇いただき、率直に意見し真摯に議論することで、その共有を図り、JUDI の活性化を考える公開討論会を行った。

パネラーは、北海道 B：高森篤志氏、関東 B：高橋芳文氏、北陸 B：山岸敬広氏、関西 B：工藤勉氏、九州 B：山本英治氏の5名。コーディネーターは、代表幹事の酒本宏氏が務めた。



5. あり方検討会

3年目となる今期は1回開催し、現在・将来において JUDI が直面する問題・課題を提言し、そして昨年策定した名称の定義、ミッション、ビジョンを再確認し、活動を終えた。

■第8回あり方検討会【最終回】 5月31日(土) @ 東京エレクトロンホール宮城（仙台） 参加：8名

提言内容：

- ・今後、全国の多くの地方都市では、人口減少に起因する様々な問題が顕在化する。
- ・その問題とは、①増加する空き地と空き家の対策（全国の地方都市に共通）、②その問題を前提とした地方都市空間の再編成、③人口減少時代の自立可能な地方経済の再構築、④集落撤退（消滅）の対応（撤退方法や現状の記録）、⑤地域の負荷となる公共施設の運営方法、である。
- ・これらの問題は国レベルの研究課題であり、今後、JUDI としても取り組む価値がある。ブロックごとやブロック共同体制でこの研究に取り組み、公的な研究予算の獲得を目指したい。
- ・今後の JUDI のあり方は、上記のような社会的に重要な課題を設定して運営を行うことがひとつの姿であり、それによって社会に対するメッセージ性を高めて行く必要がある。
- ・さらに、各ブロックが主体的に活動に取り組むボトムアップ型の活動とし、代表幹事会や委員会がその活動を補佐・支援する運営方法が望ましい。こうすることによって、自ずと JUDI 全体の活動の方向が刷新されることにつながると思う。

代表幹事会

1. 第24期の概要

第24期の代表幹事会は、役員改選を経て半分が新役員となった。昨年までの運営を振り返り、JUDI及び代表幹事会の課題を整理し、懸案事項について具体的に行動し解決を図るよう期初めに確認してスタートした。その成果として、公募型プロジェクト助成金の運用改善、代表幹事会の活性化と議論の深化、代表幹事自らが地方に出向き活性化を図る「押しかけ代表幹事会」の実施の3つがあげられる。その他、7月の定例総会、10月の全国大会、毎月の代表幹事会、パブリックデザインコンソーシアム設立についての意見交換、などを行った。

2. 定例総会

「第24期定例総会」は、2014年7月26日(土)13:30～15:15に東京にて行った(会場：日本大学駿河台キャンパス(東京都千代田区神田駿河台1-8-14))。第23期の活動報告・収支報告、第24期の活動計画・収支計画、規約および内規の改正、新役員改選を行い、いずれも承認された。総会後の意見交換では、会員数減少への歯止め、プロジェクト型の活動の一層の推進やJUDIの活性化など活発な議論が交わされた。

会 員 数	正 会 員	準 会 員	特別会員	協力法人
2014.05.31	323 名	75 名	15 名	10 社



3. 代表幹事会

第24期は、可能な限り直接会い、議論し交流することが必要だと確認し、半分はSkype会議5回として交通費を節約するものの、残り半分は東京会議3回、大阪会議1回、沖縄会議1回とし、計10回開催し議論と交流を図った。代表幹事自らが各所に出向いた。

■第250回6月13日(金)[Skype] 出席：9名+次期幹事4名

定例総会の活動方針・収支決算等、JUDIパンフレットについて検討。

■第251回7月26日(土)[東京] 出席：9名

代表幹事の役割と責務、代表幹事会の運営、各委員会とブロック、第24期活動計画の主要懸念事項について、前代表幹事からの申送り事項、再任・新任代表幹事の昨

年の活動の総括と今年度の活動目標について検討。

■第252回8月29日(月)[東京] 出席：9名

代表幹事会の運営、第24期定例総会の総括、プロジェクト型募集要項、あり方検討会の提言への対応、全国大会、JUDIホームページの再編等について検討。

■第253回9月24日(金)[Skype] 出席：8名

全国大会、ブロック活動・委員会活動の報告、公募型プロジェクト募集、年間スケジュールについて検討。

■第254回10月17日(金)[東京] 出席：7名+須田事業委員長・堀口監査役

全国大会・札幌の総括、2014公募型プロジェクト、代表幹事会の開催、CPDの申請、委員会報告(事業委員会、復興未来会議、

コミュニケーション委員会)について検討。

■第255回11月25日(火)[Skype] 出席：8名

JUDI情報発信の改善案、次年度の全国大会、ブロック・委員会活動、公募型プロジェクト、会費口座引き落としについて検討。

■第256回12月12日(金)[東京] 出席：8名+東北ブロック2名

情報発信、全国大会・東北、公募型プロジェクト、情報発信の改善策について検討。

■第257回1月23日(金)[Skype] 出席：7名

公募型プロジェクト、2015全国大会石巻の日程、押しかけ代表幹事会in琉球B企画、次期定例総会について検討。

■第258回3月5日(木)[Skype] 出席：8名

次期の定例総会(7/25関西)、全国大会(2015・10/2～10/4)、5月押しかけ代表幹事会in琉球B企画について検討。ブロック・委員会活動について意見交換。

■第259回4月24日(金)[関西] 出席：8名+関西ブロック4名

次期定例総会の議題、次期ブロック活動費配分、押しかけ代表幹事会in琉球企画、会費長期滞納者、ホームページ・委員会活動について検討。

■第260回5月24日(金)[沖縄] 出席：9名+琉球ブロック3名+東北ブロック2名

次期定例総会、ホームページの見直し、ブロック活動・委員会活動について検討。



4. 第2回全国大会 in 札幌の支援

第24期全国大会は、2014年10月3日(金)～5日(日)札幌市においてソーシャルデザイン・コミュニティデザインをテーマに開催され、全国から会員32名、一般約20名の参加があり、公募型プロジェクトの発表会や「これからの都市デザイン」について討議を行い、親睦を深めた。最終日のエクスカーションは、北海道のランドスケープや産炭地の景観を巡った。



5. 公募型プロジェクト助成金

■成果発表会

第23期に募集した公募型プロジェクトの成果発表を全国大会(札幌)にて行った。次の9つのプロジェクトで、どれもユニークな取り組みで興味深い発表であった。

①都市ブランドを創造する屋外広告物の研究(その2)、②歩行者空間デザインの可能性を探る(その2)、③隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える、④自転車の似合うまちづくりー白山市鶴来における実験的試み、⑤JUDIメンバーズ・ポートフォリオとブロック・パンフレット作成、⑥全国まちカレ大会の中の橋商店街ワークショップ・プロジェクト、⑦地震や津波による被害からの海辺集落の復興に関する調査(その2)、⑧海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発、⑨語り継ぐ「日本の都市環境デザイン」の系譜



■第24期募集・審査

第24期の募集・審査は、名称・要項を変更し募集開始を遅らせた為、応募が低調で3次募集を1月まで行った。しかしながら、その応募は多様でユニークなテーマが計9つ揃った。

①日台交流シンポジウム「京都・台中 ～ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」、②自転車の似合うまちづくり-2nd Stage-、③海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発(その

2)、④隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える(第2回)、⑤語り継ぐ「日本の都市環境デザイン」の系譜、⑥歩行者空間デザインの可能性を探る その3ー姫路駅北地区歩行者空間整備を対象に、⑦景観デザインマップ in 品川区他、⑧災害の記憶継承に資する都市環境デザインの役割、⑨歩行者空間による中心市街地の構成ーイタリア、ドイツの事例を参考に日本の現状と可能性を探る。

6. 押しかけ代表幹事会 in 琉球

「押しかけ代表幹事会」は、代表幹事会を地方ブロックで開催し、合わせてブロックイベントに代表幹事自らが参加することで、相互の交流とブロック活動の活性化を狙いとしている。その第1回を琉球ブロックで開催した。

■開催日：5/22(金)～23(土)

■参加：【代表幹事】稲田、井上、尾辻、工藤、高原、玉森、富岡、松山、中村(事務局)、【東北B】栗原、峯、【琉球B】新嘉喜、石嶺、木下、前原

■5/22 代表幹事会&琉球ブロック交流会 in 沖縄

■5/23AM 沖縄まちあるき 2015

約3時間余りと短い時間に、沖縄の歴史・基地問題・新都市をザックリと視察した。沖縄の今と歴史風土を垣間見ることができ、とても濃い視察となった。【コース】那覇新都心→国指定重要文化財・中村家と大城集落→西普天間住宅地区→港川外人住宅地→天久クレセント

■5/23PM シンポジウム『沖縄における21世紀型のまちづくり』 会場：県立博物館・美術館

報告1「蒸暑地域の住まいづくりー現状と取り組みー」 NPO法人 蒸暑地域住まいの研究会 松田まり子

報告2「グローバルに環境建築を考える」

JUDI 関西/(株)HAT デザイン事務所 高原浩之

報告3「新都心で木造住宅に暮らす」 JUDI 琉球/銘苅新都心自治会長

報告4「農地を都市に組み込む活動“ART in FARM”」

JUDI 関東/(株)背景計画研究所 井上洋司

討議 コーディネーター：石嶺一(琉球ブロック)



北海道ブロック

■ 2013・2014 年度の概要

2013・2014 年度は、「路面電車とまちづくりトータルデザインフォーラム」「奥尻島現地視察調査」「JUDI 全国大会 in 札幌」「ミニフォーラム（バリーシェルトン氏講演）」を実施した。奥尻島現地調査は JUDI 復興の姿研究会の活動の一環であり、JUDI 関西のメンバーとの共同開催となった。また、2014 年度の JUDI 全国大会は札幌での開催となり、全国から約 50 名のご参加を頂き盛況のうちに終了した。

1. 路面電車とまちづくりフォーラム

場 所：札幌コピキタス協創広場 U-cala

開催日：2013 年 5 月 31 日（金）

参加者：登壇者 5 名

参加者 42 名

概 要：札幌市に新たに登場した新デザインの路面電車はワークショップ等により検討され札幌市民の意見が反映されている。また、単に電車のデザインだけではなく路線や沿線地域を含めたトータルデザインとして計画されている。このフォーラムではデザイン検討に関わった行政担当やデザイナーの方々からお話を伺いながら、今後の札幌のトータルデザインについて意見交換を行った。



2. 奥尻島現地調査（復興の姿研究会）

場 所：北海道奥尻島

開催日：2013 年 9 月 2 日（土）～3 日（日）

解説者：奥尻町竹田総務課長

参加者：JUDI 会員 4 名（北海道・関西）

同行者：東京大学窪田研究室

概 要：復興の姿研究会では、これまでに玄海島や淡路島等、震災被害からの復興事例を調査してきた。今回の調査は、20 年前に甚大な津波被害を受けた奥尻島を対象として現地調査とヒアリングを行った。この結果をもとに今後の災害に向けた課題として、「海岸の背後地（集落）の関係再構築」「避難施設（ルート等）の日常的な利用による維持」「集落イメージの継承」等が挙げられた。



3. JUDI 全国大会 in 札幌

場 所：札幌ユビキタス協創広場 U-cala ほか

開催日：2014 年 10 月 3 日（金）～ 5 日（日）

参加者：約 50 名

概 要：超少子高齢化社会が進展するなか、総人口の減少で 2050 年には消滅する集落や都市が全国で半分以上を占めると言われている。加えて都市のコミュニティ力が低下する状況において、複雑化する社会課題解決のためのソーシャルイノベーションについて考え、都市環境のあり方、都市デザインの役割を考え直す機会とした。札幌で進められている市民が町の課題を考え、自分ごととして捉えながら課題解決に取り組むソーシャルデザインを事例にこれからの都市環境のデザイン、まちづくりについて意見交換を行なった。



JUDI フォーラム：基調講演 兼松佳宏氏

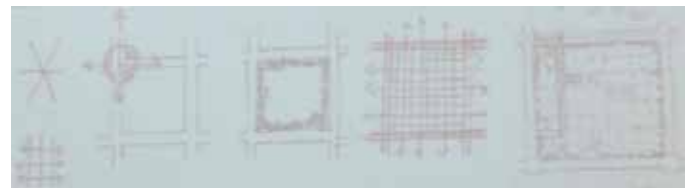
4. ミニフォーラム（バリーシェルトン氏講演）

場 所：札幌ユビキタス協創広場 U-cala

開催日：2014 年 11 月 14 日（金）

参加者：約 20 名

概 要：日本のまちの成り立ちは、日本語の漢字などの言語表現と密接な関係にあるとの視座から、都市交通、道路、建築デザインなどの概念を可視化することで日本のまちづくりの都市構造に関する新たな価値感を示している。



都市環境デザイン会議全国大会 2014 SAPPORO

これからの都市デザイン

～人口減少・少子高齢化のなかのソーシャルデザイン・コミュニティデザイン～

超少子高齢化社会が進展するなか、総人口の減少で2050年には消滅する集落や都市が全国で半分以上を占めると言われている。加えて都市のコミュニティ力が低下する状況において、複雑化する社会課題解決のためのソーシャルイノベーションについて考え、都市環境のあり方、都市デザインの役割を考え直す機会とした。札幌で進められている市民が町の課題を考え、自分ごととして捉えながら課題解決に取り組むソーシャルデザインを事例にこれからの都市環境のデザイン、まちづくりについて意見交換を行なった。

こうした課題を改めて、これからますます複雑化する社会課題を解決していくためには、もはや専門家だけの力だけでは、地域に住む人、ひとりの多様な価値観の協働、関係構築をもった行動が必要であり、そこからソーシャルイノベーションが実現するのではないだろうか。これからの都市環境のあり方、都市デザイン、まちづくりの役割、そしてそのプロセスを大きく考え直すときが来ている。

中、札幌では、市内各所やNPOの人々により、コミュニティを高める様々な取り組みが進められている。さらに、市民がまちの課題を考え、課題を自分ごととして捉えながら、創造的な課題解決を楽しく考え、実践するソーシャルデザインの取り組みもスタートしています。こうした取り組みを交えながらこれからの都市環境のデザイン、まちづくりを考えます。

期間 2014年10月3日（金）～ 5日（日）

会場 第1日目：ユビキタス協創広場 U-cala
札幌市中央区北1条西4丁目1-1 サッポロファクトリー1本館1階
第2日目：札幌市教育文化会館
札幌市中央区北1条西13丁目札幌市中央区北1条西13丁目

プログラム

【第1日目】
17:00～ 開会
17:45～ プロジェクト報告会 (1)
19:20～ 閉会
20:00～ 懇親会：ビヤクラ-札幌開演会（札幌ファクトリー内）

【第2日目】
9:30～ プロジェクト報告会 (2)
12:00～ プロジェクト代表者懇談会
14:00～ JUDI フォーラム：これからの都市デザイン
講演者：人口減少および少子高齢化社会の課題とソーシャルデザイン 渡辺 宏（NPO 北海道）
講演者：ソーシャルデザイン～まちの課題を創造的に解決 兼松佳宏（NPO 法人グリーンズ）
パネリスト：バリーシェルトン氏（バリーシェルトン氏）
コーディネーター：坂井 孝子（札幌市役所）
司会：バリーシェルトン氏、渡辺 宏（NPO 北海道）

17:00～ 閉会
18:30～ 懇親会

【第3日目】
9:30～ エクスカーション：※詳細は要覧参照
Aコース：札幌のランドスケープコース（案内人：神谷 浩志）
Bコース：人口減少の先進地 足尾山地区のまちづくり（案内人：辻井 高志、岡本）

主催：都市環境デザイン会議（JUDI）
後援：札幌市、一般社団法人北海道まちづくり協議会、北海道建設新報（FRI）
会場提供：内田洋行（ユビキタス協創広場 U-cala）

東北ブロック

■ 2013 年度の概要

2013 年度（23 期）の東北ブロックは、年度当初の会員数が 5 名と少なく、また、会員も東北各地、東京と分散しているため積極的な活動ができなかった。

その中で、2013 年 11 月 29 日の復興未来会議主催のシンポジウム『“復興”シンポジウム第 1 弾「東日本被災地復興の未来を語る 1」』を関東ブロックとともに後援するとともに、2014 年 5 月 31 日に仙台で東北ブロック主催の『東北から未来を考える』開催した。

なお、『東北から未来を考える』の後、継続して『JUDI あり方検討会 in 仙台』を開催した。

1. 『“復興”シンポジウム第 1 弾

「東日本被災地復興の未来を語る 1」

実施日：2013 年 11 月 29 日（金）

会場：日本大学 理工学部 駿河台校舎 7 号館
741 教室

東北ブロック：共催・パネラー参加

パネラー 永松 栄
伊藤 登

参加者：JUDI 会員 41 名（学生会員含む）

[51 名] 協力法人関係者 2 名
学 生 2 名
一 般 6 名

内 容：東日本大震災復興に向けて JUDI メンバーも個々に支援活動に尽力している。1 年前に JUDI 事業委員会主催で「復興シンポジウム」を開催し、その課題共有を行ってきたが、あらためて現場に関わるまたはご意見のある JUDI メンバー登壇してもらい、

JUDI 都市環境デザイン会議

JUDI “復興”シンポジウム第一弾

「東日本被災地復興の未来を語る 1」

日時：平成 25 年 11 月 29 日（金）
18:30 ～ 20:30

場 所：日本大学 理工学部 駿河台校舎 7 号館 741 教室
参加費：無料

●開催趣旨
東日本大震災から 2 年 7 か月余りを経過し、被災地復興に向けて住民・行政・専門家による復興計画策定から事業化に向けて努力されている。その中で都市計画、建築、土木等に関わる JUDI 会員専門家が互いに支援活動に尽力され、様々な場の中で蓄積されている状況が伝えられている。1 年前に JUDI 事業委員会主催の復興シンポジウムを開催し、その課題共有を行ってきた経緯があるものの、その後の活動、情報交換を行えずに滞り、ここにあらためて現場に関わるまたはご意見のある各氏にお集まりいただき、東日本被災地復興の現状に対し、JUDI 会員として何ができるのか、また考えていくべきかをともに議論したい。

●プログラム

1. 東北復興の現状報告
永松 栄 (JUDI 東北ブロック幹事・宮城大学教授)
18:30～19:15 (予定)

2. パネルディスカッション
「復興の未来-JUDI 会員は何を支援できるのか-」
19:20～20:30 (予定)

◆パネラー
永松 栄 (前 掲)
成瀬 恵宏 (JUDI 関東ブロック・〔株〕都市設計工房)
伊藤 登 (JUDI 東北ブロック・〔株〕プランニングネットワーク)

◆コーディネーター
作山 隆 (JUDI 関東ブロック・芝浦工業大学教授)

主催：JUDI 復興未来会議 共催：JUDI 東北ブロック + JUDI 関東ブロック
開催会場：都市環境デザイン会議 復興シンポジウム事務局
担当：横山 (株式会社プランニングネットワーク)
TEL: 03-3810-9381 E-mail: yokoyama@ppn-planet.co.jp



復興の現状に対し、何ができるのか、また考えていくべきかをともに議論した。

東北ブロックは開催費用を関東ブロックと負担するとともに、永松栄氏と伊藤登氏がパネラーとして参加した。



2. 『東北から未来を考える』

実施日 : 2014年5月31日(土)

会場 : 東京エレクトロンホール宮城(仙台)
503 教養室

参加者 : 東北ブロック — 5名
[8名] 北陸ブロック — 1名
関東ブロック — 1名
関西ブロック — 1名

内容 : 震災に限らず、東北地方の各地で顕在化している様々な問題は、日本全体の縮図または、いずれ全国に顕在化する社会的現象の先取りと考えられる。

そのことを踏まえて、これからの東北各地域のあり方について、理想論ではなく現実的な解決策の視点で捉えて、今後の対応や役割を考えた。

■第一部：東北の現状と課題の抽出

- ・復興には、未来の問題と今の問題があるが、今の問題を起点としないと動かせない
- ・復興のスケジュールがどんどん遅れるため、それに耐えられない若い人から地域を離れていく
- ・現実はまだ復旧程度のことしかしていないが、それを復興と読み替えようとしている

■第二部：新たな課題への取り組み方

- ・都市環境デザインとは、空間構造だけの議論ではなく、社会構造の変化を捉えた上での空間をデザインすること
- ・理想のことは言いつつも現実的な提案をしていく
- ・都市戦略は教育が大事だ。JUDI 活動もある意味では布教活動だ

■第三部：具体案の作成

- ・空き地・空き家対策、地方都市空間の再生、自立可能な地域経済、地域撤退の方法、公共施設を誰が担うかの5つのテーマに整理
- ・活動が楽しいこと、活動が魅力的であることが大事
- ・「東北発：日本の未来を考える」活動を立ち上げる

東北ブロック主催イベント「東北から未来を考える」	
開催日: 2014.05.31 13:00 開始	
会場: 東京エレクトロンホール宮城 503 教養室	
1. 会議の主旨	東北地方の各地で顕在化している様々な問題(震災に限らず)は、日本全体の縮図であると考えられます。又は、いずれ全国に顕在化する社会的現象の先取りと言えるでしょう。 そのことを踏まえて、これからの東北各地域のあり方について、理想論ではなく現実的な解決策の視点で捉えて、JUDIとしての今後の対応や役割を考えることが目的です。 参加者の皆様には、これまで様々な地域の活動で得られた知恵を、東北の現状に投影することで新たな切り口を整理し、現実的かつ具体的な方策を見出すことに期待します。 なお、検討の留意点として、これまでの「JUDI組織のあり方検討」の延長上や、プロジェクト活動等の既存スキームの中で、などの既成枠に促われないようにお願いします。
2. 参加者(敬称略)	・企画運営: 講本 一 尚 (欠席) ・東北B: 永松、伊藤、栗原、高谷、斉藤 ・北陸B: 野 ・関東B: 作山 ・関西B: 堀口
3. 検討の内容と手順(概要)	13:00 開会挨拶 東北ブロック幹事: 永松 栄 13:05-13:30 参加者の近況報告 13:30-15:00 東北の現状と課題の抽出 ・情報提供: 東北の現状(永松 栄、伊藤 登) 30分程度 ・課題の整理 15:15-17:00 課題への取り組み方 ・対応の方向性 ・対応策を考える重要な視点の整理 17:15-19:00 具体策の検討 ・具体的行動の立案 ・行動のスケジュール立案 まとめ
4. 懇親会	・時間: 19:30~21:30 ・会場: ともる 仙台国分町店 宮城県仙台市青葉区国分町2-1-3 ユーラフフレンチ&ビールの5F



東北ブロック

■ 2014 年度の概要

2014 年度（24 期）の東北ブロックは、新規入会者、他ブロックからの移籍者を含め会員数が 10 名となったが、会員が東北各地、東京と分散しているため積極的な活動ができなかった。

2014 年 5 月 31 日（2013 年度）の『東北から未来を考える』のにエクスカーションとして、翌日の 2014 年 6 月 1 日に『石巻視察ツアー』を実施した。

また、2015 年 2 月 24 日に「第 1 回東北ブロック運営委員会」を開催（出席者 3 名、JUDI 事務局にて開催）し、「2015 JUDI 全国大会 in 石巻」の企画調整を行った。

1. 『石巻視察ツアー』

実施日 ： 2014 年 6 月 1 日（日）

訪問先 ： 宮城県石巻市ほか

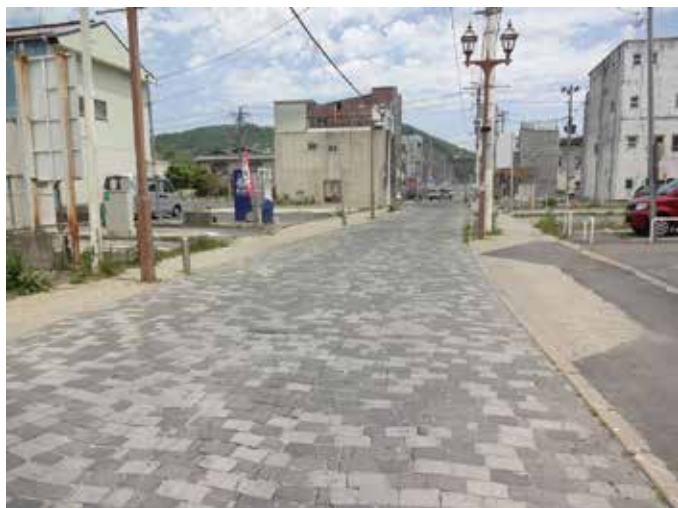
参加者 ： 東北ブロック — 3 名

[5 名] 関西ブロック — 1 名

一般（非会員） — 1 名

内 容 ： 仙台から車移動で塩竈市の被災状況、海岸線沿いの堤防工事状況、石巻市内の被災状況、「石巻まちなか復興マルシェ」の活動状況等の視察を行った。その後、石巻市内で復興に携わっている(株)街づくりまんぼう（TOM）の荻谷智大氏に、石巻市における復興の進捗状況、街づくりれまんぼうの活動内容等に関するヒヤリングを行った。後半の視察では、日和山公園から石巻市内の状況を確認すると共に、旧野蒜駅周辺（東松島市）の被災状況、高台移転事業の進行状況等を視察した。





2. 都市環境デザイン会議 in 新潟 2014

◎フォーラム

「食の文化とまちづくり」

日 時：2014年5月17日（土）15：10～17：00
 会 場：ほんぽーと新潟市立中央図書館（新潟県新潟市）
 参加者：JUDI 会員 24名、一般 10名
 内 容：発表1「新潟の都市構造と沼垂」

池田 博俊氏（新潟市都市政策部長）

発表2「特色ある地場産業と地域のつながり」

堀川 万洲夫氏（堀川醸造株式会社代表取締役）

発表3「食を活かしたまちづくり」

玉森 慶三氏（株式会社ライトスタッフ代表取締役）

座談会「食文化とまちづくりの今後」

コーディネーター：鏑 隆弘氏

（金沢美術工芸大学教授）

フォーラムでは、「食と文化とまちづくり」に関する三者三様の視点による発表内容でした。その後、コーディネーターの鏑先生が「食文化とまちづくりの今後」と題し、座談会が開催されました。



座談会「食文化とまちづくりの今後」の様子



左からコーディネーターの鏑先生、パネリストの池田氏、堀川氏、玉森氏

◎現地見学（その1）発酵のまち「新潟市沼垂」

日 時：2014年5月17日（土）13：00～14：50
 場 所：新潟市沼垂地区

現地見学会（その1）として、2013年度にグッドデザイン賞を受賞した『沼垂のまち小路めぐり』を片手に、池田博俊氏（新潟市都市政策部長）のご案内により沼垂のまちなみを見学しました。



沼垂定住記念碑



大正14年築 もと床屋建物

今代司酒造株式会社では、九代目蔵元の山本平吉氏に酒造りや歴史の話を交えながら丁寧にご案内いただき、試飲コーナーではこのあとにフォーラムが控えていることも忘れ楽しみました。



今代司酒造株式会社外観



今代司酒造株式会社内観

◎現地見学（その2）醸造のまち「長岡市摂田屋」

日 時：2014年5月18日（日）10：00～12：00
 場 所：長岡市摂田屋地区

参加者：JUDI 会員 19名、一般 5名

現地見学会（その2）では、長岡造形大学の渡邊誠介教授、NPO まちなか考房の坂田晃秀さん、長岡技術科学大学の樋口秀准教授のご案内により、越のむらさき→吉乃川酒造株式会社・瓢亭→機那サフラン酒本舗・鰻絵蔵→秋山孝ポスター美術館（旧北越銀行）の順で、見学しました。サフラン酒本舗・鰻絵蔵は、薬味酒で一世を風靡した初代吉澤仁太郎が築いた建物で、青龍や牛など17種類の動物や9種類の植物が極彩色で描かれています。櫓の一枚板を使った長い廊下と梁が見事な離れの内部見学もさせていただきました。



「醸造の町 摂田屋」の散策絵図



案内サイン“おしえたる”



道しるべ地蔵



吉乃川酒蔵資料館・瓢亭



鰻絵蔵正面外観



鰻絵蔵側面外観

北陸ブロック

3. 都市環境デザイン会議 in 石川 2014Autumn

◎フォーラム

「庭園とまちづくり」

日 時：2014年10月11日（土）13：00～15：30

会 場：金沢歌劇座（第6、7会議室）（石川県金沢市）

参加者：JUDI 会員 26名、一般 16名

内 容：講演1「文化の森と金沢城玉泉院丸庭園」

丸山 隆史氏（石川県土木部 次長）

講演2「加賀の庭」

植村 章英氏（㈱植宗園 代表）

講演3「地域コミュニティにおける庭」

徳本 修一氏（㈱総合園芸 代表取締役）

パネルディスカッション

コーディネーター：鰐 隆弘氏

（金沢美術工芸大学教授）

フォーラムは、「庭園とまちづくり」に関する3講演の後、パネルディスカッションでは、コーディネーターの鰐先生が、庭園など、個人の楽しめることを広める工夫をみんなでしていくということが必要。また、公共はそういう楽しみを助けるような仕組みをつくるのが何かできればよい。人に見せる楽しみ、そういうことで暮らしが豊かになる。そういったところを人が見にくるという仕組みもできるのではないかとまとめました。



パネルディスカッションの様子



左からコーディネーターの鰐先生、パネリストの丸山氏、植村氏、徳本氏

◎庭園めぐり

日 時：10月11日（土）15：45～17：30

会 場：金沢市内

庭園めぐりでは、鈴木大拙館→江戸時代初期に、古沼と自然林を生かして作庭された松風閣庭園（旧日本多家庭園）→緑の小路→玉泉院丸庭園を見学しました。



鈴木大拙館 水鏡の庭



鈴木大拙館 思索空間



松風閣庭園を見学する様子



緑の小路では上坂氏が説明



玉泉院丸庭園の池を望む



ほぼ完成している休憩所

◎庭園めぐり その2「加賀市大聖寺・橋立」

日 時：2014年10月12日（日）9：30～12：30

会 場：加賀市大聖寺・橋立

参加者：JUDI 会員 12名

2日目は、加賀市大聖寺・橋立に舞台を移し、NPO 法人歴町センター大聖寺の瀬戸達事務局長のご案内により、旧大聖寺川の流し舟を堪能し、江沼神社の長流亭や庭園などを見学しました。



旧大聖寺川の流し舟での様子



案内人兼船頭の瀬戸事務局長



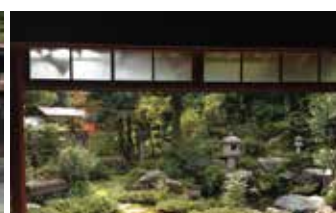
江沼神社庭園



時鐘堂



蔵六園



蔵六園 庭園

4. 都市環境デザイン会議 in 黒部 2015

◎フォーラム

「新幹線開業以降の駅づくり・まちづくり」

日 時：2015 年 6 月 6 日（土）15：30～17：30

会 場：黒部市民会館 101 会議室（富山県黒部市）

参加者：JUDI 会員 25 名、一般 13 名

内 容：講演「北陸新幹線開業時の駅・駅周辺」

水野 一郎氏（金沢工業大学教授）

発表 1「歴史と文化そして景観を大切にした
まちづくりー旅の楽しみ方と感動は
異文化に接した時ー」

上野 幸夫氏（職藝学院教授）

発表 2「金沢駅周辺のまちづくり戦略

～北陸新幹線開業を迎えて～」

木谷 弘司氏（金沢市都市計画整備局担当部長）

発表 3「北陸新幹線金沢開業、福井は今・・・」

川上 洋司氏（福井大学大学院教授）

全体ディスカッション

コーディネーター：武山 良三氏

（富山大学教授）

コメンテーター：水野 一郎氏

（金沢工業大学教授）

フォーラムでは、講演、発表ののち、全体ディスカッションでコーディネーターの武山先生が、キーワードはやはり地方創生。単に連携するところから、雇用を創出するところを含めてやる。住みやすさをベースに、この地域にはポテンシャルがある。特に、自然をベースにした文化。文化が産業や経済をけん引する構造のモデルを、地域でまもって発信していく。それによって地方創生に貢献していくことが、今求められているのではないか。そういう意味で、非常に環境の似た北陸 3 県がいろいろ競合し、自分たちなりのノウハウを出し合いながら、一つの形にしていけたらよいとまとめました。



全体ディスカッションの様子



左からパネリストの上野先生、木谷氏、川上先生



左からコーディネーターの武山先生、コメンテーター水野先生

◎松桜閣・庭園見学会

日 時：2015 年 6 月 6 日（土）13：30～15：00

会 場：松桜閣

復元された数寄屋建築の松桜閣と庭園は、上野幸夫先生のご説明に加え、五感でもって体感しました。



松桜閣・庭園を見学する様子

◎見学会 その 2「入善町・朝日町」

日 時：2015 年 6 月 7 日（日）9：30～13：30

場 所：富山県入善町、朝日町

参加者：JUDI 会員 20 名

2 日目は、下山（にぎやま）芸術の森発電所美術館、朝日町図書館・明治記念館、入善町健康交流プラザ・サンウェルを見学しました。

水野先生が設計された入善町健康交流プラザ・サンウェルの「サンウェル」とは、風、水、光の 3 つの井戸（Well）と読み、3 本の塔とそれらを結ぶ棟でつくる外観は、手を組んで共に喜び合う健康市民の姿だそうです。



サンウェルの外観



昼食後の集合写真

関東ブロック

■ 2013 年度の概要

2013 年度は、「JUDI 関東セミナー」、「まち歩き＋忘年会」を継続的に実施。また、新たに「研究発表会」を新企画として実施するとともに、6 団体共催で「都市デザイン交流会フォーラム 2014」を実施。

1. JUDI 関東セミナー

◎ 第 2 回 JUDI 関東セミナー

『“変わってほしくない”そして
“変わってほしい”まち、吉祥寺』

訪問先 : 東京都武蔵野市

実施日 : 2013 年 6 月 30 日 (日)・まち歩き①

2013 年 7 月 27 日 (土)・まち歩き②

2013 年 8 月 25 日 (日)・

まち歩き③＋シンポジウム

● まち歩き①～③

案内人 : 武蔵野市都市整備部 3 名、4 名、4 名

まち歩き : JUDI 会員等 10 名、12 名、13 名

参加者 : 一般 1 名、1 名、0 名

[延 68 名] 学 生 9 名、6 名、16 名

● シンポジウム (共催: 武蔵野市)

講演者 : 基調講演・舟引敏明氏 (国土交通省)

コーディネーター・小浪博英氏 (JUDI 関東)

パネリスト・塚本真史氏 (吉祥寺活性化協議会会長)

邑上守正氏 (武蔵野市長)

杉山朗子氏 (JUDI 関東)

シンポジウム : JUDI 会員等 19 名

参加者 : 市役所職員 8 名

[26 名] 学 生 16 名

内 容 : 武蔵野市都市整備部の協力を得て、3 回にわたり吉祥寺のまち歩きを実施。武蔵野市の共催でシンポジウムを開催し (武蔵野市商工会議所)、学生チームのワークショップ発表、国土交通省舟引氏の基調講演、武蔵野市長を交えたパネルディスカッションを実施。



第 2 回 JUDI 関東セミナー

シンポジウム
「吉祥寺、残したいもの・変えたいもの」
日時：平成 25 年 8 月 25 日 (日)

◆吉祥寺まち歩き：AM10:00～12:00 (昼の部)
集合場所：井の頭公園ステージ (ハイパル通り突き当たり階段下)
ゆるゆるを歩くと、吉祥寺の町並み風景に変わります。吉祥寺のさまざまな顔を紹介。各エリアで撮影した写真を、ご意見としてご感想いただきます。

◆シンポジウム：PM14:00～17:00
「吉祥寺、残したいもの・変えたいもの」
場所：武蔵野市商工会議所 4F 市民会議室
(武蔵野市吉祥寺本町 1-10-7 市立武蔵野商工会館)
参加費：無料

●プログラム
・ごあいさつ 武蔵野市長 邑上守正氏
・まち歩き成果発表
・基調講演：国土交通省・公園緑地整備課長 舟引敏明氏
・パネルディスカッション
「“変わってほしくない”そして“変わってほしい”まち、吉祥寺」
コーディネーター：小浪 博英 (JUDI 関東ブロック運営委員)
パネリスト：塚本 真史 (吉祥寺活性化協議会会長)
(司 会)：舟引 敏明 (国土交通省・公園緑地整備課長 JUDI 会員)
：邑上 守正 (武蔵野市長 JUDI 会員)
：杉山 朗子 (JUDI 関東ブロック運営委員)

◆懇親会：PM17:00～19:00
場所：いちのじゅう (武蔵野市吉祥寺本町 1-10-1 いちのじゅうビル 8F)
会費：¥4,000 学生 ¥2,000

※申し込み：所要、連絡先、参加費 (まち歩き、シンポジウム) を明記の上、右記アドレスまでご連絡下さい。design@towagworks.com (担当：藤田とわ)

主催：JUDI 都市環境デザイン会議 関東ブロック
共催：武蔵野市

2. キャラバン

◎ まち歩き＋忘年会 2013

『外濠―その周辺に広がる

変化に富んだ市街地を歩く』

訪問先 : 東京都新宿区

実施日 : 2012 年 12 月 7 日 (土)

案内人 : 福井恒明氏 (法政大学教授)

飯田裕摩氏 (法政大学大学院生)

蓮見和紀氏 (法政大学大学院生)

参加者 : JUDI 会員等 11 名

[16 名] 一般 4 名

学 生 1 名

内 容 : 江戸時代に築かれた外堀およびその周辺を、定火消屋敷、市谷見附石垣、市谷亀岡八幡宮、浄瑠璃坂、新見附橋、モンマルトル風階段、逢坂、組屋敷と歩いた後、神楽坂で忘年会を開催。





3. 研究発表会

◎ 第1回 研究発表会

『都市環境—その機能とデザイン』

会 場 : 法政大学市ヶ谷田町校舎 3階 T311 教室

実施日 : 2014 年 1 月 25 日 (土)

発表者 : 杉山朗子氏 (JUDI 関東)

『吉祥寺の色彩』

須田武憲氏 (JUDI 関東)

『沼津駅前広場』

茂手木功氏 (JUDI 関東)

『札幌創成通り』

井上洋司氏 (JUDI 関東)

『アートインファーム』

明治大学服部研究室 (学生)

『全国まちづくりカレッジ』

高谷時彦至 (JUDI 東北・資料配付のみ)

『府中建築フォーラム』

参加者 : JUDI 会員等 10 名

[13 名] 一 般 0 名

学 生 3 名

内 容 : 今年度からの新たな企画で、わが国の都市環境デザインについて幅広く議論する場として、また JUDI、JUDI 会員の活動をより広く一般に情報発信していく場として、研究発表会を実施。



4. 共催シンポジウム・共催フォーラム

◎ JUDI“復興”シンポジウム第一弾 [共催]

『東日本被災地復興の未来を語る 1』

会 場 : 日本大学お茶の水キャンパス理工学部 7 号館 741 教室

実施日 : 2013 年 11 月 29 日 (金)

講演者 : 基調講演・永松栄氏 (JUDI 東北)

コーディネーター・作山康氏 (JUDI 関東)

パネリスト・永松栄氏 (JUDI 東北)

成瀬恵宏氏 (JUDI 関東)

伊藤登氏 (JUDI 東北)

参加者 : JUDI 会員等 13 名

[47 名] 一 般 6 名

学 生 28 名 (学生会員含む)

内 容 : 東日本大震災から 2 年 7 か月、JUDI 会員も専門家として支援活動に参加している。現場に関わる会員の報告を聞く中で、JUDI として何ができるのか、また、考えていくべきかを議論した。



◎ 都市デザイン交流会フォーラム 2014 [共催]

『隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える』

会 場 : 台東区立浅草文化観光センター 5 階大会議室

実施日 : 2014 年 2 月 22 日 (土)

登壇者 : 中井祐氏 (G S デザイン会議)

中野恒明氏 (JUDI 関東)

小林正美氏 (JUDI 関東)

谷内加寿子氏 (東京都都市整備局都市づくり政策部緑地景観課)

尾登誠一氏 (公共の色彩を考える会)

杉山朗子氏 (JUDI 関東)

宮沢功氏 (景観デザイン支援機構)

吉田慎悟氏 (JUDI 関東)

参加者 : 約 150 名

成果発表 : 東京都、台東区、墨田区、共催 8 団体に報告書を配布

JUDI ホームページに報告書を掲載

読売新聞 (2014 年 4 月 8 日夕刊)

テレビ朝日「モーニングバード」

(2014 年 4 月 11 日)

フジテレビ「スーパーニュース」

(2014 年 5 月 13 日)

5. その他

◎ 『TACHIKAWA アート in ファーム 2013』

協賛 [協賛金: 20,000 円]

◎ 『第 14 回全国まちづくりカレッジ in 東京』

協賛 [協賛金: 20,000 円]

関東ブロック

■ 2014 年度の概要

2014 年度は、「JUDI 関東セミナー」、「キャラバン」、「まち歩き+忘年会」を継続的に実施。また、新たに「JUDI 関東海外キャラバン」を新企画として実施。

1. JUDI 関東セミナー

◎ 第 3 回 JUDI 関東セミナー

『変わりゆくまち、
中野のこれからの姿を考える！』

訪問先 : 東京都中野区
実施日 : 2014 年 9 月 27 日 (土)・事前まち歩き
2014 年 11 月 29 日 (土)・シンポジウム

● シンポジウム

パネリスト : 豊川士朗氏 (中野区都市整備部)
高見公雄氏 (JUDI 関東)
稲田信之氏 (JUDI 関東)

参加者 : JUDI 会員等 7 名
[39 名] 一般 6 名
学 生 26 名

内 容 : 中野駅周辺は、警察学校跡地の再開発を始め JR 駅舎の改築、南口都営住宅跡地の再開発、ブロードウェイ東の既成市街地の開発等大きく変わろうとしている。9 月 27 日の事前まち歩きで見た中野駅周辺のまちづくりのこれからのあり方について、学生からの提案を踏まえ、地元の方々と JUDI メンバーで意見交換を行った。



シンポジウム 変わりゆくまち、中野のこれからの姿を考える！

日 時 : 平成 26 年 11 月 29 日 (土) 15 時半～17 時半 (開場 15 時)
会 場 : 日本大学理工学部 龍河台キャンパス 1 号館 122 会議室
参加費 : 学生無料、JUDI 会員 500 円、一般 1000 円



◎ 第 4 回 JUDI 関東セミナー

～住む人たちの気持ちを動かした、
デザインによる新しいストック活用～
『朝霞浜崎団地トータルバリューアップ』

訪問先 : 埼玉県朝霞市 [UR 朝霞浜崎団地]
実施日 : 2015 年 3 月 7 日 (土)
講 師 : 韓亜由美氏 (前橋工科大学教授)
新川達哉氏 (UR 東日本賃貸住宅本部)
参加者 : JUDI 会員等 14 名
[24 名] 一般 7 名
学 生 3 名 (学生会員含む)
内 容 : 韓氏、新川氏より「計画上の概要」、「デザインコンセプト」、「施工記録」のレクチャーを受けた後、リニューアルされた朝霞浜崎団地を説明を受けながら見学。その後、団地集会所において意見交換を行った。



2. キャラバン

◎ 第 20 回 キャラバン

『JUDI 茅野キャラバンー手作り区画整理
と寒天蔵の街並みを歩く』

訪問先 : 長野県茅野市
実施日 : 2014 年 6 月 7 日 (土)
案内人 : 立石淳二氏 (茅野市都市建設部都市計画課)
倉田直道氏 (JUDI 関東)
高見公雄氏 (JUDI 関東)
ボランティア案内人 (茅野市観光協会)

参加者 : JUDI 会員等 6 名
[8 名] 一般 2 名
学 生 0 名

内 容 : 天下の奇祭御柱が行なわれる高原の町茅



野の駅前では、再開発事業が頓挫した後、手作り感満載の区画整理が行われた。駅前再開発事業の概要および現状を茅野市より説明を受けた後、駅前再開発ビル「ペルピア」、東口地区の区画整理についてその計画に携わった倉田氏の解説を踏まえながら、茅野市民館、寒天蔵の里等を視察した。

◎ まち歩き+忘年会 2014

『砂町銀座商店街（江東区）』

- 訪問先 : 東京都江東区
 実施日 : 2014年12月13日(土)
 案内人 : 大窪理事長(砂町銀座商店街振興組合)
 沼田副理事長(砂町銀座商店街振興組合)
 小林事務長(砂町銀座商店街振興組合)
 参加者 : JUDI会員等 12名
 [19名] 一般 5名
 学 生 2名
 内 容 : この日「第4回 JUDI 関東セミナー(朝霞浜崎団地)+忘年会」の予定であったが、衆議院選挙で会場を使用することとなり急遽延期としたため、代替え企画として企画した。「日本経済新聞」の訪れてみたい商店街では、「巢鴨」、「横浜元町」について第3位となった、昭和の雰囲気を残す下町の商店街。平日1万人以上、休日は2万人以上の集客がある賑わいのある街の商店街の不思議な魅力を商店街振興組合の役員の方の案内で探った。



- 参加者 : JUDI会員等 6名
 [7名] 一般 1名
 学 生 0名
 内 容 : 東大邱駅に集合し、チャーターバスで河回村へ移動。村内を散策後、世界遺産の伝統家屋に宿泊。翌日はハフェマウル村内を散策後、対岸の芙蓉台(ブヨンデ)訪問、現地保存会の会長から話を聞き、チャーターバスで東大邱駅に向かい現地解散。



4. 総会支援

◎ 第24期定例総会関連まち歩き

『隅田川の橋を考える』

- 訪問先 : 東京都台東区・墨田区
 実施日 : 2014年7月27日(日)
 案内人 : 中野恒明氏(JUDI 関東)
 参加者 : JUDI会員等 20名
 [22名] 一般 2名
 学 生 0名
 内 容 : 関東大震災の復興事業で架橋され、東京都著名橋、東京都選定歴史的建造物に指定されている吾妻橋、駒形橋、厩橋、蔵前橋、両国橋を隅田川における橋の位置づけを考えながら歩いた。

3. JUDI 関東海外キャラバン

◎ 第1回 JUDI 関東海外キャラバン

～韓国世界遺産：歴史に残された伝説の村～

『安東市河回村「ハフェマウル」を訪ねる』

- 訪問先 : 大韓民国慶尚北道安東市
 実施日 : 2014年9月20日(土)・21日(日)
 案内人 : オムジヨン氏(JUDI 関東準会員)
 柳[Ryu Han Chul]氏(保存会会長)

5. その他

◎ 『TACHIKAWA アート in ファーム 2014』

協賛 [協賛金: 20,000 円]

◎ 『泊復興まち開き特別セッション』

JUDI 復興未来会議×NPO アーバンデザイン研究体
 協賛 [協賛金: 40,000 円]

中部ブロック

■ 2013 年度の概要

2013 年度は、「デザインセミナー」、「押しかけトーク」、「JUDI 関西フォーラム参加の活動」、「特別講義」を行った。

1. デザインセミナー

◎「～あいち・みえ・ぎふ 船運が繋ぐまち探訪 ～ part3 赤坂宿」

実施日 : 2013 年 5 月 11 日 (土)
場 所 : 岐阜県大垣市赤坂 (旧中山道赤坂宿)
参加者 : 42 名
内 容 : 中部ブロックと岐阜経済大学・岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学との連携プロジェクトで、雨模様にも関わらず、学生や JUDI 以外のメンバーの参加も多く、大盛況であった。地元のボランティアの方の案内で旧中山道赤坂宿の町並、川湊の旧赤坂港、昼飯古墳等を見学したあと、昼飯地区にある岐阜大学セミナーハウスに会場を移して、地域まちづくりの取り組みの講演とワークショップを開催した。



**岐阜経済大学・岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学連携
美濃赤坂デザインセミナー**

赤坂宿は中山道三十七番目の宿場町。赤坂津は船運交通の拠点として栄えた。今も残る家々の風景を巡る。

開催日: 平成25年 5月11日(土) 10:00～15:00
プログラム: 9:45 JR美濃赤坂駅前集合
10:00～12:00 赤坂宿内歩き
12:00～13:00 昼食
13:00～15:00 セミナー・ワークショップ

■ 参加申込み: 岐阜経済大学・岐阜市立女子短期大学
岐阜経済大学 岐阜市立女子短期大学 岐阜市立女子短期大学
岐阜市立女子短期大学 岐阜市立女子短期大学 岐阜市立女子短期大学
岐阜市立女子短期大学 岐阜市立女子短期大学 岐阜市立女子短期大学



◎「諸戸徳成邸見学会～桑名市の歴史・文化遺産を活かす～」

実施日 : 2013 年 11 月 3 日 (日)
場 所 : 三重県桑名市
参加者 : 7 名
内 容 : 諸戸徳成邸は桑名市街地の西方、愛宕山と人々に親しまれた段丘上に豪商二代目諸戸清六によって建てられた邸宅である。コンドルによる設計で有名な諸戸清六邸に比較して、従来ほとんど知られてこなかった昭和初期の大規模木造和風建築である諸戸徳成邸は、その保存が危ぶまれていたが、この見学会をはじめ、地元の保存運動の熱心な働きかけもあり、その後、桑名市も保存の方向に動きはじめることになる。

JUDI中部ブロック デザインセミナー

諸戸徳成邸見学会 ～桑名市の歴史・文化遺産を活かす～

開催日: 平成25年11月3日(日) 14:30～16:00
集合場所: 桑名駅改札前 14:00 (Pは駅前に有料駐車場あり:徳成邸にはありません)
コース: 桑名駅前～諸戸水道～徳成邸～走井山～北勢線馬道駅～西桑名駅…桑名駅

■所在地: 桑名市東方1524番地
■敷地面積: 7,700㎡(建築面積1,050㎡、基地面積 1,755㎡)
■庭園面積: 4,897㎡)
■建築規模: 9棟
■造営年代: 大正末期～昭和初期

■諸戸徳成邸について
諸戸徳成邸は、桑名市街地の西方、愛宕山と人々に親しまれた段丘に、二代目諸戸清六によって建てられた邸宅である。長男民和が(旧制桑名中学(現桑名高等学校)に進学する際、通学に便利ように中学に近い場所を選んだと伝えられるが、かつて2階からは揖斐川を望むことが出来たと言われ、高台から眺望のきく立地であったことも、この地の魅力であったと考えられる。太平洋戦争の際に本部(旧諸戸家住宅)が空襲で被害を受けたことを期に別荘であるこの徳成邸に定住したとされています。

敷地東北には茶室が建てられ、茶庭は東海に茶の世界を広めた立役者である松尾宗春の作庭と伝わっている。

この他にも敷地内には、広間や食堂棟のゲストルームや、茶室など、複数の建物が現存しており、初代清六墓所と諸戸家(本家・宗家)の一族の墓所、諸戸家従者の墓が存在する。

■参加申込み: 都市環境デザイン会議 中部ブロック 桑山一廣
e-mail: shuuyama.kazuhiro@takenaka.co.jp (竹中工務店名古屋支店)
fax: 052-201-8756

2. 押しかけトーク

「NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事延藤安弘氏を訪ねて」

実施日 : 2013年5月17日(金)

場所 : 名古屋市中区錦

参加者 : 6名

内容 : 名古屋市中区錦2丁目、繊維問屋街の「長者町」のビルにNPO法人まちの縁側育くみ隊の事務所をかまえる著名なまちづくり人、延藤安弘氏を訪ね、押しかけデザインゼミを開催した。この取り組みは、翌年の長者町での歩道づくりの社会実験プロジェクトをめぐるシンポジウム開催につながっていく。



3. JUDI 関西フォーラム参加の活動

「岐阜の歴史的環境でのコンバージョンー歴史的町並と歴史的建造物ー」

実施日 : 2013年5月25日(土)

場所 : 大阪市北区梅田

内容 : コンバージョンをテーマにしたフォーラムで、岐阜の歴史的環境でのコンバージョンの事例として、美濃市のケースでの歴史的町並と分断する国道、岐阜市での旧岐阜県庁舎の保存再生のケースを報告した。



4. 特別講義

「都市環境デザインのすすめ～人間中心の都市・まちづくり～」

実施日 : 2013年10月29日(火)

会場 : 名古屋大学環境総合館 1F

参加者 : 20名

内容 : 中部ブロックと名古屋大学大学院環境科学研究科村山研究室共催の特別講義。前半は中野恒明氏の講演「都市環境デザインのすすめ～人間中心の都市・まちづくりへ」、後半は中部ブロックのメンバーも交えたパネルディスカッション「都市環境デザインという仕事」で、名古屋大学の学生の参加も多く、盛況であった。

都市環境デザイン特別講義

都市環境デザインのすすめ ～人間中心の都市・まちづくりへ～

講師 中野 恒明 氏



名古屋大学シズカ工学部環境システム学科 教授
アプル計画推進事務局 局長
都市環境デザイナー・都市プランナー
執著書「環境設計、都市及び地方計画」、一橋大学

- ◆ 日時: 2013年10月29日(火) 16:30~18:30
- ◆ 会場: 名古屋大学 東山キャンパス 環境総合館 1階 レクチャーホール (名古屋市東区東山)
- ◆ 共催: JUDI 都市環境デザイン会 中部ブロック・名古屋大学大学院環境科学研究科村山研究室

＜講演＞
「なぜ地方都市が弱くなったのでしょうか。その一因は都市計画とデザインに原因があるのでしょうか。これから必要なのは、住まいを重視し都市再生を促進する都市計画への大胆な変革、自動車への過度の依存からの脱却、都市らしい文化・生活環境の再生です。政府はともかく、一歩、国内でも先進的な取組が求められています。」
中野先生の講演「都市環境デザインのすすめ～人間中心の都市・まちづくりへ」の内容を要約すると、横浜、京都などの自身の業績も交えて解説して頂いた上で、JUDI 都市環境デザイン会 中部ブロックのメンバーも交えて、「都市環境デザイン」とはどのような仕事なのか、これからどのような可能性があるのか、討論します。

＜プログラム＞

16:30-17:45 講演「都市環境デザインのすすめ～人間中心の都市・まちづくりへ」

中野 恒明 氏 (名古屋大学シズカ工学部環境システム学科 教授)

17:45-18:30 パネルディスカッション「都市環境デザインという仕事」

＜参加者＞

中野 恒明 氏 (講師)
村山 良道 氏 (名古屋大学大学院環境科学研究科 教授)
谷口 浩一 氏 (名古屋大学大学院環境科学研究科 教授)
松本 真 氏 (名古屋大学大学院環境科学研究科 教授)
河野 孝子 氏 (名古屋大学工学部)
近未来都市計画により変化する都市環境。
コーディネーター
村山 良道 氏 (名古屋大学大学院環境科学研究科 教授)

＜書籍紹介＞

都市環境デザインのすすめ: 人間中心の都市・まちづくりへ
中野 恒明 著 2012年5月 都市計画社 A6 定価・200 円・定価 3000 円
第1巻 近代都市計画から都市環境デザインへ
第2巻 近代都市計画から都市環境デザインへ
第3巻 都市の時代一歩進んだ都市計画
第4巻 都市の時代一歩進んだ都市計画
第5巻 都市の時代一歩進んだ都市計画
第6巻 都市の時代一歩進んだ都市計画
第7巻 都市の時代一歩進んだ都市計画
第8巻 都市の時代一歩進んだ都市計画



中部ブロック

■ 2014 年度の概要

2014 年度は、「デザインセミナー」、「特別セミナー」、を行った。

1. デザインセミナー

◎「～あいち・みえ・ぎふ 船運が繋ぐまち探訪 ～
part3 赤坂宿」

実施日 : 2014 年 6 月 14 日 (土)

場 所 : 岐阜県大垣市、垂井町

参加者 : 41 名

内 容 : 中部ブロックと日本建築学会岐阜支所、(公) 日本建築家協会岐阜地域会との連携プロジェクトで、JR 岐阜駅からバスをチャーターしたツアーで、学生や JUDI 以外のメンバーの参加も多く、大盛況であった。赤坂宿は中山道五十七番目の宿場町。宿場の中にあった赤坂港は杭瀬川の船運交通の拠点として栄え、揖斐川河口の三重県桑名まで舟運はつながっていた。昨年に引き続き赤坂宿の見学を行ったが、今年は赤坂宿の名家矢橋家本家の内部見学がセミナーの中心となった。午前中は、松尾芭蕉の「奥の細道」の終着地である大垣、それを記念して創られた「結びの地記念館」の見学を行った。午後は、赤坂宿で、普段は見ることでできない名家矢橋家本家に入り、当主子息の解説で内部空間をじっくりみることができた。さらに、赤坂宿の西になる垂井町の美濃国分寺跡を見てから、中山道の次の宿である垂井町の町並み見学を行った。見学後、大垣市内で懇親会を行い、充実の一日であった。岐阜大学や岐阜市立女子短期大学の学生なども含め 40 名ほどの参加があり、企画としては大いにもりあがった。JUDI 中部ブロックからは 5 名参加した。



2. 特別セミナー

『「長者町ウッドテラス」社会実験を考える』

実施日：2014年10月11日（土）

会場：吉田商事1階（名古屋市中区錦2）

参加者：38名

内容：中部ブロックと錦二丁目まちづくり協議会の特別セミナー。錦二丁目長者町で道路空間の再編計画の検討の一環で長者町通り歩道拡幅社会実験として「長者町ウッドテラス」を設置した。一方通行逆走やスピード超過などの危険車両を抑制し、安心して快適な歩行者空間の確保を目的とした約6か月の社会実験である。地域が費用を工面し、維持管理も行う地域主導で実現した。その他に、森林と都市を繋ぐ都市の木質化プロジェクトの活動や、地域が取り組む低炭素モデル地区など、地域主導で進む総合的なまちづくりが進んでいる。

これをテーマに地域・都市デザインに関わる専門家を交え、「長者町ウッドテラス」や都市景観、公共空間、地域コミュニティ等について議論したいと考え、ミニシンポジウムを開催した。

パネラーは中部ブロックから、対話計画 藤森幹人、竹中工務店 河崎泰了、岐阜市立女子短期大学教授 柳田良造が出席し、プロジェクトへの参加の立場や都市の歩行者空間を考える視点から発言をおこなった。最後にミニシンポジウムの総括・まとめとして地元のNPO 法人まちの縁側育み隊代表 延藤安弘氏が発言した。コーディネーターは名古屋大学准教授 村山顕人であった。地元のまちづくりメンバーやウッドテラスの材木を供給した豊田市の森林組合メンバーの参加もあり、おもしろい発言も飛び出し、社会実験への関心の高さを示した。ミニシンポジウム後、錦二丁目で懇親会が開かれ、ここにも多くの参加者があり、盛会であった。



「長者町ウッドテラス」社会実験を考える

このたび、錦二丁目長者町で道路空間の再編計画の検討の一環で長者町通り歩道拡幅社会実験として「長者町ウッドテラス」を設置しました。一方通行逆走やスピード超過などの危険車両を抑制し、安心して快適な歩行者空間の確保を目的とした約6か月の社会実験です。地域が費用を工面し、維持管理も行う地域主導で実現しました。その他に、森林と都市を繋ぐ都市の木質化プロジェクトの活動や、地域が取り組む低炭素モデル地区など、地域主導で進む総合的なまちづくりが進んでいます。今回は地域・都市デザインに関わる専門家を交え、「長者町ウッドテラス」や都市景観、公共空間、地域コミュニティ等について議論したいと考え、ミニシンポジウムを開催します。

ミニシンポジウム開催場所
吉田商事 1階

日時：2014年10月11日（土）
15:00~17:30
(事前登録なし、当日参加OK)

場所：吉田商事1階
住所：名古屋市中区錦二丁目6-10

パネラー
対話計画 藤森幹人
竹中工務店 河崎泰了
岐阜市立女子短期大学教授 柳田良造
まちの縁側育み隊代表 延藤安弘
コーディネーター 村山顕人

ミニシンポジウム開催場所
吉田商事 1階

関西ブロック

■ 2013 年度の概要

2013 年度（第 23 期、2013 年 6 月 1 日～2014 年 5 月 31 日）は、「都市環境デザインセミナー」、公募型の「JUDI プロジェクト」、「都市環境デザインフォーラム」を実施した。

1. 都市環境デザインセミナー

以下の通り 6 回実施した。

・ 6/15 京（みやこ）の景観と公共空間のデザイン

講師：立花正充、梶川伸二 参加者：40 名

京都での仕事では、常に歴史・文化・伝統を意識し、景観への対応が重要なファクターとなる。そして多くの場合、「京都らしさ」が問われ、を表現することが求められる。そうした京都の“かわ”“みち”“まち”を舞台に展開してきた講師の仕事を通して、都市景観における公共空間のデザインの役割、在り様を、京都の地域性と普遍性の二面から考察した。また、現場を見学する「まち歩き」を開催した。

・ 9/18 幸せな公園づくりと住民参画

有馬富士公園のパークマネジメントを中心に

講師：藤本真里 参加者：33 名

成熟社会を迎え、公園は管理の対象から利用をマネジメントする対象となっており、有馬富士公園の住民参画型公園運営はなかでも優れた成果をあげている。ここでは 2001 年の開園当初から夢プログラムという住民グループによるイベントの自主企画・実施のしくみを運用しており、住民、専門家、行政関係者でつくる協議会がサポートしている。開園当初からコーディネーター的役割を担う講師から、プログラムの具体的な運用状況について紹介いただき、公園の新たな可能性について議論した。

・ 10/18 東北復興における歴史文化のとらえ方

講師：徳勢貴彦 参加者：17 名

地域固有の歴史・文化を活かしたまちづくりに向けた取組が全国的な広がりを見せている。東日本大震災では、数多くの歴史・文化遺産が消失し、それらを支えてきた仕組みも大きく変化せざるを得なくなった地域もある。しかし、それらは地域がこれまで育んできた宝であり、復興の道標のひとつとなるものだと考えられ、スピード感のある復興とのバランス、地域に残された記憶の断片をつむいだストーリーづくりによって地域のアイデン

ティティを守りはぐくむことが、復興における重要な課題のひとつであるといえる。そこで、東北のある地域で調査に携わっている講師から報告をいただき、復興における歴史・文化のとらえ方について、議論を行った。また、JUDI 復興の姿研究会が行った、奥尻島、淡路島、玄界島の復興調査の概要を報告した。

・ 11/26 気仙沼市内湾地区の復興まちづくり

講師：吉川健一郎 参加者：22 名

気仙沼市内湾地区は、海と山の織りなす景観が魅力のまちであったが、東日本大震災で甚大な被害を受けた。とりわけ、古くから「屋号通り」や「昭和モダン」と呼ばれる港町繁華街の雰囲気伝える街並みが形成されていた魚町・南町の復興再生については、コンペが行われるなど、その方向が模索されている。講師は、南町・魚町の人たちと出逢い、その復興を支援してきており、その報告から、被災地の魅力の再生について議論を行った。

・ 12/26 ロンドンのエリアマネジメント

講師：服部圭郎、長町志穂、泉英明、角野幸博

参加者：57 名

UDI 国際ツアーとして 2013 年 8 月に実施されたロンドンツアーの報告。ロンドンならではの活動と組織のあり方を持つ二つの BID をはじめ、地区の活性化を民間人の立場で担う地元活動家、地元や観光客から多くの支持を受けるオーガニックマーケットの主宰者、ロンドン版 JUDI といえる都市デザインプロフェッショナル団体の会長などへの、ヒアリングから見えたものを、エリアマネジメントの点から報告した。また、オリンピック後の土地活用や、夜間景観演出など既存都市資源の魅力化といったハード整備、レッチワースや公営住宅の現在についても報告があった。

・ 4/12 京都市立芸術大学移転と

京都駅東部・崇仁地区のまちづくり

講師：中村伸之、藤本英子、山内政夫 参加者：51 名

2014 年 1 月、京都市が市立芸術大学を京都駅東部に移転する計画を発表した。そこにある崇仁地区の人々は永年差別と闘い、産業を興し、教育や住環境の改善を行ってきたことで知られるが、地元の小学校で発見された「水平社宣言」のリーフレットの世界記憶遺産への登録を進めていることでも注目され、近年は戦国期からの都市経営の姿も明らかになってきた。このような歴史に基づき、地域の人々は多様な主体の参加と協働によるエリアマネジメントを進めようとしており、講師から地区の歴史景

観、芸術大学と地域の連携、まちづくりについて報告を受け、芸術大学移転により文化創造・国際交流の地として大きく飛躍しようとする崇仁の姿に迫った。また、崇仁地区のまち歩きを開催した。

・ 5/15 仏教のなかのまちづくり思想

～曼荼羅からみたまちづくり原理～

講師：久保光弘 参加者：20 名

講師は阪神・淡路大震災からの復興まちづくりに取り組む中で、日本人には自律的なまちづくりを行う文化的遺伝子が潜在しているのではないかと感じるようになったという。また、「きんもくせい」の英語版で「まちづくり」を英語に訳すことが出来ず、Machidukuri としていることも、「まちづくり」が日本の概念であることを示唆している。このような問題意識から、仏教にその理解の手掛かりを得ようと、講師は仏教のなかのまちづくり思想について研究しており、その成果を報告していただいた。また、今後のまちづくり、とりわけ震災津波復興まちづくりに役立つ考え方について議論した。

2. JUDI プロジェクト

プロジェクトを会員より募り、以下の 5 件を採択し 5 万円/件の支援を行った。成果は本部ホームページ参照。

①歩行者空間デザインの可能性を探る その 2

ー福岡天神地区（九州ブロック、研修委員会と共同）

最近の歩行者空間デザインに関する勉強会（札幌大通り、新宿 3 丁目、名古屋、京都、大阪グランフロント等を事例に）、天神地区のまち歩き、天神地区に対する提案とこれからの歩行者空間デザインに関して討論を 2 日間のプログラムで実施。

②都市ブランドを創造する屋外広告物の研究 その 2 （京都の歴史的市街地を対象として）

関西・関東ブロック有志、NPO ストリートデザイン研究機構、NPO 京都景観フォーラムで合同チーム研究会・景観調査を 2014 年 5 月までに 11 回開催。成果を公開勉強会で報告し、まちづくり団体や屋外広告物団体のメンバーと意見交換。また、提案パンフレットを作成。

③地震や津波による被害からの海辺集落の復興に

関する調査 その 2（北海道、九州ブロックと共同）

過去に被災した玄界島、淡路島、奥尻島、和歌山沿岸

部を調査するとともに、阪神淡路大震災で復興事業に携わった方々にヒアリングを実施。都市計画学会ワークショップや都市環境デザインセミナーにて成果を報告。

④海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発（九州ブロック、都市計画学会と共同）
都市計画学会主催、JUDI・内閣府共催でシンポジウム「南海地震巨大地震への備え～九州の地域防災力を考える～」を大分市で開催。

⑤語り継ぐ「日本の都市環境デザイン」の系譜

JUDI の草創期において活躍された方々が取り組まれてきた成果と課題を明らかにすることによって、これからの都市環境デザインに求められる仕組みや技術、考え方などについて、特に若手を中心に考えていく議論の場をつくることを目的に、4 回の公開インタビューを実施。

3. 都市環境デザインフォーラム

日本の都市環境デザイナーのアジアでの役割を探る

～アジアの先導者か？ガラパゴスか？

フォーラム委員長 山本一馬

パネリスト：杉野卓史、八木健一、忽那裕樹、木下光
留学生 WS 参加者：李曉辰、Hugo Fromall、余連波、楊瑞、朴弘烈、王哲、陳文軒、Madhu Basnet
参加者：35 名

都市環境デザインにおける成熟期に達した我が国や欧米に対し、東アジアでは、さかんな都市化の中での都市環境デザインが求められている。史実をふりかえれば、成熟期の都市環境デザインを実践する日本の都市プランナーやデザイナーには、東アジアの発展、アジアからの発信にデザイン面、文化面で寄与したシルクロードのような結節点の役割が期待されるのではないかと。一方、日本人建築家がアジアで活躍できず、苦勞しているとの厳しい評判をよく耳にする。携帯電話の分野で言われているように、都市環境デザインにおいても、日本の技術はガラパゴス化しているのかもしれない。

こうした背景から、東アジアの都市環境デザインの現場でチャレンジしているパネリストを招き、実体験をうかがうとともに、日本の都市環境デザイナーのアジアでの役割について議論した。また、フォーラム開催に先立って実施した、日本でまちづくりや建築に関わる留学生や外国人による、日本的都市環境デザインに夢見たものとこれからというテーマの WS について報告した。

関西ブロック

■ 2014 年度の概要

2014 年度（第 24 期、2014 年 6 月 1 日～2015 年 5 月 31 日）は、「都市環境デザインセミナー」、公募型の「JUDI プロジェクト」、「都市環境デザインフォーラム」を実施した。

1. 都市環境デザインセミナー

以下の通り 10 回実施した。

・ 6/19 京阪神におけるエリアマネジメント活動の動向

講師：西 斗志夫 参加者：32 名

様々なタイプのエリアマネジメント活動が活発化している。強制力のある分担金を負担しまちづくりを進める BID 型を目指すもの、公園や道路等の公共空間の民間活用により幅広い活動展開を目指しているもの、大規模イベント活動主体のもの、従来のまちづくり活動をそのように呼んでいる場合もある。企業参加型まちづくりなど、まちづくり支援に関わる講師から、これらについての情報を披露していただいた。

・ 7/12 関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト パネルディスカッション＜近代の集合住宅団地は何を目指したか？＞

主催：関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト

共催：都市環境デザイン会議関西ブロック

・ 8/22 都市デザインと子供の教育

講師：河田祥司、高松誠治、武田重昭 参加者：17 名

一定の都市環境が整備され、リーダーや専門家によって魅力的な都市が作り出せる時代は終わり、住民の都市に対する関心や自負がなければ、都市の魅力を守り、育むことは難しくなっている。そのとき都市空間やそのデザインに対する人々の興味や正しい理解を育てるために、子供たちへの教育は大変重要な役割を担っている。そこで講師らの小学生や中学生に対するまちやまちづくりについての教育の実践事例や海外事例の紹介を通じて、子供たちにどのようにして都市空間やそのデザインの本質や魅力を伝えていけばよいかを議論した。

・ 9/2 都市ブランドを創造する屋外広告物の研究

京都の歴史的市街地を対象として

講師：千種芳幸、内藤郁子、中村伸之、宮沢功

参加者：30 名

都市景観が混乱し、国際文化観光都市としてのブラン

ド力低下が懸念されたことから、2007 年の新景観条例施行以来、思い切った政策実施により京都市の屋外広告物規制は着々と成果を上げている。その次に求められるものは、細かなエリアにおいてブランド力を高める屋外広告物や店構えのデザインを方向付けることだろうとの問題意識から、JUDI 関西と関東のメンバーが研究チームを結成した。京都市の歴史的市街地を対象に、地域アイデンティティの保全や都市ブランドの創造に貢献し、活力を呼び起こすような屋外広告物や店舗のあり方を 2 年間にわたって研究した成果が報告された。

・ 10/27 福岡・天神におけるエリアマネジメント

の 4 年を振り返って

講師：福田忠昭 参加者：33 名

同地区のエリアマネジメント団体 WeLove 天神協議会は、放置自転車対策やオープンカフェの設置などの社会実験の実施や、恒常化といった成果を上げるとともに、清掃活動やパトロール、来街者向けサービスの提供、集客イベントの実施など活動は多岐にわたり、防災意識の変化やエリア間競争への対応にも取り組んでいる。しかし、それらの継続には安定した組織づくりや財源確保といった課題もあることから、これら活動の評価・検証が重要である。講師はディレクターとして 4 年間、同地区のエリアマネジメントに関わってきた。その経験を振り返り、新たな社会状況のなかで、今後のエリアマネジメントのあり方や可能性、課題についてお話しいただいた。

・ 11/27 専業主婦から TMO 理事長へ

市民のつながりによる伊丹の賑わいづくり

講師：村上 有紀子 参加者：14 名

市民レベルの自律的なまちづくり活動の集積がまちの元気の源になるという考えから、活動を生みだし拡げていく試みが各地でおこなわれている。その代表である伊丹は、関西初の「伊丹まちなかバル」の開催をきっかけに、さまざまな自律的活動が起こり、賑わいのある面白いまちへと変貌している。その中心人物のひとりである講師から、活動の変遷や地域をつなげることのおもしろさ、大切さなどを、市民目線で披露していただいた。

・ 12/12 中国における新市街地、新都市開発

蘇州を中心に

講師：陳樂平、鳴海邦碩 参加者：21 名

中国における近年の新市街地・新都市開発の勢いはさまざま、まじかにそれを見た者は、「龍が目覚めた」という。失敗した都市開発の例も報道されているが、着

実に新機能を展開している都市が多い。そこで、蘇州を中心とした都市開発や市民の動向と、蘇州・杭州の視察を踏まえた「新幹線による地域連携」「新しい研究科学都市の建設」「歴史的環境の活用」の動向を紹介した。

・ 2/26 近年のパリの都市計画 町並みの保全と開発

講師：江口久美 参加者：33 名

パリの魅力の根源の一つである、現在のモザイク的な魅力の混在は、現在も続く保全と開発の均衡の賜物であり、この傾向はリヴォリ通りなどのパリの景観を代表する街路が開設された 19 世紀のパリ大改造まで遡る。このとき抜本的な改造への批判から、古きパリ委員会などによる歴史的建造物保全運動が起った。近年では、2000 年都市再生連帯法による地域都市計画への置換を皮切りに、様々な動きが見られる。講師からは 2002 年近隣民主主義法による近隣住区評議会による市民自治、シャンゼリゼ改造計画、パリ・プラージュプロジェクト、グランパリプロジェクト、パリセーヌ川左岸協議整備区域、サマリテーヌプロジェクト等を紹介していただいた。

・ 4/7 うめきた 2 期の都市環境デザインを考える

まちづくり方針を都市環境デザインの視点から読む
講師：堀口浩司、絹原一寛 コーディネーター：角野幸博
参加者：57 名

最終的な事業コンペに参加する権利を有する 20 者との対話を踏まえ、うめきた 2 期のまちづくり方針が策定され、さらに、都市計画決定や 2 次の民間事業者募集に向けた要項の整備、中心となる機能や主なテーマである「みどり」の内容の深化が進められている。これまでの大阪駅北地区開発における都市環境デザインの流れをたどりつつ、講師から構想の背景と潮流、「みどり」を中心テーマにした方針の解説があり、コーディネーターの進行により、この方針の都市環境デザインの視点からの読み解きを試みた。

・ 5/16 大阪市川口に出現した「中之島漁港」を体感する
講師：山本尚生、泉英明、松本篤 参加者：26 名

2012 年の大阪府・大阪市による「大阪都市魅力創造戦略」、2013 年の大阪府による「中之島ゲートエリア魅力創造基本計画」策定以降、期間限定の水辺活用の実験事業を行ってきたが、水都大阪パートナーズのコーディネートにより、初の民間企業の複数年活用が実現した。そこで、川口・江之子島のまち歩き、江之子島文化芸術創造センターと中之島漁港の見学会を行うとともに、講師からこれらについてお話いただいた。

2. JUDI プロジェクト

プロジェクトを会員より募り、以下の 2 件を採択し 5 万円/件の支援を行った。成果は本部ホームページ参照。

①歩行者空間デザインの可能性を探る その 3

ー姫路市大手前通りのトランジットモールを対象に
先進的な歩行者空間整備が進む同地区を対象に、まち歩き、地区の整備に関する姫路市・市民団体・交通事業者による講義、フィールド調査、参加者からの同地区への提案プレゼン、意見交換を 2 日間で実施。提案は取りまとめて市役所等に提供。

②語り継ぐ「日本の都市環境デザイン」の系譜

JUDI の草創期において活躍された方々が取り組まれてきた成果と課題を明らかにすることによって、これからの都市環境デザインに求められる仕組みや技術、考え方などについて、特に若手を中心に考えていく議論の場をつくることを目的に、2 回の公開インタビューを実施。

3. 都市環境デザインフォーラム

5/30 まちのマネジメントにおける

「ボードメンバー」の役割と可能性

フォーラム委員長 篠原祥

パネリスト：芝川能一、小林洋平、河崎泰了、山西輝和、泉英明、武田重昭

コーディネーター：角野幸博

報告者：岸田文夫、長谷川香里、若本和仁

参加者：64 名

都市の大部分を占める既成市街地の各所で、さまざまな形でのマネジメントが試行され、多様な主体の多様な想いを実現することが求められている。それに応えるにはマネジメントをおこなう組織に、様々な担い手が参加し、それぞれの力が存分に発揮され、相互に連携し、高いモチベーションを維持しながら活動していくことが肝要となる。それを実現していく手がかりを得るために、様々な担い手の中でも組織の要となるボードメンバーに着目した。フォーラムでは、マネジメントの動向調査、事例収拾等を報告するとともに、実際にボードメンバーとして活動する方々をパネリストにお招きし、マネジメントの方向性について議論した。また、優れたデザインのまちづくりブックを紹介する展示会を開催した。

今でも当時の生活文化や街並みが残っている。今回、鵜鷺元気な会事務局長の案内で北前船寄港地として栄えた歴史をたどるとともに、現在のまちづくりの取り組み等についてうかがった。夜には鵜鷺元気な会・会長、事務局長を交え交流会を開催。



2. 中心部のまちづくり

◎白潟本町のまちづくり

訪問先 : 島根県松江市白潟本町
 実施日 : 2015年1月17日(土)
 参加者 : J U D I 会員 6名
 [26名] 一般 20名
 内 容 : 「白潟本町まちづくり協議会」が主催する「参加したくなるまちづくり」勉強会へJ U D I 中国ブロックとして参加。講師は大谷英人氏と松波龍一氏が務めた。白潟本町は松江市中心部に位置する商店街。建物の1階部分をセットバックして民地にアーケードを設けたが、建設から40年以上が経過し、老朽化が課題となっている。



◎雲南市中心部のまちづくり

訪問先 : 島根県雲南市
 実施日 : 2015年2月13日(金)
 案内人 : 雲南市商工会中心市街地活性化推進室長
 参加者 : J U D I 会員 5名
 [6名] 一般 1名
 内 容 : 中心市街地活性化協議会立ち上げを検討している雲南市へうかがい、その事務局を担っている雲南市商工会中心市街地活性化推進室長に想定している中心市街地エリアを案内いただいた。旧市街地ではなく、平成17年の町村合併後に発展してきたエリアという特徴をもつ。その後商工会へ戻り意見交換を行った。



◎大社町神門通りのまちづくり

訪問先 : 島根県出雲市大社町
 実施日 : 2015年4月4日(土)
 参加者 : J U D I 会員 7名
 [9名] 一般 2名
 内 容 : 神門通り蘇りの会代表田邊達也氏に、出雲大社の参道である「神門通り」のまちづくりについて現地を案内していただくとともに話をうかがった。



四国ブロック

■ 2013 年度の概要

2013 年度は、シンポジウムと総会を開催した。

1. シンポジウム

『シンポジウム・リノベーションから考える、こらからの「まちなか再生」』

会 場：「スペース 114」（旧百十四銀行丸亀支店）

実施日：2014 年 5 月 31 日（土）

講 師：井上信行、山口憲二、幸家大郎

参加者：JUDI 会員 5 名

一般 60 名

内 容：まちなかの建物ストックの活用は、これからの「まちなか再生」のカギといわれています。このシンポジウムでは、“起業などを希望する入居者が地域に馴染み暮らせるよう、建て方・住まい方・暮らし方をコーディネートする京都の不動産業と設計者のお二人”と“解体からはじまる制作プロセスに自ら関わり、新旧組み合わせのバランスで新しい空間を創造する大阪の設計者”から事例報告を受け、リノベーションをキーワードに「まちなか再生」について一緒に考えます。



2. 四国ブロック総会

会 場：「スペース 114」（旧百十四銀行丸亀支店）

実施日：2014 年 5 月 31 日（土）

参加者：JUDI 会員 5 名

2013

2014

■ 2014 年度の概要

2013 年度は、セミナーと総会を開催した。

1. セミナー

『千里ニュータウンから学ぶまちの変貌とコミュニティ再生』

会 場：香川県文化会館

実施日：2015 年 5 月 10 日（日）

講 師：太田博一

参加者：JUDI 会員 6 名

一般 22 名

内 容：近代的都市を目指してつくられた千里ニュータウンは入居から 50 年が過ぎ、居住者の高齢化、家族形態の変化、新たな世帯の流入、集合住宅の建て替えなど、近年まちの更新は急速に進み、コミュニティや景観など生活環境にかかわる 様々な課題が顕在化しつつあります。このような課題に対して地域の住民や行政は、「身近な縁（えん）」を再評価するなど自分たちが暮らすまちを住み続けたい魅力あるものにするための様々な取り組みを始めています。 このセミナーでは、千里



ニュータウンの取り組み報告を受け、我々が暮らす 地方都市でも起こっている同様の課題について一緒に考えます。

2. 四国ブロック総会

会 場：香川県文化会館

実施日：2015 年 5 月 10 日（日）

参加者：JUDI 会員 6 名



九州ブロック

■ 2013・2014 年度の概要

第1回 JUDI 全国大会を福岡で開催した他、セミナー、フォーラム、シンポジウムを計5回開催（うち2回は共催）した。

1. JUDI 全国大会 2013 福岡

開催日：2013 年 9 月 14 日（土）～ 16 日（月）

会 場：アクア博多、アクロス福岡、門司港、柳川

テーマ：再生の都市デザイン

プログラム

①基調講演：博多駅のデザインを解剖する

講師：森田昌嗣（九州大学）

②パネルディスカッション：

福岡の都市デザインのこれから

コーディネータ：中野恒明（芝浦工業大学）

パネラー：森田昌嗣、柴田久（福岡大学）、
福田忠昭（WeLove 天神協議会）、
溝口直美（福岡地所）

③プロジェクト報告会

④ JUDI あり方検討会・公開討論会

⑤シティ遊覧：FUKUOKA OPEN TOP BUS

⑥エクスカーション

A コース：門司港レトロの都市デザイン探訪

案内人：中野恒明

B コース：柳川の川下りと城下巡り

案内人：高山美佳（地域デザイナー）



エクスカーション（門司港）



パネルディスカッション

2. セミナー、フォーラム、シンポジウム

①まちづくりセミナー「これからの都市の風景

フクオカ×ニューヨーク」

開催日：2013 年 7 月 16 日（火）

会 場：冷泉荘

主 催：これからの都市デザインを考える会

共 催：JUDI 九州

後 援：NPO 法人福岡ビルストック研究会、
風景デザイン研究会

参加者数：46 名

プログラム

- ・ニューヨーク視察報告：福田忠昭（JUDI 九州）
- ・セッション：福田忠昭、柴田久（福岡大学）、水谷元（建築家）

②歩行者空間セミナー「歩行者空間デザインの

可能性を探る その2 ー福岡市天神地区」

開催日：2014 年 2 月 15 日（土）～ 16 日（日）

会 場：福岡ビル、天神ビル

主 催：JUDI 関西・九州、研修委員会

協 力：WeLove 天神協議会

参加者数：1 日目 26 名、2 日目 19 名

プログラム

- ・これからの歩行者空間デザインに関する勉強会
利用・運用とそれを支えるデザイン
- ・天神地区のまち歩き
- ・提案発表、意見交換

2013

2014



歩行者空間セミナー

③シンポジウム「南海トラフ巨大地震への備え ～九州の地域防災力を考える～」

開催日：2014年5月24日（土）

場 所：NHK大分放送局

主 催：日本都市計画学会九州支部・関西支部・中国四国支部

共 催：内閣府、JUDI

参加者数：106名

プログラム

- 報告：大分県・臼杵市の津波被害対策、臼杵・上堅田の地区防災活動の取組み、復旧・復興初動期の備え
- 内閣府説明：地区防災計画制度と地区防災計画ガイドライン
- 全体議論：日高圭一郎（九州産業大学）、柴田祐（熊本県立大学）、小林祐司（大分大学）



シンポジウム・全体議論

④まちづくりセミナー「まちのパブリック空間の これからを考える」

開催日：2014年12月2日（火）

場 所：冷泉荘

参加者数：34名

プログラム

- 事例紹介：喜多峻平（昼の中洲づくりプロジェクト）、片田江由佳（福岡ピクニッククラブ）
- ディスカッション：喜多峻平、片田江由佳、柴田久（福岡大学）、下野弘樹（Future Studio 大名+）、宮本 信太郎（福岡市）、服部圭郎（明治学院大学）



まちづくりセミナーでのディスカッション

⑤まちづくりフォーラム 「SOCIAL × URBAN DESIGN FORUM」

開催日：2015年2月28日（木）

場 所：キャナルシティビジネスセンタービル

主 催：JUDI九州、日本都市計画家協会福岡支部

参加者数：41名

講 師：兼松佳宏（greenz.jp 編集長）



まちづくりフォーラム・対話の時間

コミュニケーション委員会

■ 2013 年度委員会メンバー

委員長：角野 幸博

委員：伊藤 登、齊藤 浩司、酒本 宏、長町 志穂、
中村 伸之、堀口 浩司、飯田 とわ、栗原 裕

1. ホームページ

ホームページの更新を行うとともに、アーカイブの充実の検討を行った。

2. フェイスブック

フェイスブック（会員向および一般向）に随時情報発信を行った。

都市環境デザイン会議 : HP・FB更新履歴		
日 付	対 象	更 新 内 容
2013年6月4日	HP	2013都市環境デザインメッセのご案内 第23期定例総会のお知らせ（詳細PDF） 第239回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2013年6月13日	HP・FB【一般・会員向】	全国大会のご案内
2013年6月19日	HP	第240回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2013年6月28日	HP・FB【会員向】	第23期定例総会議案書：会員専用ページ
2013年7月8日	HP	2013年国際ツアーのご案内
2013年7月10日	FB【一般】	JUDI復興未来会議室「公開グループ」開設のお知らせ
2013年7月16日	HP・FB【一般・会員向】	2013都市環境デザインモニターメッセ
2013年7月18日	HP・FB【一般・会員向】	全国大会2013in福岡のご案内
2013年7月24日	HP・FB【一般・会員向】	関東ブロック：第2回JUDI関東セミナーのお知らせ
2013年7月25日	HP・FB【一般・会員向】	全国大会2013in福岡のご案内
2013年7月31日	HP・FB【一般・会員向】	第1回パブリックデザイン・セミナー開催のお知らせ
2013年8月20日	HP	第241回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2013年8月23日	HP	第2回パブリックデザイン・セミナー開催のお知らせ
2013年8月26日	HP	2012年度プロジェクト：アーカイブページ
	FB【会員向】	2012年度プロジェクト：アーカイブページ掲載のお知らせ
2013年9月10日	HP	JUDI復興未来会議室「公開グループ」開設のお知らせ JUDI復興未来会議室へのリンク（バナー） 口座振替のご案内
2013年9月17日	HP	学生会員の年会費改訂のお知らせ
2013年9月30日	HP	第3回パブリックデザイン・セミナー開催のお知らせ
2013年10月1日	HP	第242回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2013年10月3日	HP	第23期定例総会議事録：会員専用ページ
2013年10月18日	HP・FB【一般・会員向】	第2回JUDIパブリックデザイン賞のお知らせ
2013年10月21日	HP	第4回パブリックデザイン・セミナー開催のお知らせ
2013年10月22日	HP・FB【一般・会員向】	静岡都市デザイン勉強会：復興シンポジウム開催のお知らせ
2013年10月23日	HP・FB【一般・会員向】	中部ブロック：講演会のお知らせ
2013年11月5日	HP・FB【一般・会員向】	復興未来会議：復興シンポジウム開催のお知らせ
2013年11月25日	HP	第4回パブリックデザイン・セミナー開催のお知らせ
2013年12月18日	HP	2012年度プロジェクト：アーカイブページ
2013年12月24日	HP	第5回パブリックデザイン・セミナー開催のお知らせ
2013年12月27日	HP	2011年度・2012年度プロジェクト：アーカイブページ
2013年1月25日	FB【一般・会員向】	関東ブロック：まち歩き+忘年会開催のお知らせ
2014年1月16日	HP	2012年度プロジェクト：アーカイブページ
2014年1月20日	HP・FB【一般・会員向】	都市デザイン交流会フォーラム2014開催のお知らせ
2014年1月27日	HP	第243～246回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2014年2月5日	HP・FB【一般・会員向】	八王子市：後援イベント開催のお知らせ
2014年2月7日	HP	メンバーズ：ポートフォリオ原稿募集のご案内
2014年2月12日	HP・FB【一般・会員向】	中村ひとし氏講演会開催のご案内
2014年2月24日	HP・FB【一般】	都市デザイン交流会フォーラム2014のお詫び
2014年2月25日	HP・FB【一般・会員向】	中川崇子氏セミナー開催のご案内
2014年2月25日	HP・FB【一般・会員向】	第6回パブリックデザインセミナー開催のご案内
2014年2月27日	HP・FB【一般・会員向】	新宿区：他団体イベントのご紹介
2014年3月3日	HP	第7回パブリックデザインセミナー開催のご案内
	HP	第1回パブリックデザイン賞：アーカイブページ
2014年3月4日	FB【一般・会員向】	第1回パブリックデザイン賞：アーカイブページ掲載のお知らせ
2014年4月4日	HP・FB【一般・会員向】	2/22フォーラム記録集の公開
2014年4月21日	HP	第8回パブリックデザインセミナー開催のご案内
2014年4月28日	HP	第248回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2014年4月30日	HP・FB【一般・会員向】	5/24日本都市計画学会イベント開催のお知らせ
2014年5月1日	HP・FB【一般・会員向】	5/24日本都市計画学会イベント開催のお知らせ（修正再掲）
2014年5月1日	HP・FB【一般・会員向】	インターンシップ制度受入先情報掲載（更新）
2014年5月7日	HP	インターンシップ制度受入先情報掲載（更新）
	HP	2014年国際ツアーのご案内
	HP	定例総会開催のお知らせ
2014年5月22日	HP	第9回パブリックデザインセミナー開催のご案内
2014年5月23日	HP	インターンシップ制度受入先情報掲載（更新）
2014年5月29日	HP	ポートフォリオページ作成

3. アニュアルレポート

「アニュアルレポート 2012」の編集作業を行った。ただし、原稿が遅れているため発行はできなかった。

4. コミュニケーション委員会

2014年3月8日（土）に、大阪駅前第3ビル地下2階珈琲店「スパニョラ」にて「臨時コミュニケーション委員会」を開催した。参加者は、角野委員長、堀口委員、酒本委員、栗原委員、松山代表幹事（オブザーバー）

JUDIコミュニケーション委員会【臨時開催】	
	2014年3月8日・9：30 大阪 駅前第3ビル付近
1. ホームページ・フェイスブックの更新情報報告	フェイスブック（会員向）登録者数128名 別途資料参照【年間120,000円でアーバンプランニングネットワークに委託】 ホームページ維持費【サーバー代：3,318円、ドメイン更新料：10,143円】 予算額：125,000円
2. 『JUDI アニュアルレポート 2012（仮題）』について	別途資料参照（目次案） 締切3月31日、原稿提出は関東ブロックのみ 編集費A4版（52ページ）：100,000円程度 印刷費A4版（52ページ、カラー）：155,000円程度（500部）、178,000円程度（1,000部） 予算額：325,000円
3. 『ポートフォリオ』（事業委員会に委託）について	予算額：100,000円
4. ホームページのアーカイブの充実	新規資料等についてはその都度実施している 過去の出版物の整理 → 次年度の予算化？
5. 次年度の活動	ホームページ・フェイスブックの更新【年間予算135,000円程度】 （内容更新料：120,000円、サーバー代：3,352円、ドメイン更新料：10,260円） 『JUDI アニュアルレポート 2013（仮題）』【年間予算135,000円程度】 その他の活動
6. その他	次回コミュニケーション委員会の開催 その他

5. ブロック取材

アニュアルレポートにブロック活動紹介を入れることとし、2014年5月31日（土）の四国ブロック総会およびシンポジウム『リノベーションから考えるこれからの「まちなか再生」』を取材した（飯田委員）。

6. メンバーズポートフォリオ

事業委員会がまとめている「メンバーズポートフォリオ」の印刷費をコミュニケーション委員会で行う予定であったが、原稿の集まりが悪いため今期の印刷は中止した。

■ブロック取材『四国訪問アルバム』

(飯田とわ)

2014年5月31日(土)に丸亀で開催された、JUDI 四国ブロック総会、シンポジウムに参加しました。四国ブロックでも高齢化と人材不足に悩んでいると伺いましたが、シンポジウム『リノベーションから考える これからの「まちなか再生」』には参加人数も多く、若い人も参加していて(相対的な若者、でなくて)、正直ちょっと意外でした。空き家活用等の事例がいくつか紹介され、これから地元に活かしていくんだ!みたいな雰囲気を感じました。

翌日にはアンパンマン列車に揺られて高知へ。もう一つの目的だった牧野植物園へ行ってきました。室内展示

も外も変化に富んでいて飽きさせない、もっと長くいたいなと思わせる空間でした。季節を変えてまた行きたいです。



■シンポジウム風景

■現代美術館とピーターウォーカーによる JR 丸亀駅前広場



■とりあえず腹ごしらえ



■銀行の建物が会場



■四国ブロックの総会風景



■夜の駅前広場 (光る !!)



■JR 高知駅とアンパンマン列車



■牧野植物園



■おまけの竜馬君



コミュニケーション委員会

■ 2014 年度委員会メンバー

委員長：角野 幸博

委員：伊藤 登、齊藤 浩司、酒本 宏、長町 志穂、
中村 伸之、堀口 浩司、飯田 とわ、栗原 裕

2. ホームページ

ホームページの更新を行った。

3. フェイスブック

フェイスブック（会員向 [メンバー 143 名] および一般向）に随時情報発信を行った。

4. アニュアルレポート

2014 年 10 月に「アニュアルレポート 2012」を発行した。「アニュアルレポート 2013」については準備が間に合わなかったため次年度の発行とした。

2014年度(24期) 都市環境デザイン会議 : HP・FB更新履歴

日 付	対 象	更 新 内 容
2014年6月6日	HP	ポータルページ更新
2014年6月9日	HP	全国大会2014のお知らせ
2014年6月13日	HP	PO賞告知更新
2014年6月23日	HP	ポータルページ更新
2014年6月24日	FB【一般・会員向】	関東ブロック：海外キャラバンのお知らせ
	FB【会員】	関東ブロック：海外キャラバンのお知らせ
2014年7月14日	HP	中部ブロック：プロジェクト報告書の掲載
	HP	総会議案書、出欠及び委任状・書面評決書類の掲載
2014年7月15日	HP・FB【一般・会員向】	関東ブロック：総会議案書まわりのお知らせ
2014年7月25日	HP	新パンフレット掲載
	HP	あり方検討会議案書の掲載：アーカイブページ
2014年7月28日	HP	第24期（2014年度）新役員名簿の更新
2014年8月4日	HP	第249～251回代表幹事会議事録：会員専用ページ
	HP	語り継ぐ『日本の都市環境デザイン』の系譜の公開：アーカイブページ
2014年8月8日	HP	規約・内規・役員選出規定の更新
2014年9月1日	HP	屋外広告物プロジェクト報告書の掲載：アーカイブページ
2014年9月5日	HP	第252回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2014年9月8日	HP	2014年度プロジェクト募集要項
	HP	全国大会2014のお知らせ
2014年9月11日	HP・FB【一般・会員向】	2041都市環境デザインモニターメッセのお知らせ
2014年9月12日	HP	特別会員申込書の更新：入会案内ページ
2014年9月24日	HP	総会議事録の掲載
	HP	復興未来会議イベントのお知らせ
2014年9月29日	HP	ポータルページ更新
2014年9月30日	HP	第253回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2014年10月7日	HP	ポータルページ更新
	HP	POセミナー記録書の掲載：アーカイブページ
2014年10月20日	HP	PO受賞作品・応募作品の公開
2014年10月22日	HP	2014年度プロジェクト1次審査結果
	HP	第254回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2014年11月10日	HP	アニュアルレポート2012公開
	FB【一般】	アニュアルレポート2012公開のお知らせ
2014年11月14日	HP・FB【一般・会員向】	都市デザイン交流会フォーラム2014その2開催のお知らせ
2014年12月18日	HP	第255回代表幹事会議事録：会員専用ページ
	HP	第256回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2014年12月27日	HP	2014年度プロジェクト2次審査結果
2015年1月28日	HP	第257回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2015年2月4日	HP	2014年度プロジェクト3次審査結果
2015年2月6日	HP	ポータルページ：書式類更新
2015年2月24日	HP	ポータルページ更新
2015年3月10日	HP	第258回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2015年5月1日	HP	第259回代表幹事会議事録：会員専用ページ
2015年5月13日	HP	国際委員会：国際ツアー215のお知らせ

都市環境デザイン会議
アニュアルレポート

ANUAL REPORT 2012

第24期（2014年5月31日終了年度）

JUDI
JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

CONTENTS

■ 都市環境デザイン会議の2012年	02
代表幹事会	04
■ 各ブロックの活動	06
北海道ブロック	06
北陸ブロック	08
関東ブロック	10
中部ブロック	12
関西ブロック	14
中国ブロック	16
四国ブロック	17
九州ブロック	18
総経ブロック	20
■ プロジェクト活動	22
有松地区一帯の都市環境の復興に向けたビジョンづくりと活動支援	22
博多まちづくりシンポジウム	24
都市ブランドを創造する屋外広告物の研究	26
地震と津波による被害からの防災意識の復興に関する調査	28
東日本大震災における自主復興の実態に関する調査	30
中部ブロックメンバーによる東日本大震災への復興計画策定づくり	32
歩行者空間デザインの可能性を模索	34
メンバーズポータルフォーラムとブロックパンフレット	36
■ 委員会の活動	38
研究委員会	38
広報委員会	39
事業委員会	40
国際委員会	42
■ その他の活動	44
あり方検討会	44

5. コミュニケーション委員会

2014年12月5日(金)に、ナレッジサロン「グランフロント大阪北館7階」にて「2014年度第1回コミュニケーション委員会」を開催した。参加者は、角野委員長、伊藤委員、斉藤委員、酒本委員、中村委員、堀口委員、栗原委員、富岡代表幹事(コミュニケーション委員会担当代表幹事)、永山担当(HP更新委託先)

JUD1コミュニケーション委員会 [2014年度第1回]	
2014年12月5日・18:00 ナレッジサロン [グランフロント大阪北館7階]	
出席予定者(敬称略): 角野委員長、伊藤、斉藤、酒本、中村、堀口、栗原、富岡 [担当代表幹事]、永山 [HP担当]	
1. ホームページ・フェイスブックの更新情報報告 フェイスブック(会員向)登録者数128名 別途資料参照 [年間120,000円で阿ーパングランピングネットワークに委託]	
1. ホームページについて	
① アーカイブの充実(内容・方法等) ② 「全国ブロックだより」(情報収集方法等)	
※ 公式ホームページについては、代表幹事会でも責任を担っていく。改善点としては、イベントの告知のみでなく、活動をテーマごとに類型化し、おおよかな良田の活動が一目瞭然に分かるよう、テーマ性のあるデザインにする必要がある。	
[第254回 代表幹事会 議事録]	
2. フェイスブックについて	
① 登録会員の増加方法等 Facebook登録者数: 139名(協力法人関係者等含、確認済130名) ② 会員以外の参加希望の扱い(会員向グループ) ③ 会員登録なしで承認している場合がある(道会者の削除) ④ 情報発信方法等 会員向グループと一般向ページの必要性	
3. アニュアルレポートについて	
① アニュアルレポート2012についての総括(発行済み)	
※ アニュアルレポートは、各部署に依頼し提出されたものをそのまま合冊されたようで、版面編集・デザインが洗練されていない。定型化したデザインフォーマットによる原稿依頼・編集や、IP記事と連動した編集など、手間を省くためにデザインのクオリティをあげる工夫が必要。編集体制や発信するツール(報告書発行、Web配信、など)を含め、コミュニケーション委員会と意見交換をする必要がある。	
[第254回 代表幹事会 議事録]	
② アニュアルレポート2013、2014について(内容・発行時期等) ③ 「ブロック訪問記」(2013は四国ブロック取材済み)	
4. メンバーズポートフォリオについて	
① 事業委員会との調整 提出者が少ない(次ページ「8. 参考資料」参照) ② 印刷時期 予算は確保してあるが今の状況(提出数)では印刷する意味がない。	
5. 会員の交流促進について	
① 総会、全国大会の交流会等	
6. JUD1機関誌の発行について	
① 機関誌の発行希望あり ② TDA機関誌「数値文化」との共同化(非公式の打診あり)	
7. その他	

6. メンバーズポートフォリオ

事業委員会がまとめている「メンバーズポートフォリオ」は、原稿の集まりが悪いため当面印刷物の発行はし

ないこととし、PDF版をホームページに掲載することとした。



事業委員会

■ 2013 年度の概要

2013 年度は、「2013 JUDI 都市環境デザインモニターメッセ」「パブリックデザインセミナー」「メンバーズポートフォリオとブロックパンフレットまとめ」を行なった。

1. 2013 JUDI 都市環境デザインモニターメッセ

日時 2013 年 10 月 19 日 (土)

会場 日本大学 お茶の水キャンパス
理工学部 1 号館 2 階大会議室

◎パブリックデザインセミナー

「第 3 回 製造技術からデザインを考える」

講 師

藤田 浩暢 (日本興業)

北村 仁司 (ヨシモトポール)

全体総括

地下 調 (国土交通省都市局公園緑地・景観課 課長補佐)

セミナーマネージャー

伊藤 登 (プランニングネットワーク)

工藤 勉 (ヨシモトポール)

司会進行

小早谷 信之 (標プランニング)

同セミナーは、「2013 都市環境デザインモニターメッセ」の開催に合わせ、同日公開セミナーとして開催された。セミナー講師による話題提供のためのプレゼンテーションの後、セミナーテーマである「製造技術からデザインを考える」ことについて、講師と受講者、ならびに来場者を交えての活発なディスカッションが行われた。



◎プレゼンテーション

『パブリックデザインにおける製造技術』

今回のテーマは製造技術の発展によってパブリックデザインにどう関与することができるかをテーマに発表していただいた。

挨拶：須田 武憲 / GK 設計 (事業委員会委員長)

司会進行：茂手木 功 / 片平エンジニアリング

■三協立山株式会社 三協アルミ社

『富山大橋・新湊大橋の風騒音対策について』

発表者：田中 博

／パブリックエクステリア部景観エクステリア課

コメンター：中井川 正道 / FIT 環境デザイン研究所

栗原 裕 / ユー・プラネット



■株式会社住日軽エンジニアリング

『アルミ合金材防護柵「PANORAIL」』

発表者：酒見 真志 / 道路設計部

コメンター：横川 昇二 / 東京工科大学

伊藤 登 / プランニングネットワーク



■ヨシモトポール株式会社

『異素材コラボレーション』

発表者：和田 晃 / 都市景観グループ

コメンター：斎藤 浩治 / Mind-J、酒本 宏 / KITABA



■株式会社ノナガセ 『天然土系舗装ソイルバーン工法 ープレミックスタイプの開発』

発表者：西田 幹

コメンター：杉山 朗子 / 日本カラーデザイン研究所

谷口 雅彦 / 都市環境研究所



■PVG Solutions 株式会社 『両面受光型太陽光発電

システムの都市環境デザインへの可能性』

発表者：石川 直揮 / 代表取締役

コメンター：宮沢 功 / ヨシモトポール

長町 志穂 / LEM 空間工房



■カネソウ株式会社

『スリットみぞ蓋の納まり事例紹介』

発表者：石川文和／マーチャングデザイン部

コメンター：松山 茂／都市空間研究所

横山 公一／プランニングネットワーク



◎ポスターセッション

■東洋工業株式会社『環境と安全に配慮した舗装材の
御提案 ワンユニオンシステム』

■日本興業株式会社『遮熱性舗装ブロック
＜ランドサーマス＞のご紹介』

■太平洋プレコン工業株式会社『超高強度繊維補強
コンクリート(ダクトル)の特長を活かした景観製品』

■株式会社コトブキ『平常時と非常時の対応を
併用した避難サイン』



2. パブリックデザインセミナーの開催

事業委員会では、都市景観の中でも特に景観材料や景観製品にスポットをあて、その質の向上を目指し実際に製造されるメーカーの方々、計画者、設計者、デザイナー、発注する行政の方々が一体となって議論する場として、パブリックデザインセミナーを企画し、全9回を開催し活発な議論が行なわれた。

第1回 機能・用途からデザインを考える

日時 2013年8月22日(木) 16:00～19:00

講師 天野光一 (JUDI 会員・日本大学教授)、
須田武憲 (JUDI 会員・GK 設計)

参加者 26 名

第2回 価格からデザインを考える

日時 2013年9月27日(金) 16:00～19:00

講師 一木 誠 (JUDI 会員・コトブキ)

山谷 清 (JUDI 会員・三協アルミ)

参加者 21 名

第3回 製造技術からデザインを考える

日時 2013年10月19日(土) 15:45～19:00

講師 藤田浩暘 (JUDI 会員・日本興業)

北村仁司 (JUDI 会員・ヨシモトポール)

参加者 21 名

第4回 施工技術・性能からデザインを考える

日時 2013年11月22日(金) 16:00～18:30

講師 玉井重吉 (住軽日軽エンジニアリング)

清水真悟 (岩崎電気)

参加者 21 名

第5回 維持管理からデザインを考える

日時 2013年12月20日(金) 16:00～19:00

講師 栗原裕 (JUDI 会員・ユープラネット)

富岡仁計 (JUDI 会員・住軽日軽エンジニアリング)

参加者 19 名

第6回 景観・審美性からデザインを考える

日時 2013年12月20日(金) 16:00～19:00

講師 茂手木功 (JUDI 会員・片平エンジニアリング)、

田中一雄 (JUDI 会員・GK インダストリアルデザイン)

参加者 26 名

第7回 安心・安全性からデザインを考える

日時 2014年4月19日(土) 16:00～19:00

講師 横川昇二 (JUDI 会員・東京工科大学教授)

小早谷信之 (JUDI 会員・標プランニング)

参加者 17 名

第8回 地域・場所性からデザインを考える

日時 2014年5月21日(水) 16:00～19:00

講師 高見公雄 (JUDI 会員・法政大学教授)

谷口雅彦 (JUDI 会員・都市環境研究所)

参加者 22 名

第9回 トータルでデザインを考える

日時 2014年6月20日(金) 16:00～19:00

講師 工藤勉 (JUDI 会員・ヨシモトポール)

伊藤登 (JUDI 会員・プランニングネットワーク)

参加者 24 名

3. メンバーズポートフォリオとブロックパンフレット企画

今期より、メンバーズポートフォリオをブロックパンフレットを募集し、順次 JUDI ホームページにアップした。(詳細は別途プロジェクト報告を参照されたい)

事業委員会

■ 2014 年度の概要

2014 年度は、「2014 JUDI 都市環境デザインモニターメッセ」「第 2 回パブリックデザイン賞の募集、選考、表彰」「シンポジウム / 公共空間のトータルデザインを目指して」「JUDI 事業委員会の解散と一般社団法人パブリックデザインコンソーシアムの設立宣言」を行なった。

1. 2014 JUDI 都市環境デザインモニターメッセ

日時 2014 年 10 月 18 日 (土)

会場 日本大学 お茶の水キャンパス
理工学部 1 号館 2 階大会議室

◎プレゼンテーション

テーマ『公共空間のトータルデザインを目指して』

挨拶：須田 武憲 / GK 設計（事業委員会委員長）
司会進行：茂手木 功 / 片平エンジニアリング

前年に開催したパブリックデザインセミナーの最終章のテーマであった「トータルにデザインを考える」から、本年のモニターメッセのプレゼンテーションは「公共空間のトータルデザインを目指して」をメインテーマに据えた。今回のプレゼンテーションについてはそれを考慮の上、各社に発表していただいた。

■ ヨシモトポール株式会社『避難誘導システム』

発表者：永田 大樹 / 都市プロジェクト部

コメンター：井上 洋司 / 背景計画研究所

尾辻 信宣 / G 計画デザイン研究所



■ 株式会社住日軽エンジニアリング

『アルミ合金製拡幅床版』

発表者：小泉 泰亮 / 設計技術部

コメンター：松山 茂 / 都市空間研究所

斉藤 浩治 / Mind-J



■ 株式会社復元屋『〈未来への継承〉歴史的建築物の

タイル復元技術からリニューアル工事用タイルまで』

発表者：赤井 祐仁

コメンター：八木 健一 / 八木造景研究室

杉山 朗子 / 日本カラーデザイン研究所



■大成ロテック株式会社

『インジェクト工法による車道石張り舗装の施工例』

発表者：捧 加奈美／本社営業部

コメンテーター：高見 公雄／法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科
栗原 裕／ユー・プラネット



■SD. Hess Lighting株式会社

『ライトアップ照明のご紹介』

発表者：兵藤 真一郎／営業部

コメンテーター：宮沢 功／Y P Design
天野光一／日本大学理工学部まちづくり工学科



■カネソウ株式会社

『スリットみぞ蓋の納まり事例紹介』

発表者：石川 文和／マーチャンダイジング部

コメンテーター：江川 直樹／関西大学環境都市工学部建築学科
谷口 雅彦／都市環境研究所



◎ポスターセッション

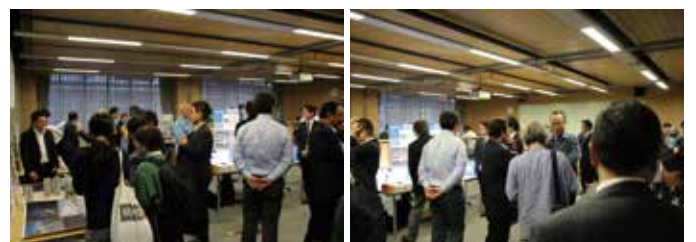
■株式会社コトブキ『JIS Z 9097 津波避難誘導標識システムに則した防災サインのご提案』

■東洋工業株式会社『多様なニーズに対応する東洋工業の施工実績』

■太平洋プレコン工業株式会社『ヒートアイランド対策に役立つ遮熱 I L B』

■株式会社スズオカ『高強度・軽量 薄型内照式 LED サイン』

■伊藤鉄工株式会社『ヒューマニクランドスケープ、復元技術のご紹介』



事業委員会

2. 第2回 JUDI パブリックデザイン賞

■趣旨

都市環境デザイン会議（JUDI）は、2014年をもって設立24周年を迎え、1993年から始まったモニターメッセも23回を数えた。その間に発表された製品等は300例余り、参加企業数も100社近くに上る。

この間に発表された製品の中には、今日都市環境デザイン製品のスタンダードとなったものも少なくない。また、JUDI会員の作品も数多く整備されてきた。しかし、都市デザインや景観に対する社会的な関心が高まる一方で、社会や経済環境の変化に伴い、国や自治体のまちづくりや景観事業も減少し、関連する製品メーカー、施工業者も厳しい状況にある。

このような状況を踏まえ、2010年に都市環境デザイン、パブリックデザインの向上に貢献している企業・団体等の活躍を社会に広め、もってその取組みを支援することを目的に、活動や実績を顕彰する「JUDIパブリックデザイン賞」が創設され、今回は第2回となる。

■選考方法

パブリックデザイン賞の選考は、事業委員会の中に「選考委員会」を設けて行った。選考委員は、JUDIメンバーの中から建築、土木、造園、パブリックデザイン等の専門家に依頼し、選考会議における討議によって各賞を選定した。

・募集期間：2014年4月～2014年7月

・パブリックデザイン賞選考会議 2014年9月30日

選考委員長：須田 武憲（事業委員長）

選考委員：横川 昇二（東京工科大学）

高見 公雄（法政大学）

天野 光一（日本大学）

角野 幸博（関西学院大学）



選考会議風景



須田委員長



横川委員



高見委員



天野委員



角野委員

■選考結果・表彰式

●製品部門・大賞

○U字溝用スリット蓋ボーダースリット・センター
スリット・バーチカルスリット
応募者：カネソウ(株)／石川 文和



カネソウ(株)／石川 文和 氏

●空間部門・大賞

○浜甲子園さくら街

応募者：関西大学／江川 直樹



関西大学／江川 直樹 氏

●製品賞

○避難誘導システム

応募者：ヨシモトポール(株)／丸山 浩二

○瓦舗装材 瓦コンクリート@サイエンスヒルズこまつ

応募者：(株)エコシステム／高田 実

○奈良県 奈良公園 観光案内板

応募者：(株)コトブキ／山室 浩一

○Float Floor system 1. 関西外国語大学 2. 山田中学校

応募者：日本興業(株)／藤田 浩暢

■空間賞

○煉瓦倉庫周辺・夜間景観整備

応募者：(株)LEM 空間工房／長町 志穂

○INAKA イルミ@おおなん 2013 (2010,2011,2012)

応募者：(株)LEM 空間工房／長町 志穂

○旧北上分流施設群（脇谷水門、鴛波水門）

応募者：(株)プランニングネットワーク／岡田 一天

○金沢駅西広場

応募者：(株)国土開発センター／新田川 貴之

■ブロック賞

○阿波しらさぎ大橋（徳島東環状大橋）導流板

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング／富岡 仁計

○やまびこの家（目神山地域住民集会所）

応募者：関西大学／江川 直樹

○横断防止柵およびサポーター [越谷型]

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

■特別賞

○シェルター [越谷型]

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

○TOKYOLIGHTS Four S For S

応募者：前橋工科大学／松井 淳

○新潟駅南口駅前広場

応募者：(株)住軽日軽エンジニアリング／富岡 仁計

○近鉄菖蒲池駅 駅前広場 シェルター・サイン

応募者：(株)コトブキ／山室 浩一

■グッドエイジング賞

○唐木田ガーデンロード

応募者：(株)高橋建築都市デザイン事務所／高橋 志保彦

○河津バガテル公園

応募者：(有)ユー・プラネット／栗原 裕

3. シンポジウム

「公共空間のトータルデザインを目指して」

一般社団法人「パブリックデザインコンソーシム」の設立宣言

パネラー

天野 光一（日本大学理工学部まちづくり工学科教授）

石橋 隆史（国土交通省都市局公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室 課長補佐）

高見 公雄（法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授）

須田 武憲（G K 設計 代表取締役・事業委員長）

コーディネーター

伊藤 登（プランニングネットワーク 代表取締役）

概要

JUDI 事業委員会では、長年にわたり発注者、設計者、製造者をつなぎ美しい公共空間の創造に向け、活動してきた。しかし何故か美しくならない、あるいは経済活動の低迷も一因かもしれないが、どうも日本の都市空間の魅力というのはさほど上がっていないのではないかとむしろ低下しているものも多いと認識がある。それについて事業委員会で検討を重ねる中でいくつかの問題があると認識している。

モノの問題、空間設計の問題、制度や基準の問題、また商業者や居住者の公共空間への無関心の問題も内在しているのではないかと。こういう問題は JUDI の社会的使命としてトータルで考えていくことが必要ではないかという提示に対しパネラーや会場の参加者から多くの意見が交わされたシンポジウムとなった。

最後に須田事業委員長より、本年度をもって事業委員会を解散する旨とこれまでの同委員会の活動の受け皿として、「一般社団法人パブリックデザインコンソーシム」の設立趣意説明と設立宣言が行なわれた。



国際委員会

■ 2013 年度の活動

国際委員会では、本委員会事業の 3 つの柱である「JUDI 海外ツアー」、「JUDI 国際セミナー」、「JUDI 国際情報共有セミナー」を行った。

1. 「JUDI 海外ツアー」

2013 年度の海外ツアーはロンドンに行くこととした。期間はコア・スケジュールが 8 月 10 日から 14 日。ロンドンではバロー・マーケット、オリンピック・パーク、レッチワースや幾つかのニュータウン、グリニッチ・ビレッジとテムズ川、テート・ミュージアムやブリック・レーン、コベント・ガーデンといったいわゆる最近、脚光を浴びているクール・スポットを視察した。これらの視察に加え、複数の B I D 地区での取材、ネイバーフッド・プランニングを行っている地元建築家、イギリスの都市環境デザイン会議とでも言うべきアーバン・デザイン・グループ、また長町委員のご学友などとの会談など、どちらかというスタディ・ツアーという色彩の濃いツアーであり、私を含めて数人のメンバーは知恵熱を出すような情報量であった。

バロー・マーケットは最近、頓に注目されるようになっているファーマーズ・マーケットである。地産地消を旗印に掲げ、新たなロンドンの観光地となっている同マーケットであるが、我々の関心を惹いたのはその運営手法。ボランティア主体で運営する形態には、多くの参加メンバーはなぜそれで上手くいくのか。日本とイギリスとの違いに戸惑うことになった。

そのような戸惑いは、その後も続く。ロンドン・サザーク市でネイバーフッド・プランニングを行っている建築家の話では、地区計画を自治体が策定する代わりに、地元住民の有志がつくるというネイバーフッド・プランニングという制度のラディカルさに戸惑った。

また、レッチワースではヘリテージ・ファンデーションが所有している不動産物件を住宅だけでなく、商業地区でも売りに出していることや、レッチワース内でもヘリテージ・ファンデーションと関係のない土地があることを知るなど、レッチワースも多くの課題があることを知り、戸惑うことになった。

一方で、オリンピック会場の跡地利用における都市デザインのレベルの高さ、市民を含めた民間での都市計画のコミットメントの高さ、都市デザインを活用しての都市の魅力を向上させる取り組みの戦略性の高さ、など多くの知見と刺激をも受けたツアーになったのではないかと思われる。

参加メンバーは、国際委員が松久喜樹、服部圭郎、長町志穂の 3 名、それ以外では栗原裕、永山哲也、難波健、山本茂、奥居武、角野幸博、泉英明で総勢 8 名であった（継承略）。

行程は次の通り。

8 月 10 日：Borough Market 訪問

8 月 11 日：各自の興味に従い、Olympic Park, Kings Cross, Harlow Newtownなどを訪問

8 月 12 日：Borough Market, Bankside Open Spaces Trust, Yumi Ross 邸

8 月 13 日：Letchworth, Stevenage

8 月 14 日：Urban Design Group, Team London Bridge, Brick Lane

この海外ツアーの概要に関しては、12 月 26 日に JUDI 関西支部で報告会を行った。



2. 「JUDI 国際セミナー」

JUDI 国際セミナーとして、ブラジルはクリチバ在住の日系ブラジル人中村ひとし氏を講師として下記の通り行った。

テーマ：「ブラジルの環境都市づくりと日本人」

講師：中村ひとし氏（元クリチバ市環境局長）

日時：2014年3月22日（土）15:00～17:00

場所：明治学院大本館 1201 教室（東京都港区）

ブラジルの環境都市クリチバ。ここ数年は精彩を欠いている印象を受けるが、1980年代後半から2000年前後まで、この都市は、予算がない中、知恵と抜群の実行力で、環境問題、交通問題、貧困問題などの多様な都市問題を解決することで、世界から注目と喝采を浴びた都市である。それは、ブラジルの奇跡とも称すべき、一つの事件でさえあった。この奇跡を指揮したマエストロは、71年から75年、79年から82年、89年から92年の3期で市長を務めたジャイメ・レルネル氏であることはよく知られている。そして、そのジャイメ・レルネル氏を参謀のごとく支えたのが、中村ひとしという日系ブラジル人であった。

中村ひとし氏が3月末に横浜国立大学都市イノベーション学府に招待され、来日されることになったので、この機会に便乗し、国際委員会では、都市計画学会国際委員会、公益財団法人ハイレブ研究所と共催で講演会を企画した。

中村ひとし氏は、1967年大阪府立大学農学部卒業、69年同大学院農学研究科修了した後、70年ブラジル・パラナ州コンテンダ市の農場に農業移民として入る。そして71年よりパラナ州クリチバ市役所に勤務し、パラナ州教育局・環境教育コーディネーター等を経て、89年クリチバ市環境局長に就任する。その後、95年パラナ州環境局長に就任し、2001年よりクリチバの環境自由大学、特別プロジェクト・コーディネーターを2007年まで務める。現在は、昔の上司であるジャイメ・レルネルが主宰するジャイメ・レルネル都市計画研究所にてランドスケープ・アーキテクトとしての仕事を手伝っている。

今回のセミナーでは、この40年間におよぶクリチバのまちづくりを振り返り、その成果、そして、現在の都市問題をどのように解決に向けて取り組めばよいのかというお話をしてもらった。

参加人数は72名。JUDIの会員こそ少なかったが、講師の知名度の高さ、またタイミング的には、講師のこれ

までの半生をまとめた著書が日本で出版された直後ということもあり、国際委員会主催のセミナーとしては、多くの聴衆が熱心に話に耳を傾けたものとなった。

4. 「JUDI 国際情報共有セミナー」

JUDI 国際情報共有セミナーとして、サンフランシスコ在住の中川景子氏を講師として下記の通り行った。

テーマ：「SOMのアーバンデザイン」

講師：中川景子（SOM, Associate）

日時：2014年3月21日（金）18:30～19:30

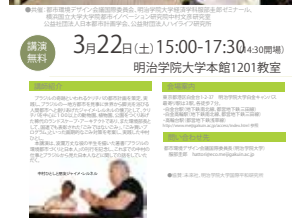
場所：明治学院大経済学部共同研究室（東京都港区）

国際委員である中川景子氏はサンフランシスコ在住の都市デザイナーであり、アメリカはもちろんのこと中国のプロジェクトにも携わるなど、世界を舞台に活躍されている。

彼女が、日本に帰国するタイミングに合わせて、今回、アメリカの大手都市デザイン事務所が手がけるプロジェクト、仕事ぶりをお話してもらった。

上海の新天地での68ヘクタール規模の地区をどのように魅力的な空間にするか、広州のバイエタンのマスタープラン、サンフランシスコのトレジャー・アイランドの敷地計画など、彼女が手がける魅力的なプロジェクトの報告がなされた。また、「日本はいいと言われているとやれる。アメリカはNoと言われるまではやっていない」などの日米の仕事の仕方の違いなどの興味深いお話も聞くことができ、JUDIの会員だけでなく、若い聴衆にも刺激的なセミナーになったと思われる。

参加人数は22名。JUDIの会員は、国際委員を中心に4名ほどが参加した。



JUDI 復興未来会議

2013

2014

■ 2013 年度の活動概要

JUDI 復興未来会議は、東日本大震災の復旧復興に向けて専門家集団たる JUDI がどのような支援ができるのか模索した結果、学会や専門家の組織に複数在籍している会員が多く、それぞれ各団体において個別の支援活動を図っていることが分かり、JUDI 復興未来会議としては独自の活動よりも、情報の集約や発信等に重きを置いてきた。2013 年になり、徐々に堤防整備や集団移転事業などの、ハード整備の形が見えて来るようになると、都市環境デザインの専門家集団たる JUDI として、社会へ対する情報発信の必要性が高まりつつあると判断し、JUDI 復興シンポジウムを開催し、専門家が現場で感じる矛盾や課題等について共有化を図り、JUDI 会員としてなにができるのかを議論するキックオフとして、JUDI 復興未来会議が主催となり JUDI 東北ブロックと関東ブロックとの共催によりシンポジウムを実施した。

シンポジウム JUDI 復興シンポジウム第一弾

「東日本被災地復興の未来を語る」

日 時：2013 年 11 月 29 日（金）

場 所：日本大学理工学部

参加費：無料

<プログラム>

□東北復興の現状報告

永松 栄 (JUDI 東北ブロック幹事・宮城大学教授)

□パネルディスカッション

「復興の未来 -JUDI 会員は何を支援できるのか」

◆パネリスト

永松 栄 (前掲)

成瀬 恵宏 (JUDI 関東ブロック・㈱都市設計工房)

伊藤 登 (JUDI 関東ブロック・㈱プランニングネットワーク)

◆コーディネーター

作山 康 (JUDI 関東ブロック・芝浦工業大学教授)



東北復興の現状報告する永松氏

■ 2014 年度の活動概要

2014 度は前年度のシンポジウムを踏まえて、復興現場で住民の意見を踏まえて様々な議論を実施することになり、「泊復興まち開き特別セッション」を実施した。JUDI (都市環境デザイン会議) 復興未来会議と NPO アーバンデザイン研究体が共催し、東海大学や芝浦工業大学などの協力のもとで行われたこの特別セッションは、「泊地区・復興まちづくりの「これまで」と「これから」」と題し現地を見学し、これまでの活動を報告と課題となっている被災跡地の利用をはじめ、これからの復興まちづくりについて多くの専門家との意見交換を実施した。これらの議論を他の被災地域にも寄与したいとの趣旨で UDM 発行冊子の「復興まちづくりの知恵袋」等で記録の公開を行った。

「泊復興まち開き特別セッション」

日 時：2014 年 11 月 1 日土曜日 15 時～ 21 時

場 所：大船渡市泊区公民館

<プログラム>

□泊区の見学 15 時～

泊地区防災集落移転促進事業地及び泊区公民館の見学

□泊区復興まち開き特別セッション 17 時～

1. 開会
2. あいさつ
3. 各団体の紹介と代表挨拶・見学の感想
4. 「これまで」の活動報告
5. セッション 「これから」について話し合う
6. 閉会

□懇親会 19 時～ 21 時

参加者：泊地区住民（7 名）、JUDI（4 名）、UDM（5 名）、東海大学建築会（2 名）、東海大学杉本研究室（3 名）、大船渡市職員（2 名）、都市計画家協会（2 名）、イケア・ジャパン株式会社（1 名）他



セッションの様子

都市ブランドを創造する屋外広告物の研究

■プロジェクトの概要

京都市は、優れた景観を守り、育て、50年後、100年後の未来へと引き継いでいくため、建築物の高さとデザイン、屋外広告物の規制等を全市的に見直した「新景観政策」を2007年9月に実施した。

屋上看板や点滅式照明、可動式証明を市内の全域で禁止するとともに、地区ごとの特性に応じて、屋外広告物の表示位置、面積、形態デザイン等に関する基準を定めている。また、2014年8月までに市内全域に無許可で設置されている違反看板をゼロにするよう強力な指導が行われた。

このように思い切った政策を実施した背景には、都市景観が混乱し、国際文化観光都市としてのブランド力の低下が懸念されるようになったという状況があった。

一方では、優良な屋外広告物への表彰や助成も行われているのであるが、地域の歴史文化に根付いた屋外広告物や店舗が都市ブランドを形成するという、積極的な方向付けが確立していないように思われた。

2012年8月に、都市環境デザイン会議（JUDI）関西・関東ブロックの有志はプロジェクトチームを立ち上げて、都市ブランドの創造に貢献し、都市の活力を呼び起こすような屋外広告物や店舗のあり方を研究し提案することを目標に「都市ブランドを創造する屋外広告物の研究（京都の歴史的市街地を対象として）」を開始した。

今後、求められるのは、地域住民・事業者とともに細かなエリアごとの望ましい都市ブランドを探り、ブランド力を高めるような屋外広告物や店舗のデザインを具体的に提示する作業であろう。

本研究はその一助となることを目指していたのであるが、対象とした地域のまちづくり団体の活動が目覚ましく進展し、煩雑な広告物の是正、地域景観づくり協議会の立上げ、住民による景観計画の策定などが進行中であるため、それぞれの地域の実情に応じたレポートや提案を小冊子にまとめて、たたき台にさせていただくことにした。

研究報告としては記述のレベルや方向がまちまちになっているが、2年間のプロジェクトの区切りとして、冊子を発行し、セミナーを開催した。

■屋外広告物プロジェクトチーム

中村伸之（共同代表、JUDI 関西）、高橋芳文（共同代表、JUDI 関東）、千種芳幸（NPO 法人ストリートデザイン研究機構）、峰 朗展（JUDI 東北）、内藤郁子（JUDI 関西）、富家大器（NPO 法人京都景観フォーラム）、辻野

隆雄（同）、簗 正康（同）、小林明音（同）、森本浩行（同）、西斗志夫（JUDI 関西）

○顧問：宮沢 功（JUDI 関東）、藤本英子（JUDI 関西）

○アドバイザー：渡辺安人（アーキタイプ工房）、谷口 親平（姉小路界隈を考える会）、神戸 啓（先斗町まちづくり協議会）

○協力：NPO 法人京都景観フォーラム、NPO 法人ストリートデザイン研究機構

■セミナー発表

日時 2014年9月2日（火）18:00

場所 学芸出版社ホール（京都市下京区）

1. 調査の趣旨説明 高橋芳文（JUDI 関東）
調査対象エリアの紹介 中村伸之（JUDI）
2. 4つのエリアの調査報告
姉小路通エリア 千種芳幸
（NPO ストリートデザイン研究機構）
三条通エリア 内藤郁子（JUDI 関西ブロック）
先斗町エリア 中村伸之（JUDI 関西ブロック）
木屋町エリア 宮沢 功（JUDI 関東ブロック）
3. 地域まちづくりと屋外広告物
谷口親平（姉小路界隈を考える会）
神戸 啓（先斗町まちづくり協議会）
4. 会場との意見交換

■調査地域の紹介

○三条通

江戸時代は東海道の終着点であり、経済・情報の中心として栄えた。明治期のレンガ建築と町家が共存する風格を重視する地区であるが、店舗の更新などによる景観の変化が懸念される。

○姉小路通

暮らしと生業の共存する落ち着いたまちであるが、車の通過通行が多いのが難点である。建築様式は町家を基調としつつ多様化しているものの、マンションやコンビニがないのが特徴的である。由緒ある伝統的な木の看板も多い。

○先斗町（ぼんとちょう）

路地的に狭い道幅で、車の通行はできない。花街の文化を反映した町家の町並景観がよく保存されているが、

新規の飲食店が逸脱した看板などを出す傾向があった。先斗町まちづくり協議会が路上に張出した看板の撤去を推進し成果をあげている。

○木屋町通

高瀬川沿いの通りであり、並木がヒューマンスケールの空間を生み出している。繁華街であり、ビルや看板が氾濫しているが、不思議と情感があるのは高瀬川と桜並木のおかげだ。多くの人が見過ぎてしているが、水と緑の美しい原石が埋もれている。



2012年3月

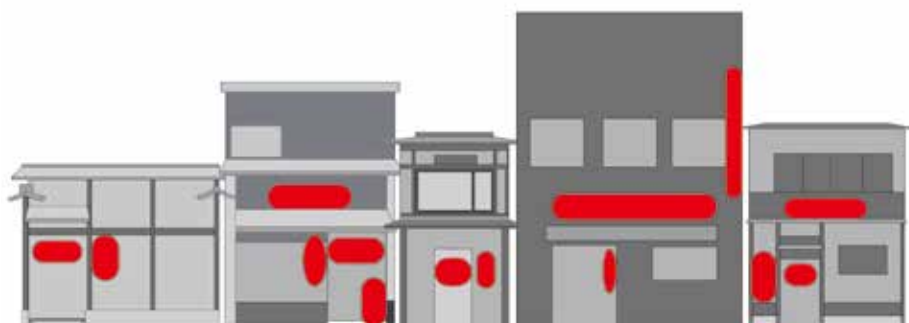


2013年7月

先斗町：看板撤去の前と後。温かく包まれるような灯りの景が戻りつつある。



三条通：ダル・トーン、ディープ・トーン、ダーク・トーンの色が三条通のブランドを高める。



木屋町通：広告による連続景観をつくり、町並みにリズムをつくる。を高める。木屋町通：緑を活用した広告を考える。

姉小路通（“光と影”を活用した空間と境界づくり）：町家の構造上の特徴を活用し、日中は軒下が暗く、奥行き感を出す。縦方向の柱や、出格子による凹凸も 陰影を作り、アクセントとなる。一方夜間は、複数のやさらかいい間接照明により軒下が明るく、屋内と一体化した空間を構築する。



海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発

1. プロジェクトの主旨

関西ブロックメンバーを中心に、2011年度、2012年度から東日本大震災の復興過程から沿岸地域の小規模な集落や市街地の復興や事前の備えについての研究を行っている。その研究を発展し、今後30年間に70%の確立で発生すると想定される、南海トラフ巨大地震への対応を検討した。

西日本の太平洋沿岸地域の自治体では南海・東南海地震への備えが検討されている。海辺の都市や集落の多くは津波や崖崩れといった災害を受けやすい立地にあることから、事前に被災した場合の復興の姿の検討を進めておくべき地域と思われる。しかし、東北での復興からも分かる通り、被災した海辺の都市や集落の多くは産業衰退、人口減少、高齢化といった深刻な現代的課題も抱えていることが多く、目標とすべき復興の姿を見いだすことは容易ではない。そこで本プロジェクトでは、空間計画の手法検討のみならず、海辺の都市や集落における生業や地域構造の再編などの関係にも配慮した。

被災が想定される関西、九州、四国の太平洋沿岸地域の異なる環境の海辺の都市や集落における「自然災害からの復興も組み込んだ都市のマスタープラン」の策定に向けたノウハウを蓄積する。具体には「災害に備えた都市のマスタープラン」に必要な検討事項を整理し、その有効性を個別のフィールドを通して検証することで「南海・東南海地震への備え」となる提言を検討した。

研究会活動としては、都市環境デザイン会議のみならず、都市計画学会の関西支部、中国・四国支部、九州支部の3支部と連携し、調査研究および発表をおこなった。概ね月1回程度の研究会を開催し、構成メンバーが関西、四国、九州ブロックのメンバーとskypeなどインターネット通話を活用して研究交流を行った。

2. 復興の姿研究会のメンバー構成

○コア委員（運営委員）

鳴海邦碩（大阪大学名誉教授、関西大学教授、元都市計画学会長、関西ブロック）

角野幸博（関西学院大学教授、関西ブロック）

堀口浩司（地域計画建築研究所副社長、前都市計画学会関西支部長）

若本和仁（大阪大学准教授、関西ブロック）

柴田 祐（熊本県立大学准教授、九州ブロック）

○地域メンバー（五十音順）

石原凌河（人と防災未来センター研究員）

大谷英人（高知工科大学教授）

尾辻信宣（福岡アイランドシティ・アーバンデザイン

センター 九州ブロック）

川口将武（大阪産業大学講師、関西ブロック）

畑 文隆（西宮市役所、関西ブロック）

中村伸之（ランドデザイン研究所代表、関西ブロック）

松山 茂（都市空間研究所代表、関西ブロック）

山室浩一（コトブキ・タウンスケープ、関西ブロック）

山本一馬（街角企画株式会社代表、関西ブロック）

3. 主な活動経過（2013年度、2014年度を通じて）

・2013年度の取り組み

2014年

03/29～30 第1次和歌山県現地調査 県中南部

05/23 九州シンポジウムの開催（大分市内）

05/24 現地調査：大分県佐伯市、臼杵市

・2014年度の取り組み

10/24 和歌山県・市町職員ワークショップ（田辺市内）

10/25 第2次和歌山県現地調査（田辺市、湯浅町、海南市）

11/15 都市計画学会論文発表大会（広島）WSでの報告

2015年

01/31 四国シンポジウムの開催（高知市内）

02/01 現地調査：高知県高知市、土佐市、須崎市、中土佐町

3月～ 報告および提言の検討作業

4. 2013年度の活動実績について

当該年度の前半は2カ年の調査および活動計画の検討とシンポジウム等の準備（基礎資料の整理、対象地区の行政担当者と打ち合わせ等）と、大分市でのシンポジウムの開催、現地確認調査等を行った。

(1) 九州シンポジウム

第1弾として、九州でのシンポジウム開催とフィールド調査を実施した。

テーマ：『南海トラフ巨大地震への備え

～九州の地域防災力を考える～』

日時：2014年5月24日（土）13:15～16:30

会場：NHK大分放送局スタジオホール「キャンパス」

主催：日本都市計画学会 九州支部・関西支部・中国



四国支部

共 催：内閣府（防災担当）、JUDI

参加者：106 名（一般市民 10%、行政 42%、大学関係 24%、コンサル 20%、他 5%）

フィールド調査：5 月 25 日（日）に佐伯市、臼杵市の状況と避難施設等を調査。JUDI 会員 9（関西ブロック 5、関東ブロック 1、九州ブロック 3）、その他 7 が参加

〔議論の概要〕

報告 1「大分県の防災対策について」

大分はとにかく逃げ切るための備えに取り組んでいる。減殺対策により死者数を 97% 軽減、約 700 人に抑える。大分県は自主防災組織率が 92.4% と全国でも高い。防災士も多い。人口 1 千人当たり 4.4 人（全国 1 位）。

報告 2「臼杵市の津波被害対策」

臼杵市は人口 41,300 人、東北の南三陸町に似たまち。
①自主防災体制の強化、②避難所開設・運営マニュアル作成、③津波避難行動計画作成、④避難施設（臼杵城跡ヘループ橋）の整備、⑤災害対策本部体制の強化、⑥防災力の調査・分析に取り組んでいる。防災士数全国 1 位の強みを活かし、ソフト対策に力点をのいた備えに取り組んでいる。

報告 3「臼杵の地区防災活動の取り組み」

巨大地震に備えるため、小学校の高台移転が論争となった。1,000 年に 1 度の大震災の為に、日常の生活をどこまで犠牲にできるか？命は最も大切だが、学校の高台移転が備えの全てだろうか？学校が遠隔地になることで危険リスクが高まる。ハードー辺倒の備えでなく、ソフト・ハードを合わせた対策が重要。

報告 4「上堅田の地区防災活動の取り組み」

上堅田地区は高齢化率 30% の過疎地であり、地域が主体的に取り組む共助の備えが必要だと有志で考えた。防災講演会、研修会を定期開催。防災塾を開講し、防災マップの作成、他地区との意見交換会等を実施。地方の過疎地では、防災とともに高齢化・人口減少など深刻な課題をもつ。そのような中、上堅田地区は地域力によって精力的に防災活動に取り組んでいる好事例。

内閣府説明「地区防災計画制度と地区防災計画ガイドライン」

災害対策法が改正され、地区防災計画制度が発足した。阪神淡路大震災や東日本大震災の経験から、自助、共助、公助の連携が重要である。地域での共助の取り組みが不可欠であり、コミュニティの力で災害から立ち直る仕組みである。それぞれの地区での防災活動を行政計画である地域防災計画に位置づける仕組みも持っており今後活

用されることを期待している。石狩市、三重県尾鷲市、京都市等の取り組みを紹介。

報告 5「復興まちづくりの備え」

ー阪神・淡路大震災、東日本大震災の復興計画から

1995 年の阪神淡路大震災を西宮市役所職員として経験し、2011 年の東日本大震災の南三陸町の復興要員として派遣。1 年 4 ヶ月で高台移転事業に取り組む。「漁業のなりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に」が町の選択。少子高齢化の地方では、復旧や小さな復興では、意味が無い。創造的な復興・大きな復興を目指すべき。復興により地域が抱える社会問題を合わせて解決すべき。「人のつながり・連携」が大切。合意形成・地域コミュニティを大切に、何度も集落での話し合いが行われた。

普段からの地域コミュニティが大切。地域の祭りはコミュニティのバロメータ。

復興とは？

・質的な変化を伴わない「小さな復興」
（原型復旧・改良復旧）

・質的な変化を伴う「大きな復興」
（開発復興・改革復興）

創造的復興

reconstruction → revitalization ※宮崎県経

再建・改造 町おこし、地域活性化

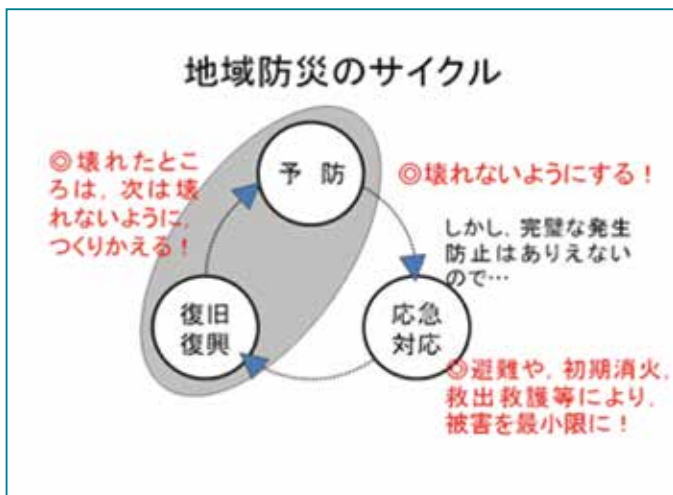
復興の中で社会的問題を改革することが欠かせない
（少子高齢化・地域経済・限界集落・・・）

心の復興・・・つながりを大切に・・・

海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発

[パネルディスカッションの概要]

- ・ 自助・共助・公助の連携により、予防→応急対応→復旧復興の地域防災のサイクルを確立できるか。都市計画が主に担うのは「予防」「復旧復興」である。



- ・ 地域の持続にあった取組みが震災への備えの中でどのように取組めるか課題。10・20年後を見通す。将来の想定される課題を考えるべき。
- ・ 「なりわい」の復興が地域の復興のきっかけとなる例が奥尻町では見られた。地域の復興は産業再生を優先的に進めるべきである。
- ・ 防災と復興をどう連携・分担するかが行政組織の中でも整理できていない。まだ防災でとどまっており、その先の「復興」までは至っていない。
- ・ 高齢化の中で平時から地域コミュニティの活性化が防災のテーマとなっている。
- ・ 普段から自分たちの町をどれだけ分かっているか？そこが問われる。事前復興と取りざたされているが、研究者や専門家は甘い。事業実施の事まで考えるべき。
- ・ 一般の方の意識は高くない。
- ・ 地区防災計画では、祭りや防犯、女性会の活動も含め支援できる制度となっている。今日のキーワードとなっている「コミュニティ再生・活性化」には有効。
- ・ 住民が地域でしっかり活動しているのが基本的なベース。弊害は行政の縦割り。地域は「防災」ばかり

を普段考えている訳ではない。

- ・ 学校の移転について、別の機会に児童生徒はこのままでは将来減るとの資料を見た。町の将来のことを考え、学校整備を議論すべきと痛感。そうであれば移転反対派しなかったかもしれない。防災だけでは地域の未来は語れない。
- ・ 東北ですでに人口減少している地区は、25年後には震災がなくても同様の規模にまで減少する。
- ・ 地域の財産には、人命と同じく文化や伝統・慣習、産業・教育など様々なものがある。
- ・ 「逃げる」だけでは、命しか守れない。地域の財産の全てに大きな価値があり、守るべきこと。
- ・ 事前復興計画は、自分たちの将来の町の姿を描くことが重要。その上での命を守る防災を考えたい。
- ・ 防災を考える前に、町の将来像を考える必要がある。そこ過程で「防災・震災への備え」は重要なテーマになる。



5. 2014 年度の活動実績について

2013 年度での計画に従って、3 で示したもののうち、和歌山県・市町職員ワークショップ（田辺市内）以降のものに取り組んだ。また、それらから得られた知見から、提言を取りまとめた。

(1) 和歌山県・市町職員ワークショップ

第 2 弾として、和歌山県で参加者を限定した市町職員ワークショップを行った。

テーマ：『津波防災地域づくりに関する職員ワークショップ』

日 時：2014 年 10 月 24 日（金）

会 場：田辺市文化交流センター「たなべる」

主 催：日本都市計画学会関西支部、和歌山県、和歌山県都市計画協会

協 力：JUDI「復興の姿研究会」

参加者：10 市町 26 名（防災・危機管理部局 19、都市整備・建設部局 7）、日本都市計画学会と 10 名、JUDI9 名、県職員 2 名

オブザーバー：和歌山県若干名

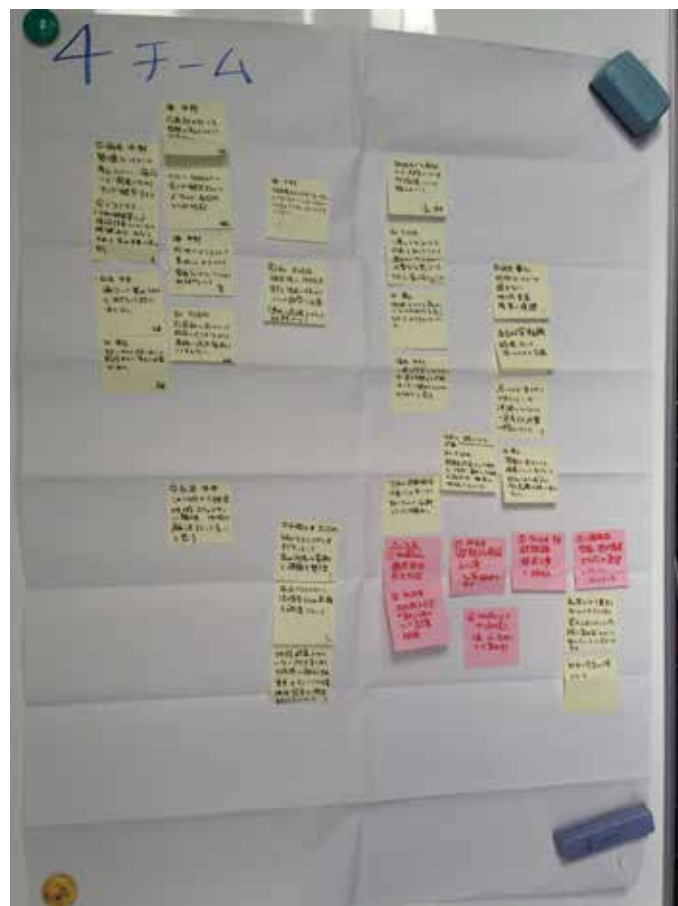


[ワークショップの趣旨]

地域社会が抱える課題が複雑化・多様化する中で、来るべき南海トラフ巨大地震への備えのうち、高台移転や市街地の再編、地域産業の復興など、被災後に生きのびた後の地域再生について、「将来の災害や復興も想定したまちの将来像とは」と「発災後のまちづくりビジョンを共有するための仕組み」の 2 つのテーマで、和歌山県沿岸部自治体の防災および都市計画の担当者による率直な意見交換を行い、現在の到達点と課題認識を確認するとともに今後の取り組みについて議論した。ワークショップについては、沿岸部の自治体すべてに案内を送付し、希望する自治体職員が参加した。できるだけ自治体および専門が重ならないよう、参加者を 5 つの班に分けた。

[議論の概要]

- ・ 将来の災害や復興も想定したまちの将来像とは
津波被害にあった際、復旧・復興の拠点となる公共



施設については、計画を含め多くの自治体で高所への移転が進められている。一部の自治体では、こうした動きがまちの将来につながっているが、多くは津波防災とその他の計画とのすりあわせで次のような課題を抱えている。

これまで進めてきた中心市街地の活性化の取り組みとのすり合わせが難しく、移転後の敷地利用も未定。

地域の構造上、まちの中心である沿岸部以外で将来を構想することが困難である場合や、山間部はミカンなどの主要産業の場となっている場合がある。

津波よりも山間部の土砂災害対策の優先順位が高い。

仮設住宅の建設候補地はあっても、それが将来のまちの姿になるわけではない。

また、計画に不可欠な地籍等の調査は、自治体により取り組みの程度がまちまちであった。

なお、L2 への対応については、避難計画以上の備えをどう考えればよいか、ほとんどの自治体が見出せない状況にあった。

- ・ 発災後のまちづくりビジョンを共有するための仕組み
東北での復興支援の経験等から、住民との連携、庁

海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発

内連携の重要性は認識されており、避難計画の策定や訓練の実施に生かされている。また、そうした取り組みがコミュニティの形成につながっているとの報告もあった。しかし、防災と平時のまちづくりを関連させている例は少なく、予算面はもちろん、組織的にも防災部門と建設部門の連携が希薄であるため、例えば、平時はほとんど利用されない避難経路が多く作られる、防災だけでは土地利用の調整までは困難であるといった課題が多く報告された。ビジョンの共有は難しく時間もかかるが、できることを少しずつ進めるといのが、現実的な対処法となっていることが伺えた。

(2) 日本都市計画学会全国大会ワークショップ(東広島)

2014年11月15日(土)に前年度分も含むこれまでの取り組みと、今後の見込みを報告し、意見交換した。



(3) 四国シンポジウムの開催(高知市内)

九州・関西・四国での一連の取り組みの最後として、高知でシンポジウムを行った。これまでの知見の蓄積から、いくつかの重要なアイデアが出された。

テーマ:『南海トラフ巨大地震への備えを考える』高知シンポジウム

日 時: 2015年1月31日(土)

会 場: 高知県立県民文化ホール

主 催: 日本都市計画学会中国四国支部

共 催: JUDI「復興の姿研究会」

後 援: 高知県、高知市、日本建築学会四国支部、NPO 法人高知まちづくり支援ネットワーク、高知新聞社、NHK 高知放送局、RKC 高知放送、KUTV テレビ高知、KSS さんさんテレビ

参加者: 45名

[シンポジウムの趣旨]

東北での復興からも分るとおり、復興は産業衰退、人口減少高齢化といった深刻な現代的課題も抱えており、目標とすべき復興の姿を見いだすことは容易でない。そこで、本シンポジウムは南海トラフ巨大地震への備えとなる「事前復興まちづくり」をテーマに、被災した既存

市街地や既存集落の復興あり方について議論した。

加えて、高知で進められている対策の現状を確認するため、翌2月1日(日)にエクスカージョンを実施した。



[議論の概要]

- ・ 防災まちづくりの考え方は、災害防止から減災に、そして復興計画・事業の経験から事前復興へと変遷している。事前復興計画には、被害が予想される既存市街地の計画と、高台移転等新市街地の計画の二つがあり、事前対応と、被災後の復旧・復興の計画となる。
- ・ 計画実施における費用負担の問題 黒潮町で事前の高台移転に取り組んだが、特別措置法では総事業費約23億円50戸の移転で町負担が約4割となる。
- ・ 事前の整備実施について 高知市中心市街地の河川堤防はL2対応とし、長期浸水からの復旧や、復旧・復興の際の動線確保に対応。復旧を意識した整備は可能。
- ・ 事前学習の必要性 不幸に遭って初めて法律や制度に直面する。まちのそうした課題を認識し、改善に取り組んでいれば、震災等に際しても合意しやすい。人口減少は全国の地方で起きているが、産業や雇用の確保と、その先にある生活空間の維持が重要で、そのことのビジョンを持つ必要があり、その前提に地元合意や事前の学習と確認が必要となる。避難計画や防災計画の中で災害履歴を学習し市街地のリスクを理解し、将来を考えることは意味があり、復興計画の入り口となりうるだろう。
- ・ 事前復興計画作成について 既存の土地利用管理計画や都市計画マスタープランを、災害に照らして見直せばよい。事前対策の効果をB/Cで評価すべきだろう。
- ・ 事前に調査できる事項 移転先候補となる高台の調査(用地取得の可能性、文化財となる遺跡等)、市街地整備に必要な土地利用計画等がある。また、津波で流された線路の復旧では、線路や駅と市街地の高さ調整を含め、復興後の鉄道の位置付けが議論されている例が

ある。

- 計画のアイディア 高台移転すべき既成市街地もあるだろうが、L1 で浸水せず L2 で浸水 2 m 程度であれば、敷地内盛土、ピロティや堅牢化といった建築的対応が現実的で、まず人命を確保し、次に家屋も含めた財産の維持という段階的な事前復興もあるだろう。ただし、保育園や小学校、医療施設、高齢者施設等は高台移転を都市全体の中で考えるべき。低地の住宅地は、人口減少時代においては都市を縮小する問題として、L2 での被害を抑える事前復興計画を考えるべきだろう。この他、漁村等小さな集落、狭く余裕がない場所では、低地部と高台との住み分けのようなニーズがあるだろう。
- 個人や事業所の対応 生業や生活を災害からの速やかな再開を可能にするため、現在の市街地に応じた施策を描き、できるところから実施すればよい。例えば、商売人は屋台での再開を事前に考え手立てしておく。



- (4) 大分、和歌山、高知での取り組みのまとめ
提言に向けたいくつかの知見が得られた。

• 地域の多様性

南海トラフ巨大地震に備えるといっても、場所によって事情が大きく異なることがわかった。

例えば、南北に長い和歌山では、予想される震源からの距離の違いから、津波到達時間も想定高さも異なる。これにより対応も地域ごとに変わらざるを得ない。

また、一言で海辺といっても、主な生業の種類やそれが行われる場所もまったく異なる。津波被害が予測されるからといって、高台に移転すればよい、とはならない地域も多い。中核となる都市と周辺の市街地や集落との関係によって形成される地域の構造も 3 つの県では異なっている。さらに、最も差し迫った自然災害は津波以外を想定していることもある。

このように、備えが必要とされている地域は多様で、津波災害に対しては、一律の答を展開するというよりも、多様性を踏まえたきめ細かい対応が必要だろう。

• 現在取り組んでいることの実態と課題

災害シミュレーションに応じた発災時の避難計画、訓練の実施、必要な避難施設や防災施設（例えば防潮堤）の整備、主な公共施設の高台への移転等は着々と進められている。その一方で、事前復興と呼ばれるものについては、そのイメージは誰もが持っているものの、実際の形やそれに至る方法論が見出せていないことがわかった。津波想定が出さる以前のまちづくりと、想定が出された以降のまちづくりが整合しないことに思い悩む行政職員も多い。また、防災関連の整備の多くが平時のまちづくりにつながっていない実態もわかってきた（例えば避難施設）。そのため、実際に事が起きたときに活用できるか、普段使用しないものを継続的に維持保全できるかといった課題が発生すると予想される。

• 事前に取り組めることのアイディア

前述のとおり、短期的に実施可能な事業とすることを条件に、津波被害を想定しつつ将来のまちの姿を考えることは非常に難しい。しかし、事前学習や既存の計画の見直し、復旧・復興の計画に資する基礎的な調査は可能だろうという意見が多く出された。これらは事が起きた際に、地域が意思決定するために必要な情報なり検討であり、平時のまちづくりにおいても貴重な情報となる。

海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発

6. 提言 2012年と2013年のまとめとして

一連の取り組みで得られた知見から、以下の提言を作成した。

(1) 提言の基本的な考え方

・地域構造の変化をふまえる

津波災害からの復旧復興の過程で、地域構造は大幅な変化を余儀なくされる。高台移転やかさ上げ、新市街地の開発などがスムーズに進んだとしても、復興事業が完成するまでの間に転出した人口のすべてがもとの町に帰還することは困難であり、人口減少に拍車がかかる。復興計画においては、地域構造の変化をどのように誘導するのか、あるいはどこまで変化を許容するのかをあらかじめ想定しておく必要がある。

南海トラフ地震の津波被害が想定される地域には、それぞれに地勢的特徴がある。和歌山県中南部や徳島県南部そして大分県南部は、背後に山が迫り、沿岸部に平地が少ない。東日本大震災で被災した漁業集落と同様、高台移転か現地建て替えかという議論が間違いなく起きる。ところが和歌山県中南部では、背後の山はミカン畑など地域産業を支える生業の地であるため、移転用地選定が困難になることが予想される。一方、高知県中部や宮崎県中部では沿岸部から標高の低い平地が広がっているため、浸水域が内陸まで広がることが想定される。短時間での高所への避難が難しい

ため、避難ビルや避難タワーの役割が大きい。また集落移転を考えると、移転先が遠隔地になるおそれがある。海辺の小集落だけでなく県庁所在地である高知市や宮崎市など、地域の中核拠点が甚大な津波被害を受けるため、小集落への支援が行き届かないおそれもある。

海辺小集落と、被災地内の拠点都市との地理的関係及び依存の程度によっても復興の姿は異なる。日頃の依存度合いが大きい場合、復興を契機に小集落から拠点都市への都市機能の移転と人口移動が促進される可能性がある。拠点都市においても市役所などの公共公益施設の高台移転等を検討すると同時に、災害の有無に関わらず人口減少に伴うコンパクトシティ化をどのように進めるかが課題になっている。立地適正化計画をふまえた復興の都市像を、小集落からの移転をどのように受け止めるか勘案しながら構築しなければならない。

隣接する複数の小集落ではほぼ同程度の被害が想定されるが、集落間の復興バランスについては、一層難しい課題が発生する。いずれの集落も漁業や水産加工業を中心とする生業をどう継続させるかが課題であるが、すべて被災前と同じ状態に復旧することは困難であり、漁業以外の主要産業にも配慮した役割分担または一体化を進めることができるかどうかを見極める必要がある。

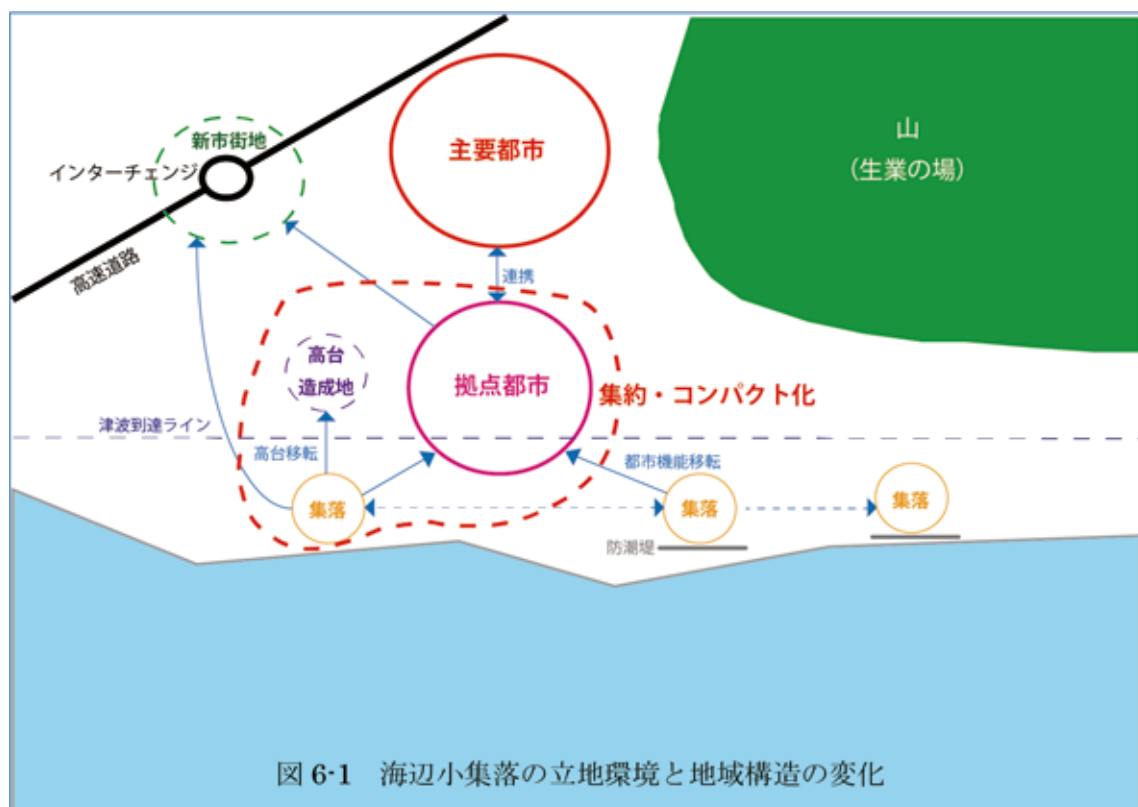


図 6-1 海辺小集落の立地環境と地域構造の変化

津波被害が及ばない主要都市との関係についても積極的な見直しが必要である。発災後当分の間は被災地支援や被災者の就業支援、事業継続拠点などの役割が求められる。被災地域と結ぶ国規格道路や鉄道の整備が十分であるかどうか、日常からのチェックと先行整備が求められる。また、インターチェンジ周辺や道の駅、鉄道駅などは災害時の支援拠点となるとともに、復興段階で新たな拠点を形成する可能性も有する。被災地域外とのネットワークの在り方を踏まえた復興の姿を描くことが必要である。

津波災害のレベルをどの程度（L1,L2,L3…）に設定するかとともに、上述の立地的要因が、集落ごとの復興の姿に強く影響することを知っておかなければならない。東日本大震災をはじめとする先行事例では、漁港や水産加工などの機能は堤外または現地に、居住機能は高い堤防で守られた堤内または高台へという傾向がみられるが、他都市あるいは他地域との関係性をふまえた地域構造の変化を十分考慮しなければ、需要量を読み誤るおそれがある。

図6-1は上述の課題を模式的に示したものである。次節以降に述べる提言は、この全体像のいずれかの場所について、個別にしたためられたものだが、いずれ

の提案も常にこの全体像を意識したものであると理解されたい。

- ・復興まちづくりのフェーズと平時のまちづくりを意識し、継続的に備える

南海トラフ地震の被害想定、歴史、まちづくりの現状と課題、地域構造における位置付け、財政、土地利用、海の利用、その他の要素、これらは地域によって異なる。そのため、将来発生する南海トラフ地震への備えについて一律の答はなく、それぞれが最適な解をその時々で見出さなければならない。本提言はその方法論や検討項目を見出そうとするものであり、その一つが前述の地域構造の変化を踏まえることの重要性であり、もう一つが見出された目標を実現していくための方法である。

ある時点の目標像があったとして、そのすべてを事業として一気に達成することは、財政上、制度上、合意形成上も不可能であるだけでなく、非効率な投資対効果や事業をきっかけとした人口の流出、地域の歴史・コミュニティの断絶等、平時のまちづくりにとってマイナスに作用することも予想され、合理的とはいえない。一方で、事業化ができないからといって対策をあ



図6-2 南海トラフ大地震に対する備えと研究テーマ

海辺集落を対象とした南海・東南海地震への備えの検討方法の開発

きらめくこともできない。つまり、地域の条件を十分に整理しそれらを統合した計画の中で、実施の順序や程度を定め、中長年に漸進的に実施すること、しかも平時のまちづくりに資することが必要である。そのためには、各施策の復興のフェーズでの位置づけと平時のまちづくりでの位置づけを意識することが有効と考える。

災害発生からのフェーズ（0から3）、範囲（個人から広域）、取り組み主体（自助、共助、公助）から、被災前の取り組みに着目する我々の研究テーマは図6-2のようにまとめることができる。ここに示す事項のうち、特に避難や避難施設の整備、防災対策インフラの強靱化、情報ツールの充実に関しては、すでに実務レベルでも取り組まれているが、復興事業の先行事例調査（奥尻島、淡路島、玄界島）及び大分、和歌山、高知での取り組み等を通じて、フェーズ3（復興時）につながる平時の取り組みは未着手となっている場合が多く、フェーズ1・2で進められる整備については、平時のまちづくりにおける位置付けが十分ではない実態が明らかになってきた。防災対策がまちづくりとして総合的に進められるのではなく、断片的な事象に対

する施策となりがちであり、防災や減災以上の地域への貢献は少なく、復興における最大の課題といえる時間の短縮に資する取り組みはほとんどみられない。一方で、高齢化、人口減少、中心市街地や産業の衰退といった課題は、自然災害以上に確実に地域を疲弊させている。

こうした課題を解決しつつ継続的に備える方法として、被災を想定したまちづくりのサイクル（図6-3）を提案する。このサイクルのポイントは、次の3点である。

- ・通常のまちづくりのプロセスをとるが、アウトプットは「平時のまちづくり」、「フェーズ1・2対応の備え」、「フェーズ3への適用」を同時に想定すること
- ・このとき、事業の実施時期を定めない取り組みも許容すること（アウトプットのタイミングが3つあるので、課題によってはどこかの段階に留まることも合理的である）
- ・「知る」、「考える」、「決める」、「できることから実施する」という地域のあらゆる主体が、それぞれの立場で主体的に取り組めるものであること

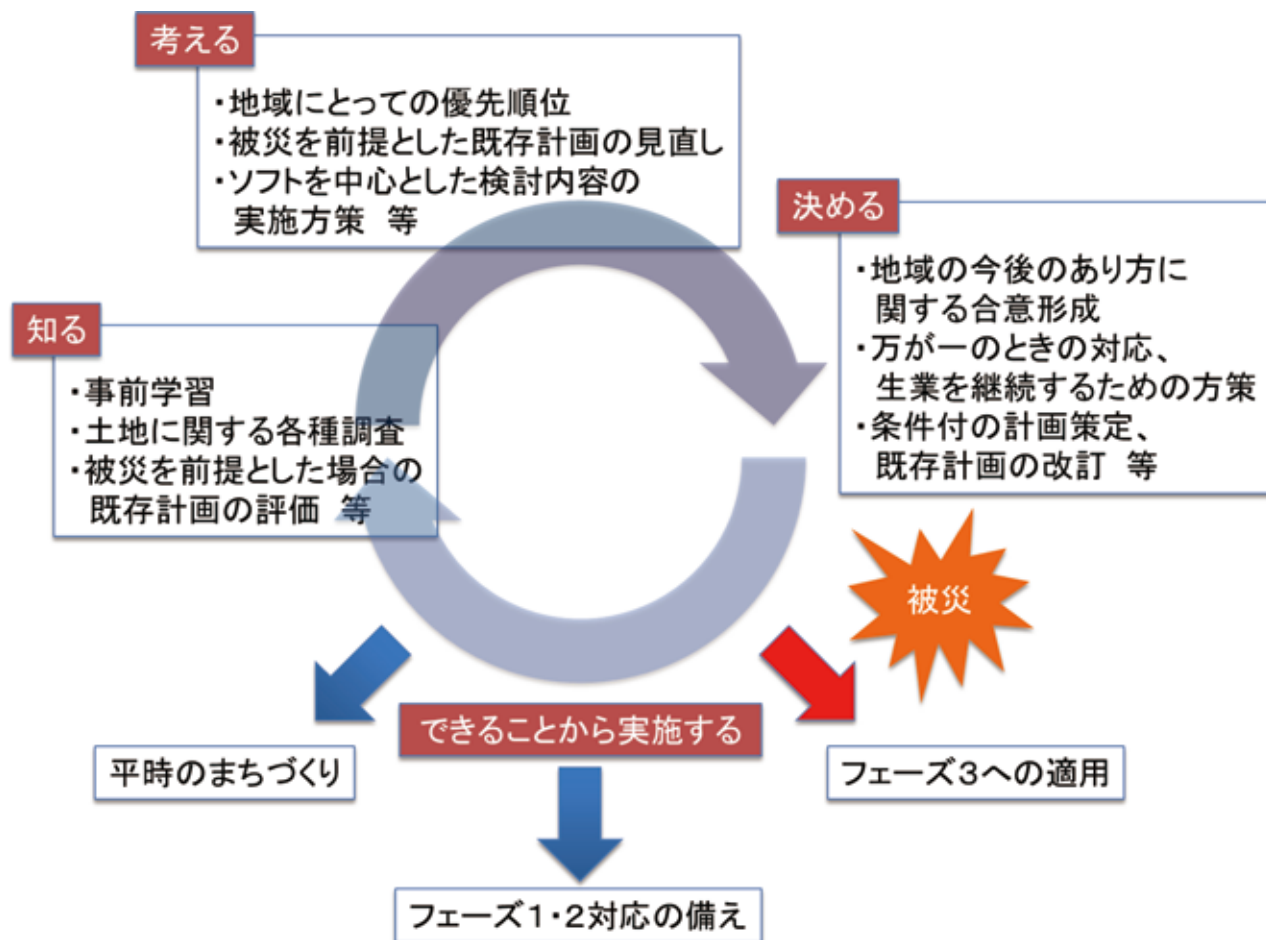


図6-3 被災を想定したまちづくりのサイクル

これにより市民の参加や理解の促進、合意形成の土壌づくり、平時の取り組みと防災対策事業の連携、準備をしておくことで復興に要する時間の短縮を実現しようというものである。もちろんサイクルなので、計画の見直しや継続的な改善も含む取り組みである。

復興の姿研究会の提言

前節の被災を想定したまちづくりのサイクルに沿い、4つに分類し（他の分類にも関係する部分があるが主要な分野に当てはめて）提言する。なお、具合的な提言の詳しい内容は、「海辺集落を対象とした南海トラフ地震への備えの検討方法の開発 復興の姿研究会からの提言」をご覧ください。

「知る」

大分、和歌山、高知でのシンポジウムや各地での調査を通じて得られた知見のうち、特に重要な事項に「事前学習」がある。いくつかの防災対策事業をみると、事前復興を考えるあらゆる地域が自然災害をはじめ様々なリスクを抱えているにも関わらず、それらに総合的、複層的に備えるほどには地域のリスクに対する理解を深めていなかったことがわかる（大分県臼杵小学校の移転検討の事例は、移転計画をきっかけとして地域住民が主体的に津波以外のリスクを学習・整理した数少ない例といえる）。また、災害の記録はあっても、復旧・復興の記録や記憶の継承は十分ではなく、そこで得られた貴重な体験や知恵がその都度失われ、次または他のまちづくりに生かされてきたものは少ない（和歌山県広川町の濱口梧陵の取り組みは例外的である）。加えて、復旧・復興を考えるときに必要となる情報をあらかじめ収集・整理しておくことも重要である。こうした状況においては、地域を「知る」ことから始めなければならない。「知る」ことで適切に考え、意思決定することができる。

主に「知る」ことに関する提言

- ・復興まちづくりの「事前学習」の提案
- ・災害伝承による事前復興計画の提案

「考える」

地域のリスクを「知る」と次に対策を「考える」のであるが、備えが活用される時期は不明で、考える範囲を設定すること自体が難しい。特に、多数の利害関係者による合意形成を必要とする場合はさらに難しくなることから、「考える」ための方法論が求められる。

主に「考える」ことに関する提言

- ・津波避難施設整備を通じたまちづくり手法

- ・津波被災への事前復興計画作成に向けた事例、ヒント

「決める」

知り、考えた結果は何らかの形でとりまとめ「決める」。そのときのまとめた方が明らかであれば、「知る」ことも「考える」ことも容易になるし、決めたことも共有されやすい。高知でのシンポジウムでは、被災や被災後の復旧・復興も想定して既存の計画を見直すというアイデアが出されたが、これまでのまちづくりの取り組みを十分に活用しながら、新たな要素としての備えに対応することが必要である。

主に「決める」ことに関する提言

- ・都市計画マスタープランを事前復興計画として活用
- ・エコシステムを基盤とした災害に強い地域再構築ビジョン
- ・災害に強い小漁村の生業ビジョン

「できるところから実施する」

避難施設整備のように、先行して実施が計画されることもある。その際も「知る」、「考える」、「決める」というプロセスを経て準備されたもののうちから実施し、平時のまちづくりとして整合性のとれたものとすべきである。一方で、多くの計画はそもそも事業化することが容易ではない。しかし、小さなコストでできること（例えば、制度の見直し）、他の事業の中で実現できること（例えば、防災情報を盛り込んだ観光用の情報システム、避難経路にもなる散策路の整備）も多くあるだろう。また、今はできなくても、時期を見計らって「できるところから実施する」準備を進めておくこともできるはずである。

主に「できるところから実施する」ことに関する提言

- ・来街者にもわかりやすい災害対策整備を伝える安心のデザイン
- ・復興まちづくり計画に伴う交付金制度への提言
- ・避難施設の持続可能な維持保全を支える方法に関する考察

本プロジェクトの報告冊子は下記からダウンロードできます。
<http://www.judi.gr.jp/archives/project/2014-04.pdf>
 （資料編）
http://www.judi.gr.jp/archives/project/2014-04_siryō.pdf

歩行者空間デザインの可能性を探る

1. プロジェクトの主旨

都心の歩行者空間については、沿道や地域の商業振興への貢献に比べ、都市環境デザインや歩行者空間の質といった点での評価は十分とはいえない。そこで、日本各地のユニークな歩行者空間を対象に、こうした観点から再評価し、歩行者空間のこれからを展望することを目的としたプロジェクト。今回は、福岡市天神地区を対象に歩行者空間の利用とその仕組みを支える空間のあり方について調査・考察した。



2. 2013 年度の概要・プログラム

主催：都市環境デザイン会議

協力：We Love 天神協議会

プロジェクトリーダー：鳴海 邦碩（JUDI 関西）

[事前プログラム]

天神のまちづくり構想を参加者に事前配布。

[現地プログラム 2014 年 2 月 15 日（土）]

- ① 趣旨説明
 - ② これからの歩行者空間デザインに関する勉強会
利用・運用とそれを支えるデザイン（事例紹介）
 - ③ 事例に関する議論
 - ④ 天神地区のまち歩き、翌日のプレゼン資料準備
- [現地プログラム 2014 年 2 月 16 日（日）]

- ① 天神地区への提案作成
- ② 提案発表
- ③ 意見交換とまとめ

3. 事例紹介と事例に関する議論

事例 1～4 は歩行者空間利用を進めるためのマネジメント、事例 5 は歩行者空間整備のポイントを紹介した。また、その後の意見交換では、歩行者空間を利用する際の季節（札幌の雪、福岡の黄砂）への対応、道路占用許可が事業の範囲を狭めることもあること、オープンカフェや広告事業が成立するのは容易ではないこと、建物との調整が難しいこと、社会実験であっても認められにくい例が多々あること、歩行者空間の維持・管理に関する官民の役割分担などについて議論された。

事例 1：札幌大通り

報告 服部 彰治（札幌大通まちづくり株式会社）

札幌大通まちづくり株式会社は商店街振興組合や地元企業、行政の出資により設立し、収益事業により組織を運営する。日本初の都市再生整備推進法人。札幌駅とすすき野という核となるエリアの狭間にあり、1972 年札幌冬季オリンピックの際に整備された都市基盤や建物の改修・更新の停滞、不法駐輪等が課題。道路占用特例により、飲食・購買施設 5 か所を歩道内に恒常的に設置し、2 週間から 3 カ月の箱貸しで営業（事業者は定期的に入れ替え）。各種手続きは事業者が実施。また、これら施設をラッピングする広告事業も実施。占用料は通達により路線化ベースで設定されている。施設の設置費用は国及び札幌市の補助、維持・管理費はまちづくり会社が負担。その他、歩道の清掃活動、不法駐輪対策、サイクルシェアリング、駐輪場整備を推進。公共空間の魅力向上を契機に、沿道施設の魅力向上を目指している。

事例 2：新宿 3 丁目モア 4 番街

報告：中野 恒明（JUDI 関東）

新宿駅前商店街振興組合と新宿区の官民一体の取り組み。乗降客数世界一の駅周辺だが、1980 年代以降の周辺地域の都市開発、地域間競争への危機感から、商店街の環境改善、歩行者空間整備の研究会や整備を実施。最近の課題は、路上駐車、不法駐輪、浮浪者。道路占用特例による歩道利用として、店舗を恒常的に 2 箇所設置し、事業者を公募（物販機能が小さいカフェで事業が困難なため、応募は常に 1 社のみ）。その他デジタルサイネージと広告塔による広告事業、立地を生かしたイベント等を実施。道路の維持・管理のため、清掃・美化活動、防犯活動、地域行事開催等のまちづくり活動を展開。

事例 3：グランフロント大阪

報告：植松 宏之（グランフロント大阪 TMO）

開発事業者 12 社が設立し、委託費及びスポンサー料、その他収益事業によりグランフロント大阪 TMO を運営。大阪梅田に隣接する新規開発地での官民一体の取り組みで、街びらき当初からマネジメントによりエリアの価値を最大限発揮することを目指す。道路占用特例により 3 店舗が店舗前の歩道を座席として使用。また、歩道でバナー広告事業も展開。これらの占用料は札幌と同じ考え方である。うめきた広場（大阪市所有、事業者借受、TMO 運営）でのイベント開催も収入となっており、休日は 150 万で貸出。スポンサー企業の販促イベント、音楽ライブ、スポーツ観戦等を実施。等歩道の管理は TMO が清掃から、ガードマンの配置、不法駐輪対策等を実施。

事例 4：錦二丁目まちづくり協議会

報告：河崎 泰了（JUDI 中部）

名古屋駅と栄町という核となるエリアの狭間で、繊維産業の衰退や人口減少とともに建物の改修・更新が停滞、町全体が個性と活力を喪失し、治安と風紀の悪化が懸念されているエリアの協議会。会員とその会費によって運営されている。様々な取り組みは会員や有志のボランティアで行っている。主なイベントとしてあびす祭（道路占用特例によらない道路利用）があり、社会実験として歩行者空間の木質化にも取り組んでいる。これは名古屋大学と連携した都市の木質化実験の一つであり、協議会+川上の森林や農村+大学の連携で進めている。最初は、敷地内に木製デッキを設置し地域に開放したが、現在、道路の木質化の社会実験に向けて協議、検討中。

事例5：歩行者空間の利用とデザイン その工夫と課題報告：栗原 裕（JUDI 関東）

木曽街道奈良井宿では江戸時代の街道にならい土舗装をイメージ。サービス車両の通行も考慮し、土のように見える脱色アスファルトで、機能と景観の両立を図った。再開発による歩行者空間整備では、補助金が入ることによる使用材料の制限やメンテナンス費用を考慮した仕様選定、ユニバーサルデザインの導入、お祭り等の地域活動への対応、透水性舗装にといった環境配慮など、多くの課題を解決しなければならない。使い方に関しては、駐輪と乱横断が常に大きな問題で、プランや装置を工夫しなければならない。また、道路内のシェルターは設置者や特定行政庁によって扱いが異なり、歩道橋も屋根の有無で扱う法律が変わるので、対応が複雑。歩行者空間には休憩施設が必要であるが、以前はベンチが設置できなかったので花壇や横断防止柵を座りやすい形にデザインする等の工夫をした。維持管理も見据えたデザインが重要で、剪定の手間が小さい樹種や耐用年数が長く清掃しなくてよい素材の選定、うまく使ってもらうため利用者との連携が必要となる。

4. 提案

現地において提案を作成し、パワーポイントを用いて発表した。提案のタイトルは以下の通りである。

- ・天神2丁目歩行者空間のあり方
- ・天神女子のセルフィー通り
- ・スローダウン天神
- ・出会いが言われるが、一体、何と出会うのか
- ・みんなのステージに
- ・歩行者空間のデザイン、マーケティング
- ・沿道建築からみた歩きたくなるまち
- ・大規模施設外部の賑わい空間

- ・親不孝を親孝行に
- ・天神で見つけた穴場
- ・幅員と機能に応じた区画道路の活用と再配置
- ・人に優しい奥行きのある空間を創る
- ・ネックレス、青空、継承する、抜ける空間

女子たちが自分で手作りできる通り

天神に女子なカワイイスクールを、自分たちでつくった通りでワフワフしたい。

ゆっくりすごすことができる。Slow Life

九大学生の見た天神 2011

・お土産が買えない
・シンボリックなものがない

歩くこと

セットバックした部分にカフェ

セットバックした部分でのカフェ・スターバックスの設置

現在ファニチャーの問題

・素材が気候次第で温度が上下する素材×
・利用価値以上にデザイン重視
・メンテナンスフリーか、民間の定期的管理か
・環境表示・気温・湿度・熱中症危険表示のパネルなど
・喫煙所の設置検討

変化があり、奥行きのある空間を

・直線的で距離の短い空間はすべてが見通せてしまう
・歩いて行くと新たな景色が見える空間にしたい

賑わいのネックレス

●天神には、公園・オープンスペースが足りていない。
●それをつなぐ歩行者空間は、ネックレスのようにキラキラに人の賑わいが溢れる空間であって欲しい。
●ビルへのバックサービスはあっても、中心部へはやはり車の乗り入れを制限したい。

- スライド ※上から
- 1、2
 - 3、4
 - 5、6
 - 7、8
 - 9、10
 - 11

歩行者空間デザインの可能性を探る

1. プロジェクトの主旨

都心の歩行者空間については、沿道や地域の商業振興への貢献に比べ、都市環境デザインや歩行者空間の質といった点での評価は十分とはいえない。そこで、日本各地のユニークな歩行者空間を対象に、こうした観点から再評価し、歩行者空間のこれからを展望することを目的としたプロジェクト。今回は、サンクンガーデン、ペダストリアンデッキ、トランジットモール等の複合的整備が進む姫路駅北地区を対象に周辺地域にもたらす影響について調査・考察した。なお姫路市では、この街路整備に加えて姫路城の修復工事の完成もあり、百年スケールの2つの大事業による今後が期待されるところである。



姫路駅北地区計画完成イメージ

2. 2014年度の概要・プログラム

主催：都市環境デザイン会議

協力：姫路市

プロジェクトリーダー：鳴海 邦碩（JUDI 関西）

参加者 27 名（うち会員 15 名）

〔事前プログラム〕

姫路大手前通りの計画資料を参加者に事前配布。

〔現地プログラム 2015 年 2 月 14 日（土）〕

① 歴遊会 糺屋氏の案内でまち歩き

整備の進む駅周辺と大手前通りに加えて、周辺市街地の形成の履歴や史跡、歴史を活用したまちづくりの説明も受けながら実施

② 姫路駅北地区の整備についての講義

・行政：姫路市 森氏

・市民団体：NPO スローソサエティ 米谷氏

・交通事業者：神姫バス 酒井氏

・まち歩きマップ解説 長谷川、篠原（JUDI 関西）

〔現地プログラム 2015 年 2 月 15 日（日）〕

① 提案作成

② 提案発表

③ 意見交換とまとめ



3. 講義の概要

行政、市民団体、交通事業者という異なる立場の 3 名から、姫路駅北地区の計画や今後に期待することを紹介していただいた。

姫路市 森氏からは、事業の経緯や概要が説明され、駅前のピロティ空間等の公共空間をつなぐ工夫の紹介があった。また、整備後の公共空間の使い方を、これから本格的に検討していくとのお話があった。

スローソサエティ協会 米谷氏からは、市が示した当初案に対して、整備対象である大手前通りの東側に並行するアーケード街 御幸通りと駅のつながりが悪いといった点で周辺事業者からの評判がよくなかったこと、市民がデザインに関与した事などが紹介された。また、後背地となる山とまちをつなぐ取り組みとして、市内各所の農林の産物をまちで消費する活動（駅前縁結び市や姫路杉活等）を行っていることや、まちなかでの活動を支援するポータルサイト マチツカイヒメジの運営、駐輪問題解決に向けた社会実験を実施し、得られた成果から駐輪場が本格設置されたことなどが紹介された。

神姫バス 酒井氏からは、公共交通を運営するものにとっては、分散型ではなく集約型の歩いて暮らせるまちがよく、そのようなまちの構造が空間性やディテールにも反映される（例えば、分散型のまちでは遠方からの視認性を意識した看板となり、集約型であればヨーロッパのまちのような歩行者目線のしやれた看板になるだろう）との話があった。また、マイカー依存のライフスタイルは郊外大型店を立地させ、中心市街地の衰退を招き、公共交通利用者が減少しサービスが低下する、そして、さらにマイカー依存になるというまちにとって負のスパイラルに陥るので、中心市街地の活性化と路線バスの確保・維持・改善を並行して進めることが望ましいと



考えているとのことであった。大手前通りの整備により駅前から一般車両を排除したことで、歩行者にとっての環境が向上し、賑わいの基盤ができつつあること、路線バスの定時制確保等にもつながり、公共交通のプレゼンスも向上することも報告され、駅前と大手前通りがお金を払って行きたい場所になれば、郊外店舗に伍することもできるとのお話だった。

3名からの講義の後、質疑および意見交換を行った。

整備を進める際、大手前通り周辺の商店街についてはどのように考えたかという質問に対しては、計画の初期段階からそれらの方々も参加しており、お城+駅+大手前通りの整備で中心市街地を活性化し、集客力を向上させ、シャワー効果で商店街も活気付くよう検討している、また、沿道建築物のあり方も含めて整備の効果を面的に広げるため、姫路まちなかマネジメント協議会で検討しているとの説明があった。次に外来者と地元住民ではニーズが異なるので、整備の前後を大局的にみれば大きな変化はないのではという質問があり、神戸・大阪に流れる地元のニーズを呼び戻したいと考えていること、整備により駅前にシフトしてきたサービス等がある一方、拡散したものとあるとの話があった。また、整備以前は、城だけを目的とした観光客が多かったため、まちなかにまで引き込みたいこと、個人の観光客、外国人が増加しているとのことであった。続いて、都市圏が広くマイカーで来街する方が多いことへの対応が聞かれ、駅前への交通を制限する一方で周辺の駐車場を充実させていること、鉄道利用者についてはキス・アンド・ライドを想定していること、周辺駅での乗り換えを進めたいこと、幹線とブランチによる公共交通体系としたいことなどの説明があった。

4. 提案（詳細は JUDI ホームページ参照）

現地においてパワーポイントで提案を作成し、姫路市や市民も招いて発表した。提案のタイトルは以下の通りである。



- ・姫路のアイデンティティとしての広場と歩行者空間
＜スライド1＞
- ・駐輪施設を媒介とした賑わいの創出
- ・姫路駅北駅前広場 にぎわいに潜む影

- ・大手前通り“彫刻守”プロジェクト ＜スライド2＞
- ・エッジ空間のデザイン・マネジメント
＜スライド3＞
- ・駅前広場×商店街×姫路城～姫路北エリアの連動したまちづくり～
- ・観光の回遊性の向上
＜スライド4＞
- ・つなぐ＊4
- ・主役はお城！
- ・城下町の都市デザイン？ーどんな風景をつくりたいのかー
＜スライド5＞
- ・公共交通と歩行者優先への構造改革
- ・姫路をつなぐシェアサイクルの活用
- ・観光のまち姫路の裾野を広げる
＜スライド6＞
- ・歩く＊つなぐ
- ・城下町としての姫路を体感する
＜スライド7＞
- ・食文化としての播磨の地酒のこれから
- ・横綱プロジェクトを越えて播磨のハートへ
- ・姫路城周辺＜外国人環境客向けサイン＞
- ・小さな活動のための場所



スライド ※上から
1、2
3、4
5、6
7

語り継ぐ「日本の都市環境デザイン」の系譜 **Archive** 2013 2014

1. 趣旨

JUDIは1991年の設立後20年以上の長年に渡って、日本における都市環境デザインのための情報交換や人材育成のプラットフォームとして、様々なジャンルの専門家たちのネットワークによって活動を展開してきた。一方で、実務レベルにおいて、本当に分野を越えた連携による「都市環境デザイン」がどの程度確立されてきたのかを考えると、まだまだその仕組みづくりや水準の向上が不可欠な状況にあると言えるのではないだろうか。これまでの都市環境デザインの取り組みについて、関西支部では2011年に「JUDI 関西 仕事の軌跡と展望」が取りまとめられるなど、成果の蓄積を振り返り、展望を考える取り組みは行われているものの、特にJUDI創設期を支えたメンバーらの実践の成果やその思想を引き継ぎ、今後の都市環境デザインのあり方を考えることは、社会構造が大きく変わりつつある現在において、大変重要な意義を持つと考えられる。

そこで、本プロジェクトでは日本における都市環境デザインの草創期において実践を重ねてこられた方々に対するインタビューによって、何ができて、何ができなかったか、その挑戦の経緯を把握し、成果と課題を明らかにすることによって、これからの都市環境デザインに求められる仕組みや技術、考え方などについて、特に若手を中心に考えていく議論の場をつくることを目的とする。先人たちの叢智を十分に引継ぎ、これからの時代の「都市環境デザイン」について考えていきたい。

2. 主なインタビュー項目

① JUDIとは何か？

- ・ JUDIに関わられた経緯と目的について
- ・ JUDIでの活動において一番印象に残っている出来事について

② JUDIができたこと／できなかったこと

- ・ JUDIが目指してきたものとその成果について
- ・ JUDIが達成できていない点と今後の活動の方向性について

③ 「都市環境デザイン」へのアプローチ

- ・ ご自身の「都市環境デザイン」に関する代表作について（特に苦心された点や力を入れられた点）
- ・ 他分野とのコラボレーションの意義や可能性と限界性について

④ 若手へ向けたメッセージ

- ・ これからの「都市環境デザイン」に求められるもの

3. インタビュー概要

① 高橋志保彦先生インタビュー

「商業地の都市環境デザインとJUDIのこれから」

日時：2014年3月20日（木）13：00～15：00

場所：フジサワ名店ビル会議室

② 大塚守康先生インタビュー

「“地”のランドスケープ：境界を越えて柔らかな都市へ」

日時：2014年3月26日（水）18：00～20：00

場所：株式会社ヘッズ大阪本社

③ 水野一郎先生インタビュー

「北陸そして金沢にこだわる都市環境デザイン」

日時：2014年3月28日（金）17：00～19：00

場所：近江町交流プラザ研修室1

④ 岸井隆幸先生インタビュー

「JUDIの25年：コラボレーションの実践」

日時：2014年4月4日（金）17:00～19:00

場所：日本大学駿河台校舎

⑤ 曾根幸一先生インタビュー

「コラボレーションの仕組みをデザインする」

日時：2015年4月13日（月）14：00～16：00

場所：環境設計研究室

⑥ 鳴海邦碩先生インタビュー

「編集的リーダーシップが築いてきたもの」

日時：2015年5月25日（月）18：30～21：00

場所：大阪市立大学文化交流センター



4. まとめ

6名のメンバーへのインタビューを通じてJUDIが目指そうとしていたもの、これまでに達成してきたものについての知見を得ることができた。個別のインタビュー内容については、誌面にまとめアーカイブ化して広く一般にも公開をしている。今後は、このような蓄積を継承するとともにまだ達成されていないものやあたらしく取り組むべき課題を意識しながら、これからのJUDIの役割と目的を考えていくことが望まれる。

隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える

Archive

2013

2014

「都市デザイン交流会フォーラム 2014 隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える」は、2014年2月22日(土)、浅草文化観光センターに於いて開催された。

このフォーラムは、隅田川歴史的橋梁群のうち都が所管する「吾妻橋」が、現状の高彩度の赤で再塗装されるという方針に対し、広く都市デザインや環境色彩計画、橋梁設計等に関わる専門家、および市民の意見を確認することを目的として企画された。そして都市環境デザイン会議 [JUDI] 有志の呼びかけにより、NPO 景観デザイン支援機構 [TDA]、公共の色彩を考える会、GS デザイン会議、土木学会 [JSCE] 景観・デザイン委員会、日本建築家協会 [JIA] 都市デザイン部会、および城東地域会、カラービジネスネットワーク [CBN] の6団体が集まり共催し、そして台東区、墨田区、隅田川ルネサンス推進協議会が後援して開催された。

近年、吾妻橋のある隅田川周辺が注目されている。2012年のスカイツリー開業以来、多くの人々がここを訪れるようになり、2011年より都・区・沿川地元団体による「隅田川ルネサンス…江戸の華であった隅田川の賑わいを取り戻す」も始まり、東京ホテル®、水辺カフェ、マルシェ等や「あかり」を活用した夜間景観のイメージアップ実験等が進められている。

その中で隅田川歴史的橋梁群の代表的な橋とも言えるべき存在の「吾妻橋」の塗替えに際しての色彩の議論はマスコミも取り上げ、多くの人々の関心を集めた。フォーラムには150名近くの参加者があり、予想以上の盛り上がりを見せた。あまりに多くの人々の参加があったために、第一会場だけでは入りきらず、急遽準備していた第二会場に参加者を誘導し、YouTubeを使って第一会場の映像を配信したが、準備が不十分であったために画像・音声の不鮮明で、遂にはネット配信が途中で途切れてしまうというハプニングも発生した。すぐに第二会場の参加者を第一会場に誘導し、立見の状態となり、今後の対応に課題を残したが、このハプニングも多くの人の関心を集めた内容のフォーラムであった証であろう。

“都市デザイン交流会フォーラム 2014

隅田川の景観・歴史的橋梁文化価値を考える”

■開会 / 趣旨説明

■基調講演『隅田川に架かる著名橋がつくり出す景観』

中井祐 (GS デザイン会議・東京大学教授 / 工学部社会基盤学・社会基盤学専攻)

■報告1『隅田川ルネサンスの取り組み紹介と水辺活性化への期待』

中野恒明 (JUDI・芝浦工業大学教授 / システム理工学部環境システム学科)

■報告2『世界の水辺・橋梁』

小林正美 (JUDI・TDA・明治大学教授 / 理工学部建築学科)

■報告3『都選定歴史的建造物・隅田川橋梁の塗替えについて』

谷内加寿子 (東京都都市整備局都市づくり政策部緑地景観課景観担当課長)

■パネルディスカッション『都市デザイン、建築、土木の専門家による著名橋の色彩についてのディスカッション』

パネラー：尾登誠一 (公共の色彩を考える会・東京芸術大学教授)、杉山朗子 (JUDI・TDA・(株)日本カラーデザイン研究所景観事業部長)、宮沢功 (JUDI・TDA・(株)ヨシモトポール顧問)、司会進行：吉田慎悟 (JUDI・TDA・武蔵野美術大学教授 / 環境色彩)、※コメンテーターとして講演・報告の登壇者4名

■吾妻橋塗装色彩計画案アンケート

当日会場で行われたパネルディスカッションでパネラーが色彩計画案を提示し、その場でカラーシミュレーションを行い、6つの色彩計画案が出来上がった。この6つの色彩計画案を会場大きく映し出し、アンケート調査を実施した。アンケート結果は、第3案の現在の赤いイメージを残し、少し彩度を下げて浅草寺等でも見られる弁柄色にする案と、画家の小松崎茂が架橋時代に描いたであろうスケッチから類推した第6案の深緑色の案が同数の得票となった。さらに会場からは多くの意見が寄せられ、この議論をさらに深めるための続編の開催を望む声も多かった。その声を受けて、“都市デザイン交流会フォーラム 2014 隅田川の景観・歴史的橋梁文化価値を考える2”が、開催されることとなった(2014年12月21日(日)・於：すみだリバーサイドホール・イベントホール)。



●当日のリーフレット

●アンケートに使用した6つの色彩計画案

日台交流シンポジウム「京都・台中 ～ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」

■京都・台中、日台都市の近代化

今日の京都の都市基盤を形成した近代的なインフラ整備の集大成が「京都市三大事業」（1908-12）である。奇しくもこの事業は台湾で台北県支庁長・宜蘭庁長を務め、河川整備や道路整備を進めた西郷菊次郎（1861-1928）が、京都市長となり実施したものである。三大事業の仕上げともいえる四条大橋と七条大橋の意匠デザインは、総督府（現、総統府）を始め台湾に多くの官庁建築を残した森山松之助（1869-1949）が担当した。

また台中は百年有余年の歴史をもつ計画都市である。1895年、英国人技師 W.K. Barton と濱野彌一郎が作成した「台中市都市計画報告書」において、「碁盤状」の都市として計画されたアジア随一の計画都市であり、「台湾の小京都」とも称された。（この呼称は現在の台中市長・林佳龍氏も引用している）

このような事例から見ても、日台の近代的都市開発は互いに影響を与え合い、今日の都市景観の基礎を築いたことが分かる。近代化を経た都市の歴史継承と景観まちづくりを比較し、ポストモダン期の課題を共有し、文化・環境政策のパラダイムシフトを考えた。

■台湾の近代から日本を知る

台湾を訪れた日本人は、日本統治時代のさまざまな遺産に出会うことになる。それは自らのリアルな「近代史」に向かい合うことである。かつての日本人が隣国の人々とどのような関係を切り結んだかを知ることは、東アジアの未来を考えるための貴重な学習である。

台湾の人々も日本統治時代の近代建築や日本式木造家をリノベーションし魅力づくりをすることで、空洞化する旧市街地（歴史都市）を再生させようとしている。まちづくり活動家は、当時の絵はがきなどの古写真を研究し、景観再生を探っている。人々の記憶が詰まった鉄道遺産（鉄路、倉庫、宿舍）を保存し、遊歩道でつないで活用しようと提案する市民団体もある。

日本統治時代に建設された台湾旧市街地の都市景観は、日本人にとっても台湾人にとっても近代史と出会い、自らのアイデンティティを確かめる契機となる。それは植民地時代の栄光への懐かしさと同時に、アジアの国々を巻き込んだ悲惨な戦争による喪失の痛みを味わう体験でもある。

「痛み」は台湾の都市景観のあちらこちらから伝わってくる。米軍空襲の痕跡、数奇な運命に翻弄された台湾人兵士を記念する公園、228事件（1947年）を伝承するモニュメントなどが、台湾のアイデンティティを物

語り、外国からの訪問者にも感銘を与えている。どんなに優れた現代的造形物からも、このような感銘を受けることがない。歴史の厚み、人々の記憶の集積した風景が、深みのある都市の物語を生むのである。

今回のシンポジウムとフィールドワークで、重層する都市の歴史を台湾の人々から直接学ぶことができたことは実に幸福な機会であった。

■ポストモダン期の課題をどうとらえるか

さて、シンポジウムでは近年の京都市の景観まちづくりの紹介を行いつつ、台中市との比較や共通する課題が議論された。

現代都市に歴史都市のブランドを定着させるためには、規範となる都市像が必要である。都市像の基盤は京都盆地の地形であり、景観規制ゾーニングの根拠となっている。風土と歴史文化を景観形成の基本に据えているのが京都市の景観政策である。（「京都市の新景観政策」内藤郁子）

台中市も盆地に立地する都市で、その規模も同じく約10キロメートル四方である。台中がかつて「小京都」と呼ばれた理由の一つであろう。

盆地の中央を流れる鴨川は、氾濫を繰り返しつつ、都市と共存する自然として親しまれ、京都を代表する景観の一つとなっている。河原からは芸能が生まれ、近代橋と近代建築が新たな都市景観を形成した。高密度化する都市空間の中で、人々が自然のオープンスペースに価値を見出し、集い、文化が生まれた。今後、縮退し空洞化する都市の再生における自然の役割として参考となるだろう。（「鴨川と人々のかかわりの歴史的変遷」小林明音）

一方で近代化によって生まれた鴨川運河や七条通・七条大橋のような都市空間は評価が定まらず、景観形成や活用の方向性が打ち出されていない。近代化遺産の評価と活用が、市民参加の中で模索されている。（「鴨川運河の再評価と活用」篁正康、「明日の京都を担う七条境界」中村伸之）

台中の旧市街地・中区は20世紀初頭の日本統治時代、東アジアで最も早い時期に都市計画され開発された歴史的な近代都市であるが、都市圏の拡張により行政・商業の機能が移転し空洞化が進んだ。

都市の成り立ちを深く掘り下げ、アイデンティティの起源とすることで、近代建築・近代化遺産を核とした都市再生を進めようと、東海大学建築研究センターの蘇睿弼先生が「中区再生基地」を立ち上げ、積極的にプレイヤーとなり、ビジョンの提示や事業者と建築のマッチ

ングや広報活動を行っている。（「台中市旧市街の空洞化と再生活動」蘇睿弼）

京都でも市民が自らの地域を守り育てる活動が活発に行われている。緑化活動と居場所づくり（「区役所の屋上緑化とミツバチプロジェクト」西村 勇）、近世に開発された運河の活用（「高瀬川と廃校を拠点とした都市再生活動」富家大器）などの事例が報告された。

異なる文化を持つ人々との共生も、現代社会の重要な課題となっている。台中市における外国籍住民向けの様々な情報発信、様々な行政サービスについても報告された。（「大台中市および周辺地域における『外国にルーツを持つ人々』の市民生活に対する支援の現状と課題」松永稔也）

商業的なにぎわいを目指す看板が建物を隠し、町並みを混乱させ、都市の個性を殺してゆく。台湾では近代建築の町並みが比較的に残っているが、改装や看板などにより、その魅力が十分に生かされていない。商業デザインが都市ブランド（地域性）を活かし彩るような、バランスの取れたにぎわいの演出が課題である。都市景観を市民の共有物（コモンズ）としてとらえ、市民のコンセンサスが形成されることが望まれる。（「地域性を活かした広告景観づくり」藤本英子）

以上の議論から読み取れるポストモダン期の景観まちづくりの課題とは、①都市と自然の関係の再構築と自然を活かした都市景観づくり、②近代化の再評価と近代化によって生み出された都市空間のリノベーションと再活用、③市民参加や多文化共生の求心力となる都市のアイデンティティ再生（物語づくり）、④人口減少・都市縮退の時代に対応した魅力あるコンパクトシティとしての旧市街地（歴史都市）の活性化である。

●台中市に残る日本統治時代の建築物



台中駅。駅の大改造の後も保存される。国家二級古蹟。



宮原眼科。人気のコンフェクショナリーとなった。



桜橋。都市計画によって築造された緑川に架かる橋。



台中文化創意産業園區。酒造工場を文化施設に転用。

日台交流シンポジウム「京都・台中 ～ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」

■主題（全体テーマ）

「京都・台中 ～後現代歴史都市的景観營造」

「京都・台中 ～ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり」

一、研討會日期（会期）

2014 年 12 月 23 日（二）研討會

2014 年 12 月 24 日（三）台中市舊市區（中區）參訪
調査

二、會議地點（会場）

東海大學茂榜廳（台中市西屯區台灣大道四段 1727 號）
東海大學建築研究中心「中區再生基地」（台中市
中山路 69 號 2F）

三、主辦單位（主催）

- ☐ 東海大學跨領域日本區域研究中心
- ☐ 東海大學建築研究中心
- ☐ 日本 NPO 法人京都景観論壇（日本・NPO 法人京都景観フォーラム）

四、協辦單位（後援）

- ☐ 東海大學創意暨藝術學院
- ☐ 東海大學都市暨區域發展中心
- ☐ 東海大學文學院日本語文化學系
- ☐ 東海大學共同學科暨通識教育中心

五、經費贊助單位（協賛）

- ☐ 台灣民主基金會
- ☐ 日本交流協會
- ☐ 日本都市環境設計會議（日本都市環境デザイン会議）

2014 年 12 月 23 日（二）研討會

禱 告 黃淑燕（東海大學日本語文化學系主任）

致歡迎詞 羅時璋（東海大學創意暨藝術學院院長）

研討會主題說明（シンポジウムの主旨説明）

主持人（司会・進行）陳永峰（東海大學）

中村伸之（日本 NPO 法人京都景観論壇理事・景観家）

京都與台中：後現代歴史都市的景観營造

（京都・台中 ポストモダン期をむかえた歴史都市の景観まちづくり）

主題演講（Keynote Address）

主持人（司会・進行）黃淑燕（東海大學）

1, 内藤郁子（日本 NPO 法人京都景観論壇理事長・建築家）

京都市の新景観政策（京都市の新景観政策）

2, 蘇睿弼（東海大學建築研究中心主任）

台中市舊市區的空洞化與再生活動

（台中市旧市街の空洞化と再生活動）

Session I 自然與歷史所培育的都市景観

（自然と歴史に育まれる都市景観）

主持人（司会・進行）大西 仁（東海大學）

論文發表（研究報告）

1, 小林明音（日本 NPO 法人京都景観論壇事務局長）

鴨川與市民生活關係的歷史變遷

（鴨川と人々のかかわりの歴史的変遷）

2, 篁 正康（日本 NPO 法人京都景観論壇理事・建築家）

鴨川運河的再評價與活用

（鴨川運河の再評価と活用）

3, 中村伸之（日本 NPO 法人京都景観論壇理事・景観家）

決定明日京都的七條通地區

（明日の京都を担う七条通界わい）

與談人（討論者）

1, 林希娟（東海大學）

2, 陳正哲（南華大學）

回應與討論（綜合討論）

Session II 活化歷史文化的景観營造及公民活動

（歴史・文化を活かした景観まちづくりと市民活動）

主持人（司会・進行）林珠雪（東海大學）

論文發表（研究報告）

1, 松永稔也（東海大學）

大台中及其周邊地區對「外國人」社會生活的支援現狀

與課題（大台中市および周辺地域における「外国にルーツを持つ人々」の市民生活に対する支援の現状と課題）

2, 藤本英子（京都市立藝術大學）

活化地區性特色的廣告景観營造

（地域性を活かした広告景観づくり）

3, 富家大器（日本 NPO 法人京都景観論壇副理事長）

高瀬川與以廢棄校園作為據點的都市再生活動

（高瀬川と廃校を拠点とした都市再生活動）

4, 西村 勇（京都中京「花與緑之會」會長）

區公所屋頂綠化與蜜蜂計劃

（区役所の屋上緑化とミツバチプロジェクト）

與談人（討論者）

1, 林希娟（東海大學）

2, 陳正哲（南華大學）

回應與討論（綜合討論）

綜合座談（パネルディスカッション）

後現代期日台都市社會的走向

(ポストモダン期に突入した日台の都市社会はどこに向かうか?)

主持人(司会・進行)

中村伸之(日本 NPO 法人京都景観論壇)

陳永峰(東海大学)

(日本)

内藤郁子(日本 NPO 法人京都景観論壇)

藤本英子(京都市立芸術大学)

中川雅永(日本都市再生機構)

(台湾)

蘇睿弼(東海大学)

松永稔也(東海大学)

林希娟(東海大学)

閉幕致詞 宋興洲(東海大学都市暨区域發展中心主任)



台中市・東海大学でのシンポジウム。

2014年12月24日(三) 研討會附屬活動

台中市舊市區(中區) 參訪調査

(台中市中区フィールドワーク)

「中區再生基地」意見交換會

(中區再生基地にて意見交換会)

日本學者引言(日本側の問題提起)

1, 中川雅永 都市機構的集體住宅再生事業紹介

(都市機構の団地再生事業の紹介)

2, 山本 茂 千里新市鎮再生活動紹介

(千里ニュータウン再生活動の紹介)

3, 藤本典昭 活用自転車的社區營造紹介

(自転車活用まちづくりの紹介)



台中市民と旧市街地の歴史遺産を見る町歩き。



コワーキングスペースを運営する邱嘉綠さん。



台中市・中區再生基地で市民との意見交換会。

本プロジェクトの報告冊子は下記からダウンロードできます。

<http://www.judi.gr.jp/archives/project/2014-05.pdf>

景観デザインマップ品川

■プロジェクトの概要

訪問先：東京都品川区

開催日：2014年7月～2015年3月

調査人：金子祐介（NPO 法人景観デザイン支援機構会員）（代表）、浅川敏（建築写真家）、岸佑（国際基督教大学アジア文化研究所研究助手）、田宮晃志（建築家）他

協力者：NPO 法人景観デザイン支援機構、JUDI、法政大学エコ地域デザイン研究所

■プロジェクトの趣旨

本企画は、法政大学エコ地域デザイン研究所（陣内秀信教授、高見公雄教授）の支援の下で千代田区の助成事業として2014年度に行った『景観デザインマップ・千代田』に続き、JUDIの支援のもとで行うこととなった品川区の特性があらわれている景観をまとめたマップである。

もともとは、NPO 法人・景観デザイン支援機構に提出した企画『景観デザインマップ東京』を下敷きにしている。企画の趣旨は、「東京オリンピック2020に際し東京を訪れる観光客に、各区がもつ文化ストックとしての都市景観を楽しんでもらうためのツールを作りたい」という願いのもとに始まった。また、私達が選定した景観リストを改めて区民に見てもらい、「各エリアの近隣に住む住人にも日常的に景観のいい場所を活用してもらいたい」という想いがあった。建築家や都市計画家ではない人々にも、都市景観に対して興味を持ってもらうことから始めたいという願いのあらわれである。

■調査方法

品川区で定められた用途別エリア区分に沿った景観特性の分類、景観マップの調査対象となるエリアの記録写真撮影、景観の歴史的背景の調査・整理や時代的意義の定義を行う。

上記のような調査をもとに、各エリアの景観の特徴を洗い出し、本景観デザインマップ用の資料を作成する。具体的には、①調査をもとに歩いたエリアの記録を行う、②エリアの特徴・見所の整理を図式化する、③景観の歴史的背景・時代的意義等を一般の人にわかりやすくテキスト化する、④記録写真ではない見所としての写真の撮影を写真家とともに挙げる。

■調査エリア

①目黒駅から五反田駅に繋がる戦後にできた新興住宅地とそれを囲むエリア。②五反田駅周辺から大崎に架け

て近年開発が進んでいる高層集合住宅エリアと大崎駅前の高層オフィス街エリア。③戦後に住宅公団の開発により拓け、その後バブルの隆盛の中で臨海開発が行われるも、バブル終焉とともに開発が下火になった天王洲を中心とする臨海エリア。④武蔵小山など、戦後の闇市から始まった街区が高度成長とともに庶民の住宅地として発展してきたエリア。

各エリアで調査対象となった景観は、31ポイント。その中で報告書にまとめたものは、下記の8ポイントで



清泉女子大学周辺エリア



大崎駅周辺エリア



原美術館周辺エリア

ある。①池田山公園周辺、清泉女子大学周辺、②アートヴィレッジ大崎周辺、原美術館周辺、③天王洲アイル周辺、八潮団地周辺、④林試の森公園、武蔵小山商店街。

■調査を終えて

『品川・景観デザインマップ』に先駆けて作成した『千代田・景観デザインマップ』は、景観デザインの研究を率先して行っている法政大学・高見公雄教授をはじめTDA(景観デザイン支援機構)の諸先生方から多大な評価をいただいた。と同時に、「景観とは何か？」という明快な結論を先送りにしたままスタートした調査活動であったため「歴史的な景観としてあの場所が入ってはいないではないか?」「土木景観について調査料を増やし整理してほしい」等の指摘をいただいた調査となった。

では、今回の『品川・景観デザインマップ』の作成にあたって、「景観とは何か?」という明快な答えをもって調査に臨んだかといえば、それは「NO」である。ただし、「景観デザインとはある歴史的な観点から風景を見た際に価値のあるものだけをさすわけではない」し、「網羅的にデザインエレメントをアーカイブしていく作業でも

ない」という意見は調査員の間で共有されていたように思われる。それよりも「景観とは何か?」を考える際に、土地のもつ歴史の積み重ねについて、「現在を生活している我々が直接その場で「見ることの出来る」ことの方が重要である」という理解に至った。そして、「「見ることの出来る」世界は、多くのパラメーターによって評価していくことが重要である」との暫定的な結論を持って、今回の調査を行った。そのため、このようにして今回マップに選定した景観が、「良いのか、悪いのか」という価値判断は、さしあたり留保している。それを判断するのは、行政や専門家のみならず、冊子を手にする観光客や市民も含まれてしかるべきだからである。

ただし、他者に結論を委ねるだけでなく、今後も景観を構成するエレメントと現在「見ることの出来る」景観との関係性について引き続き調査し、多くの人に見てもらえる機会を作れればと思っている。



天王洲アイル周辺エリア



林試の森周辺エリア



八潮団地周辺エリア



武蔵小山商店街周辺エリア

災害の記憶継承に資する都市環境デザインの役割

1. 研究会の趣旨

東日本大震災の教訓として、震災の記憶を後世へ伝えることの重要性が指摘されている。こうしたなか中、東日本大震災の被災地の多くは、震災の記憶を継承するために、震災祈念公園の整備や震災遺構の保存が検討されつつある。

しかしながら、被災者、来訪者、行政関係者等の人々の置かれる立場によって震災遺構や祈念公園に対する意識が異なることや、保存や整備に関する制度的枠組みが存在しないために、合意形成の過程で関係者間での対立を招くことや、震災遺構が消滅してしまうといった事例も見受けられるなど、多くの課題を抱えている。そのため、災害の記憶を継承するために都市環境デザインが果たす役割は極めて大きいと考えられる。

このような問題意識の下、「災害の記憶継承に資する都市環境デザインの役割」（通称、災害の記憶研究会）という新たなプロジェクトを立ち上げ、以下の取り組みを実施した。

2. 研究会構成メンバー

- ・石原凌河（龍谷大学）
- ・松山茂（株式会社都市空間研究所）
- ・中村伸之（有限会社ランドデザイン）
- ・山本一馬（街角企画株式会社）
- ・畑文隆（西宮市役所）
- ・山室浩一（株式会社コトブキ）
- ・川口将武（大阪産業大学）
- ・堀口浩司（株式会社地域計画建築研究所）
- ・若本和仁（大阪大学）
- ・中野恒明（芝浦工業大学）

3. 実施内容

◎ 東日本大震災の被災地調査

- ・日時：2015年4月24日（金）～27日（月）
- ・主な視察場所：南三陸町防災対策庁舎（南三陸町）、旧中浜小学校被災校舎（山元町）、リアス・アーク美術館（気仙沼市）、千年希望の丘（岩沼市）、女川町市街地、石巻市中心市街地、陸前高田市市街地、名取市閑上地区
- ・概要：復興まちづくりの現状と震災メモリアルパークの計画の経緯や課題、震災遺構の保存の経緯などについて現地関係者からヒアリング調査を実施。南三陸町では、東日本大震災の遺構として有名となった「防災対策庁舎」について、保存に関わる現在までの経緯、県有化による保存

の進め方、町民や行政職員の保存に対する意向などについて佐藤仁町長から話を伺った。山元町では、保存が検討されている「中浜小学校被災校舎」の保存に関する経緯や、住民の意向などについて職員から話を聞くとともに、校舎内部を見学した。

また、震災展示の見学、被災地で震災の記憶継承の体験プログラムの参加、震災の語り部からの講話を聞くことを通して、東日本大震災の記憶継承の意義と課題について明らかにした。



（南三陸町防災対策庁舎：宮城県南三陸町）



（南三陸町佐藤仁町長への防災対策庁舎保存に関するヒアリング調査の様子）



(陸前高田市市街地の様子)



(旧中浜小学校被災校舎：宮城県山元町)



(千年希望の丘：宮城県岩沼市)

◎ JUDIセミナー

日時：2015年6月25日（木）

講師：石原凌河（人と防災未来センター研究員、現龍谷大学）

場所：大阪ガスエネルギー・文化研究所

概要：東日本大震災の被災地調査で訪問した震災遺構や震災メモリアルパークの保存・整備の意義や計画上の課題について報告するとともに、他の被災地での事例と東日本大震災の被災地の現況とを比較しながら、災害の記憶を継承するための都市環境デザインの可能性について話題提供を行った。これを受けて、参加者とともに震災の記憶継承のあり方について議論を行った。

4. その他

本プロジェクトの成果として、構成メンバーが、研究会活動を受けて、災害の記憶継承に関する論考を執筆した。論考の内容については、JUDI 関西セミナーのホームページ（<http://www.gakugei-pub.jp/judi/semina/a1506/index.htm>）に掲載しているのでご参照いただきたい。

歩行者空間による中心市街地の構成 インタビュープロジェクト

イタリア、ドイツの事例を参考に我が国の歩行者空間の可能性を探る。実務経験者に率直に語って頂くセミナー形式のインタビュー。

プロジェクト主催者：代表・井口勝文（INOPLAS都市建築デザイン研究所主宰、京都造形芸術大学客員教授）、千葉桂司（Kまち工房）、Franco Mancuso（パドバ大学教授）＊主催者に2015年度は2名の追加参加があった。

1. 概要

我が国とヨーロッパの歩行者空間整備には大きな差異があった。その経緯を振り返り、実務経験者に我が国の目指すべき方向を語って頂く討論インタビュー。

1960年代後半からヨーロッパ諸都市の中心市街地で歩行者空間の整備がすすめられた。その成果が今ヨーロッパの多くの都市で確認できる。それは単なる歩道や広場の整備にとどまらない、都市全体の構造を歩行者優先の思想で再構築する総合的な都市計画の一部だった。近年はさらにCO₂削減を進めるEUの政策のなかで、自動車に依存しない都市を実現する手法として重視されている。

一方1970年代後半から始まった我が国の歩行者空間整備は多くの成果を得ながらも、結果的に都市の部分的な整備にとどまった感が否めない。中心市街地の歩行者空間を最優先することで自動車依存を削減するという、都市の基本的なビジョンは我が国では確認されていない。むしろ中心市街地の自動車の通行は不可欠と考えられており、一方で自動車依存の都市の郊外化が進んでいる。

我が国の中心市街地はヨーロッパのような歩行者優先の街を目指すことが妥当なのかそれとも別の方向を目指すべきなのか、単純にヨーロッパモデルを目指す希望的な展望ではなく、経験を踏まえた現実的な展望を語って頂く。インタビューの対象は以下の方々を予定している。

高橋志保彦氏（横浜馬車道他）、梅本正紀氏（福岡天神モール他）、鳴海邦碩氏（旭川買物公園他）、中野恒明氏（門司港レトロ他）、南條洋雄氏（スカイテラス狭山他）、栗原裕氏（越谷駅東口駅前交通広場他）、蓑原敬氏、服部圭郎氏。（ ）内は語って頂く主たる実施プロジェクト。

インタビュアー：プロジェクト主催者。尚インタビューには若い実務者、研究者の積極的な参加を呼び掛ける。JUDI会員以外の参加も期待する。

2. 目的

歩行者空間整備を徹底することで我が国の中心市街地を再構築する、その可能性を探る。

中心市街地における歩行者空間の整備の本来の目的は自分の都市に誇りを持ち、都市を豊かで楽しく、心癒される生活空間とすることであり、総合的な都市計画の基本的な目標とされるべき課題である。都市の一部（商店街など）の賑わいを喚起することや、観光客を呼び込むことなどの商業的な目的は歩行者空間整備のより広範な目的のなかのひとつとして認識されるべきである。それにもかかわらず、今まで我が国の中心市街地の歩行者空間整備はこのような商業的な目的に偏りがちであった。

本インタビューでは都市計画の基本的な課題として歩行者空間の整備に取り組んできたイタリア、ドイツの事例を参考に、改めて我が国の中心市街地の可能性を考える。

3. イタリア、ドイツ中心市街地の理解

2014年度はイタリア、ドイツの主たる都市の歩行者空間の現場を観察することで、歩行者空間の狙いとその結果を以下の5つの視点にまとめた報告書を作成した。その概要を以下に記す（詳しくはJUDIホームページのアーカイブ・プロジェクトを参照）。

【1】歩行者優先ゾーン、3つの類型（図 - 1）

【2】歩行者優先ゾーンによる市街地構成、4つの類型（図 - 2）

【3】歩行者優先ゾーン整備の目的

- ①自動車の使用を減らすCO₂環境対策
- ②みんなで屋外の生活を楽しむ
- ③都市のアイデンティティ中心市街地の活性化

【4】歩行者優先ゾーンのデザイン、9ポイント

前提：自己責任の社会である。道路の段差、標識、付属物がきわめて少ない。

- ①歩行者専用ゾーンには、歩・車道の区分が全くない。
- ②道路占用が決め手。
- ③座って休むところが在る。心が休まる無用の空間がある。
- ④町の中心を感じさせるシンボルがある。
- ⑤商店街、飲食街がある。
- ⑥線（道路）の指定ではなく、面（エリア・ゾーン）の指定である。
- ⑦駐車場が確保されている。
- ⑧バス、トラム、メトロ、TAXIなどの公共交通が良く整っている。

⑨中心市街地に人が住んでいる。

【5】歩行者優先ゾーン整備の歩み(前記HP参照)。

4. 実務経験者へのインタビュー(2015年度)

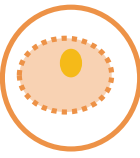
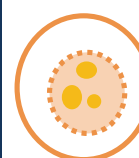
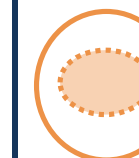
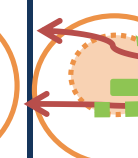
今年度の調査報告を元に、前記の8名の方々にインタビューを行う。インタビューの内容を報告書にして公開する。

図 - 1. 歩行者優先ゾーン3つの類型

写真町はミュンヘンとミラノ

歩行者専用ゾーン	速度制限(30k/h)ゾーン	自動車通行規制ゾーン
		
		
<道いっぱいに道路占用> カフェ、屋台、ベンチ、市場(毎日)	<しばしば歩道を道路占用> カフェ、ベンチ、市場(定日)	<ときどき歩道を道路占用> 店先にカフェ
特定の自動車以外は通行禁止 自転車の通行は概ね可能	自動車の速度を30k/h~5k/hに制限。自転車の通行は自転車道、 <u>車道または歩道</u>	環境基準に適合の自動車のみ進入可。歩行者優先ゾーン全域が対象。自転車の通行は自転車道、 <u>または車道</u>
歩行者最優先で通行区分が無い	区分:自動車 自転車 歩道または自動車+自転車 歩道または自動車 自転車+歩道	区分:自動車 自転車 歩道または自動車+自転車 歩道

図 - 2. 歩行者優先ゾーンの構成4つの類型

歩行者専用ゾーン 集中型	歩行者専用ゾーン 分散型	速度規制 (30k/h) 歩行者優先型	トランジットモール型
			
ポーロニヤ(人口約37万人) フィレンツェ(36) ペルージャ(17) フェッラーラ(14) フォルリ(12) フィッリーネ・ヴァルダルノ(1.7)	ミラノ(130) アレッツ(10)	ウルビー(1.5) サンジョヴァンニ・ヴァルダルノ(1.7)	
ミュンヘ(140) ニュールンベルグ(50) ボン(30) ヴュルツブルグ(13) ポツダム(16) フランクフルト(70)	ケルン(100) バンベルグ(7)	スタンベルグ(2.1)	ベルリン(340) フランクフルト(70)
[市街地] 自動車通行規制ゾーン 伊:ZTL 独:UMBELTO [中心市街地 —歴史的市街地] 30k/h以下の速度制限ゾーン [中核市街地] 歩行者専用ゾーン ヨーロッパの中心市街地の基本パターンは、 「自動車使用を抑制し、人と車が混在する町」であ			

あとがき

今頃になって 2013-2014 年のアニュアルレポートをお届けする怠慢を、深くお詫びします。お叱りを受けること覚悟で、本誌への思いを述べさせていただきます。

都市環境デザインにも不易と流行があります。都市の魅力づくりの本質にかかわる不変・普遍のテーマがある一方で、JUDI 創立以降を振り返るだけでも、仕事の対象領域やソリューションの方向に変化がみられます。しかしながら日々の仕事に追われるなかでは、そのことに気付きにくいのです。今までの仕事を通覧すれば、都市環境デザインの大きなうねりを実感することができるでしょう。過去をちょっと振り返ることで、未来の仕事のヒントを見つけられるかもしれません。

JUDI は、都市環境デザインを生業とするプロの集まりです。切磋琢磨することでそれぞれの仕事の質が向上します。仲間やライバルの仕事を垣間見ることによって刺激が生まれます。そのきっかけに本誌を眺めてみてはいかがでしょうか。小さな写真に思わぬ発見があります。記事の行間を深読みすることも自由です。個々のプロジェクトや活動について詳しいことを知りたければ、会員に直接問い合わせればよいでしょう。

この冊子をプリントアウトして、クライアントとの打ち合わせの時にちらりと見せることで、信頼を深めたり新しい業務が生まれたりするかもしれません。先輩や後輩に、またこの業界をめざす学生たちに、ほんの少しの自慢話ができるかもしれません。

この冊子を、コミュニケーションを深めるためのツールとして使っていただけませんか。会員相互そして会員とクライアント、会員と社会とのコミュニケーションツールとして。

委員長：角野 幸博

コミュニケーション委員会

角野 幸博 / 関西学院大学 (委員長)
伊藤 登 / プランニングネットワーク
栗原 裕 / ユー・プラネット
斎藤 浩治 / Mind-J
酒本 宏 / KITABA
長町 志穂 / LEM 空間工房
中村 伸之 / ランドデザイン
堀口 浩司 / 地域計画建築研究所
飯田 とわ / TowaG・Works

JUDI 都市環境デザイン会議・アニュアルレポート2013-2014

2017年7月発行

発行 都市環境デザイン会議・コミュニケーション委員会
DTP アーバンプランニングネットワーク (永山 哲也)

都市環境デザイン会議

コミュニケーション委員会

東京都北区田端新町 3-14-6 ノザキ G ビル
〒 114-0012

TEL : 03-6240-8827

E-mail : postmaster@judi.gr.jp

URL : www.judi.gr.jp